

第2回 沖縄市交通拠点整備基本構想 検討委員会

日時：2023年5月24日（水）10:00～12:00

場所：沖縄アリーナ 5階フロア

次 第

1. 開会
2. 報告
 - 1) 前回議事要旨
 - 2) バスターミナル×KOZA 講演会の概要
 - 3) 各種調査結果の概要
3. 議事
交通拠点整備基本構想（案）
4. 閉会

○配布資料

- ・ 沖縄市交通拠点整備基本構想庁内連絡会・検討委員会議事要旨……………資料1
- ・ バスターミナル×KOZA 講演会の概要……………資料2
- ・ 各種調査結果の概要……………資料3
- ・ 交通拠点整備基本構想（案）……………資料4
- ・ 沖縄市交通拠点整備基本構想検討委員会設置要綱……………参考資料1
- ・ 沖縄市交通拠点整備基本構想庁内連絡会要綱……………参考資料2

沖縄市交通拠点整備基本構想庁内連絡会・検討委員会議事要旨

第 1 回 沖縄市交通拠点整備基本構想庁内連絡会（議事要旨）

日時：令和 4 年 10 月 19 日（水）15：00～17：00

場所：沖縄市役所 地下 2 階 大ホール

1. 開会

2. 説明

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
観光 スポーツ 振興課	- 北谷町が取り組んでいる空港直結のリムジンバス等、西海岸側での動きを把握し、同レベル以上の機能を考えていく必要がある。 - 観光 MaaS も視野に、機能を検討してほしい。 - 沖縄市観光危機管理計画の観点から、緊急時においても多言語対応できる方が望ましい。 - 交通拠点整備基本構想の方針に防災の視点もあることから、本会に防災課も加えたほうが良いのではないか。	- 各意見について、承知した。引き続き観光の観点から、必要な機能など、今後も提案頂きたい。 - 第 2 回開催に向け検討する。

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
都市整備室 都市計画 担当	- 交通拠点整備基本構想の策定やバスタ整備を進めるにあたり、都市計画担当としての具体的な役割や関係性がわからない。 - 中心市街地活性化計画と連携を図っていく必要がある。 - 本構想は、役割が交通だけでないため、市内部や民間との役割分担が今後必要となるだろう。	- 今後はバスタの都市計画決定、ウォークアブル施策実施の際の役割分担、都市マス、景観計画等との連携を考えている。 - 令和3年度では、中心市街地活性化基本計画や他商店街の施策や成果も踏まえながら、整備方針を整理している。
企業誘致課	- 具体的なスケジュールを示す必要はないか。 - 都市間交流イメージがあるが、具体的にどのような交流、連携をイメージしているのか。 - バスタ機能は、実際のバス利用者に関くことも望ましい。そうするとアンケートを市外等にも実施するほうが望ましいのではないか。 - バスタと駐車場は相反しており、今後整理する必要があるのではないか	- 整備を行うのは国であり、現時点では、スケジュールを示せないとのこと。 - 具体的な移動方法や連携については、今年度行う施設へのアンケートなども踏まえ、検討していく。 - 検討する。 (資料3にて整理) - 経済文化部では来街者駐車場が課題と伺っており、ワークショップでも意見があった。公共交通の利用促進と自家用車利用の駐車場は、P&Rとしての活用も考えられるため、相反するものではないと考えている。

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
プロジェクト 推進室	- アリーナ南側に1400台の駐車場を整備予定。今後の課題は、イベント時は渋滞、非イベント時は駐車場の有効活用である。ターミナルとの連携でこれら課題が解決する可能性もあるため、今後連携していきたい。 - 胡屋地区商店街を KOZA という表記に変更したのはなぜか。 - バスタ機能は、実際の利用者に聞くことが望ましいと考え、アンケートを市外にも実施するほうが望ましいのではないか。 - 世帯主だけでなく実際にバスを利用するだろう高校生など若い人にも SNS 等を活用してアンケートができると良い。 - こどもの国の夜間開放を考えている。飲食(酒)も考えているので、バスターミナルとの連携することで、より楽しんでもらえると考えている。	- 去年はバスタの方針ということで、整備想定位置を加味し「胡屋地区商店街」と記載していた。今回はバスタも含めた周辺の構想とするため、これまで取り組んできたまちづくりで胡屋・中央地区を表現するため「KOZA」と表現した。 - 検討する。 (資料3にて整理) - 検討する。 (資料3にて整理) - 色々なアイデアを踏まえて回遊に繋げていきたい。盛り上げるための空間整備や移動方法等について意見交換したい。

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
政策企画課	- 関係機関の役割が見えにくい。平面図に国、市、事業者等の取り組みを記載するなど、役割を可視化した方がいい。 - 地域の声を集約し構想に反映するにあたっては、諸課題等を踏まえ現実的に実施可能なものにした方がよいと考える。例えば、主体が不明確な状況で駐車場整備に関しての表現を記載すると、市が整備すると誤解を与えかねない。内容が独り歩きしないようコントロールが必要と考える。	- 国とも調整し検討する。 - 構想段階であることから、現時点では理想像を掲げるためにも、WS の意見を可能な限り取り入れている。指摘については理解しているため、今後整理していく。
文化芸能課	市民会館等、施設周辺のウォークアブルについても検討してほしい。	検討する。 (資料4にて整理)
商工振興課	中心市街地活性化基本計画の更新が令和5年度、実施は令和6年度となる。引き続き本構想との連携を図るため、意見交換等を行っていきたい。	

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
道路課	- 交通戦略と今回の構想の位置づけはどうなっているか。 - 道路整備が必要と伺える記載がある。財源は限りがあるため、実施段階等までには利用できる補助制度などの整理が必要だと考える。 - 他からも意見があったが、アンケートは市外にも実施したほうが良い。 - アベニューの相互通行化が令和 6 年度から始まるので、連携してやっていきたい。	- 交通戦略は本構想の上位計画にあたる。 - 今後課題として整理していく。 - 検討する。 (資料 3 にて整理)
公園・みどり課	- パークPFIを活用してアリーナホテルを建設予定、それに併せて公園の出入口を集約化、タクシーやシャトルバスの乗り入れも考えているため、本構想やバスタとの連携が必要だと考えている。 - バス事業者との連携とこの取り組みに対する印象はどうか。 - 那覇向きのバスの出入り等が不便そうだがどう考えているのか。 - アリーナ南側の整備予定駐車場について、基本は公園利用のための駐車場であり、バスターミナルとの連携となると、目的外使用となる可能性もあることから、慎重に整理する必要がある。	- 県が主催するバス事業者との勉強会や県の活性化協議会にて、この取り組みについて説明し意見を頂いており、概ね了承いただいている。引き続き、意見交換を行ってきたい。 - 交通事業者と連携しながら、検討していく。

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
区画整理課	ゲート通りは景観地区に指定されているため、それを踏まえて構想でのルート設定を検討してほしい。	検討する。 (資料4にて整理)

第1回 沖縄市交通拠点整備基本構想検討委員会（議事要旨）

日時：11月9日（水）10:00～12:00

場所：沖縄こどもの国 チルドレンズセンター 2階

3. 開会

4. 議事

（資料1）

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
事務局	- 事務局案として、委員長を池田名誉教授、副委員長を神谷准教授として推薦したい。 - 要綱案について、この内容で進めたい。	（委員一同）異議なし。

5. 報告

（資料2、資料3）

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
沖縄県バス協会 慶田委員	- 観光バス（貸切バス）の待機機能も考えているか。 - 沖縄南ICから高速バスが出てバスタに入るとなると、定時性が下がる。 - 那覇向けのバスもバスタに入ると、速達性や定時性が下がる。バスタ想定位置の反対側に那覇向けの乗降場が必要ではないか。 - 現状、胡屋バス停は運行便数が多く団子状に停車する。うるま市向けのバス全てがバスタに入るとなると、入り口での渋滞も想定されることから、沿道での乗降も検討してほしい。	（事務局） - 場所も含めて、検討したい。（資料4にて整理） - ご意見を参考に、今後検討したい。 （資料4にて整理） - ご意見を参考に、今後検討したい。

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
沖縄県 バス協会 慶田委員	バス事業者からは77番線の折り返し運行も考えたいと聞いており、その際、待機時間が30分程度必要となる。バスの待機場所、運転手の休憩施設等を検討してほしい。	(事務局) バスタ検討位置やその周辺も含めて、検討したい。 (資料4にて整理)
沖縄県 ハイヤー・ タクシー協会 津波古委員	利便性の観点から、バス同様の乗り入れ、上下での配置について検討してほしい。	(事務局) ご意見を参考に、今後検討したい。 (資料4にて整理)
沖縄総合 事務局 開発建設部 建設産業・ 地方整備課 大城委員	構想策定はいつごろか。	(事務局) 今年度で策定を予定。しかし、関係課や本会の意見を踏まえ検討したいので、検討によっては来年になる可能性もある。
沖縄市観光 物産振興 協会 島袋委員	- 拡幅残地の規模で路線バスやタクシー、循環バスなどの結節機能が可能なのか。 - 仮に結節等の機能がその範囲で賄えない場合、商店街部分へバスタの範囲は広がるのか。	(事務局) - バスタは拡幅残地とその後ろの建物がある範囲で想定している。 - 昨年度のWGで、コザ商店街連合会から、まちが削られるといった意識もあると伺っており、そのような意見も踏まえつつ慎重に検討したい。

6. 議事
(資料4)

センター自治会 松田委員	・ 沖縄市の顔となる空間づくりや絵にあるアーケードの今後について、一番街と連携を図りながら、事業を進めていただきたい。	(事務局) ・ ご意見を参考に、今後進めていきたい。
胡屋自治会 島袋委員	・ 提案のルートについて、既存の道路における、歩道、自転車の空間整備や、車が増えないような対策が必要ではないか。	(事務局) ・ 過年度において生活道路への通過交通対策の必要性について整理しており、対応策についても検討したい。
沖縄市社会福祉協議会 上原委員	・ 高齢者が乗りやすい地域に密着した移動手段、例えば介護タクシーなどとの連携も検討してほしい。 ・ 防災情報として、コミュニティFM等の連携も検討いただきたい。	(事務局) ・ ご意見を参考に、今後検討したい。
中の町自治会 照屋委員	・ バスタからアリーナまでの提案道路は社交街であり、子供に歩いてもらうルートとしてはあまり望ましくない。 ・ バスタからアリーナまでの提案道路周辺は、自治会としても月1にクリーン活動を行っているため、ウォークアブルエリアとするなら、今後は社交組合との連携も必要だと考える。	(事務局) ・ ご意見を参考に、別ルート案や複数案ルートを設けることも踏まえ、検討したい。 (資料4にて整理)

沖縄商工会議所 (代理) 大城課長	・ バスターミナル予定地の隣街区に、パソコン教室を運営している。生徒は小学生から高齢者までおり、バスに乗って来訪する生徒もいる。 ・ 賑わいのある拠点と整備方針にあるが機能がわかりにくい ・ オフィスや学習施設、IT に特化した施設をバスターミナルに誘致することを検討してほしい。	(事務局) ・ バスタプロジェクトでは、バスやタクシー等の停留に係る施設は道路管理者で整備できるが、他は整備対象外である。一方で、協力してくれる民間企業や団体等の参画があれば、民間活力により、建物が整備される可能性もある。計画・事業化段階にあたり、ご意見を参考に検討したい。
沖縄総合事務局 運輸部 村上委員	・ バスターミナル整備で利便性が向上し、公共交通の利用促進に繋がることを期待している。 ・ バスタやその周辺に朝夕の通勤などで車利用の方が立ち寄る施設(オフィスや託児所や食品や日用品が購入できる施設など)があると、車から公共交通への利用転換がより促せるのではないかと検討してほしい。 ・ ワークショップの意見で、駐車場機能が挙げられている。パークアンドライドも踏まえ、車と公共交通とでどのような整理を行っていくのか、ウォーカブルなどの考え方も含めて、すみ分けが必要ではないか。	(事務局) ・ ご意見を参考に、今後検討したい。 ・ 駐車場は商店街周辺にも点在しており、その連携も含め、検討したい。 (資料4にて整理)

沖縄総合 事務局 開発建設部 建設産業・ 地方整備課 大城委員	国では「居心地がよく歩きたくなるまちなか」の推進をしており、ウォークアブル推進都市を募集している。整備方針の賑わいの観点からも、沖縄市でもエントリーしていただきたい。	(事務局) ご意見を参考に、今後検討したい。
沖縄県 企画部 交通政策課 山里委員	- 過度な車利用からの脱却に向け、また基幹バスシステムの導入や長期的な鉄軌道について、バスタに期待している。 - 沖縄アリーナにて整備を進めている駐車場やバスタ周辺の駐車場等、公共交通利用推進との整理が必要である。 - 沖縄アリーナは防災拠点としての位置づけも検討されている。そこも踏まえたバスタの検討が必要ではないか。	(事務局) ご意見を参考に、今後検討したい。
琉球大学 神谷 副委員長	- 全国のバスタ事例のほとんどは駅が中心。沖縄市ではバスタという駅をつくろうという部分が全国の取り組みとは異なるため、胡屋の中心としての機能をどう高めていくか、周辺施設の魅力やそのデザインをどのように考えていくかが重要である。 - 本土では駅から1km 圏内は歩くことから、胡屋バスターミナルも周辺1kmは徹底的に歩くことを考えていくことが必要ではないか。	(事務局) ご意見を参考に、今後検討したい。 (資料4にて整理)

	・ KOZA は朝や昼、夜とでまちの雰囲気が変わる。バスターミナルを中心に半径 1～2km 圏内で、時間や曜日を設定し調査し、市やまちづく利関係者、我々も望ましい昼や夜のまちの姿になっているか把握する必要がある。また、キングス等の試合がある際や、来年のバスケットボールのワールドカップ等の人流も踏まえて検討を進めてほしい。	(事務局) ・ 庁内関係部署や関係機関等と連携していきたい。 ・ 関係機関と連携していきたい。
コザまち社中照屋委員	・ 商店街の老朽化と地域の高齢化が進んでおり、バスタ整備が 10 年以上と中長期化が想定される中、地域を担う人材の育成も必要と考えている。施設のみでなく、ヒトとまちづくりを一緒に取り組んでほしい。	(事務局) ・ 地域や関係者等意見交換をしていきたい。
琉球大学池田委員長	・ 拠点性としての空間の広がりを見ると現在のバスタの検討範囲で収まるのか気になる。反対側への広がりとして、拡幅残地を活用し、那覇向けのバス停を検討してはどうか。 ・ アリーナやこどもの国への回遊は、徒歩の移動だけでは厳しい。ライカムとは連携する視点が重要であり、これらの回遊性の担保として、具体の移動手段を考える必要がある。	(事務局) ・ ご意見を参考に、今後検討したい。 (資料4にて整理) ・ (資料4にて整理)

(資料5)

沖縄総合 事務局 開発建設部 建設産業・ 地方整備課 大城委員	・ バスを利用している人や車利用来訪者の意見も重要なのでは。 ・ 将来的なことを考えると若年層の意見も重要では。	(事務局) ・ 来訪者向けのアンケートについて、実施に向けて、規模や時期等を検討したい。 (資料3にて整理)
琉球大学 神谷 副委員長	・ 自宅から歩いてやることが何なのか、どのような目的、距離感だったら歩いてくれるのかがあると、現実的な道筋ができるのではないかと。	(事務局) (資料3にて整理)
沖縄総合 事務局 運輸部 村上委員	・ 普段どのような移動で、どこに移動しているのか把握できると良い。	(事務局) ・ ご意見を参考に、今後検討したい。 (資料3にて整理)

第2回 沖縄市交通拠点整備基本構想庁内連絡会（議事要旨）

日時：令和5年4月25日（火）10：00～12：00

場所：沖縄市役所 地下2階 大ホール

1. 開会

2. 説明

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
経済文化部 文化芸能課	- 資料 3、10 ページ、ビックデータについて、データは 2021 年とコロナ禍のものであり、閉店している店舗も多い状況であった。コロナ明けで営業してる店舗も多くなっており、琉球ゴールデンキングスの試合も観客が満員になる状態になっているが、今の状況下で調査をする予定はあるか。希望としては実施をお願いしたい。 - 商店街から文化芸能課への相談として、商工振興課が管理している無料の公共駐車場の開放、市民会館駐車場のイベントが無い日での開放等の要望があった。現在は相談が急であったこともあり、占有許可は出していない。状況の報告としてお伝えした。	（事務局） - 最新の調査については、今回の業務では予定していない。ただ、県から FIBA ワールドカップに合わせて、人流調査が出来ないかと打診があったので、県に調査をお願いしたいと考えている。 - 駐車場については、引き続き必要性も踏まえ、意見交換をしながら、何か施策を行えるのか一緒に検討をお願いしたい。

3. 議事

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
経済文化部 文化芸能課	資料1のバス協会の意見では、バスの定時性に関する意見が挙げられているが、そのまま意見をくみ取ってしまうとただの大きなバス停になってしまうのではないか。市としては、バスターミナル整備が滞留人口の増加に繋がることに期待している。国や県と連携して、バス事業者を説得するようにしていただきたい。	(事務局) 引き続き国、県と連携してバス事業者へ理解を得ていきたいと考えている。
企画部プロ ジェクト推進 室プロジェクト推進担当	- 各方面への乗り継ぎ機能といった連携が必要ではないか。 - 駐車場の利活用について、まち周辺にある公共駐車場（神縄アリーナ駐車場等）を市内への通勤通学のためのパークアンドライド機能とし、県外・市外から来訪する人のために街中の既存駐車場を活用してらう方向性はどうか。そうすれば、新たな駐車場をつくる必要はないと考える。	(事務局) - 胡屋のバスターミナルを起点に、乗り降りしてもらう仕掛け作りが必要と考えている。シェアリングサービス等の多様なモビリティについて検討していきたい。 - 駐車場について、事務局だけで決められるものではない。ただし、駐車場が欲しいという地域意見があるため、引き続き、バスタ構想・バス利用と絡めながら一緒に考えていきたい。
建設部 区画整理課	16 ページ、「ベンチ等小休止場所の整備」とあるが、全体的に設けるものではないと考える。商店街と接している道路で取り入れるのが望ましいのではないか。	(事務局) ベンチ等に関しては、商店街に接しているところなど、エリアを限定して考えたい。 (資料4にて整理)

発言者	主な質疑・意見	回答・対応等
建設部都市整備室都市計画担当	構想策定後、どのようなスケジュールとなっているのか。実現に向けた流れを教えてもらいたい。上位関連計画への反映なども必要となるのか。	(事務局) - 本構想については、国のガイドラインに沿って行う予定である。ガイドラインでは、構想段階、計画段階、事業化段階、管理運営段階、に分かれており、現在は構想段階にあたる。 - 令和5年度で構想を策定し、その後については国と調整をすることになるが、策定した段階で国と一緒に計画を作っていくことになると考えている。
総務部防災課	資料4、7ページ、防災防犯の向上のなかで、防災情報の発信とあるが、どのように行うのか具体的なイメージはあるか。	(事務局) 7ページの防犯防災機能、10ページの防災機能はリンクしている。待合所のデジタルサイネージを活用し、災害時には防災に関する情報発信を考えている。
経済文化部企業誘致課	バスタに入れるバスについては、事前に国から許可をもらう必要があると考えるが、シャトルバスは許可が貰えるか確認したい。仮にシャトルバスは許可されないのであれば、沖縄アリーナや潮乃森との接続のためにもシャトルバスが必要となるので、許可をもらえるようにしたい。	(事務局) - 今後、具体化していく中で確認していきたい。 (追加補足) - 特定車両停留施設を利用できる車両の種類は、乗り合いバス、貸し切りバス、タクシー・ハイヤーとなっていることから、シャトルバスの運行事業者が一般貸切旅客自動車運送事業主であれば可能であると考えている。

バスターミナル×KOZA講演会の概要

令和5年5月24日（水）

沖縄市 建設部 都市整備室 都市交通担当

概要

(1) 目的

- ・ 地域住民等を対象に、バスターミナル整備の概要の説明と、地域の活性化を踏まえバスターミナル整備に取り組んだ専門家からその事例等について講演いただき、バスターミナル整備に向けた機運醸成を図る。

(2) 基調講演

- ・ 人と地域の魅力をつなぐ“Local Hub”のつくり方（盛岡バスセンターの事例から）

(3) 日時

- ・ 令和5年1月24日（火）19：00～21：00

(4) 場所

- ・ 沖縄市民会館中ホール

(5) 参加人数（定員100名）

- ・ 101名（101名のうち、中央胡屋地区に関わりのある方は91名参加）

概要

(6) プログラム

18 : 30	受付開始
19 : 00	1. 開会のあいさつ (市)
19 : 03	2. バスターミナル整備の概要説明 (市)
	4. 基調講演
19 : 20	『人と地域の魅力をつなぐ“Local Hub”のつくり方 (盛岡バスセンターの事例から)』 講師：岡崎正信【株式会社オガール代表取締役】
20 : 35	5. 質疑応答・アンケート記入時間
21 : 00	閉会



講演内容の概要

- 公共施設の維持費用は多額の費用が必要となる。公共施設生涯コストを100%とすると、約12～18%が建設費・整備費に対して、約80～86%が維持費・修繕費となっている。
- 公共施設を造り維持することについて、時代の変化に多様に変貌する可能性を踏まえ、フレキシブルな建築仕様、ランドスケープの重視、複数コンテンツとの相乗効果が重要。
- 盛岡バスセンターの事例紹介では、人と地域の魅力を繋ぐ結節点として「ローカルハブ」を目指すとして紹介。盛岡バスセンターの役割として、「別に目的がなくとも、そこにいることを許す盛岡バスセンター」がローカルハブの本質であるとされている。
- また、地域課題（都市の再構築、まちの活性化）の解決のため、「行政は民間との連携を加速する」、「盛岡バスセンターを柔軟に使いこなす」の2つの考え方を中心に取り組みが行われていることを紹介。
- 沖縄市のバスターミナルへの期待として、「雑多であり多様であり寛容なバスターミナル」が提案され、古い町並みの活用、食、文化、北部と南部の結節点、レンタカーや那覇空港との連携等が挙げられた。
- バスターミナル整備をきっかけに、地域の関係者が当事者となり、価値を一緒につくっていくことが重要であることが挙げられた。

講演内容の概要（講演会資料より抜粋）

沖縄本島のローカルハブとして

- 通勤や通学に利用する地域の人、子育て中のお母さんやシニア層など近隣の住民、国内外からの旅行者等、幅広い利用者が日常的に立ち寄れるような寛容性のある場をつくりましょう
- 人と地域をつなぐというのは、ハードの問題だけではなく、地域の人とどういう関係を育みながら、この施設をつくっていくか、というプロセスが大事です
- バスという道具（ツール）で地域をつなぎ、バスターミナルが暮らしの一部として使われる空間をどうつくるかを大事に考えましょう
- バスターミナル誕生を機に、地域の皆さんが当事者となって、誇りある価値を一緒につくることが大事です。バスで帰省した島外の若者たちも、県産の美味しいものや街のカルチャーを楽しむことで改めて地元の良さに気づきます
- 新しいバスターミナルが、沖縄市のメディアの当事者になっていく。そんな流れができれば、いい施設になると思います

講演内容の概要（講演会資料より抜粋）

雑多であり多様であり寛容なバスターミナル

- 古い街並みを活かしましょう
- イケている「コーヒー、ワイン、ビール、フード」を活かしましょう
- 音楽・アート、カウンターカルチャーの結節点にしましょう
- 北部と南部の結節点として「交通政策」を大事にしましょう
- 駐車場を併設し、レンタカーとの連携も積極的に図りましょう
- 那覇空港との連携を図りましょう

アンケートの結果

(1) 目的

- ・ バスターミナル整備について、地域住民等の理解度や関心度を把握するとともに、今後の説明会等における取り組み内容等の意向を把握するためアンケートを実施。

(2) 回答数

- ・ 参加者101名中、アンケート回答94件（回収率93.1%）

アンケートの結果概要（抜粋）

サンプル数：94

バスターミナル計画の認知度

- 本市が進めているバスターミナル計画の検討について、「知っていた」が76.6%、「知らなかった」が23.4%であった。

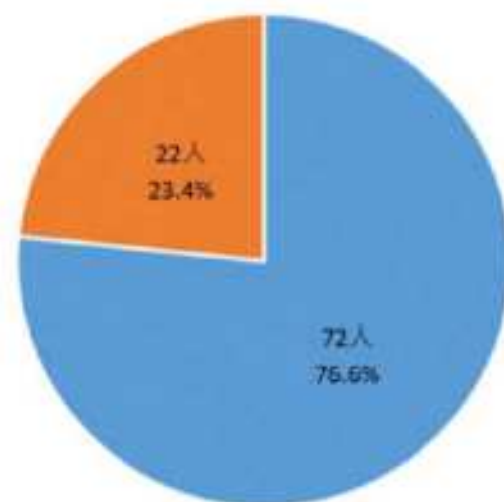
バスターミナル計画やまちづくりの関心度

- 講演会を受けて、関心が高まった方が87.2%、変わらない方が9.6%であり、約9割の方の関心が高まる結果であった。

自由回答

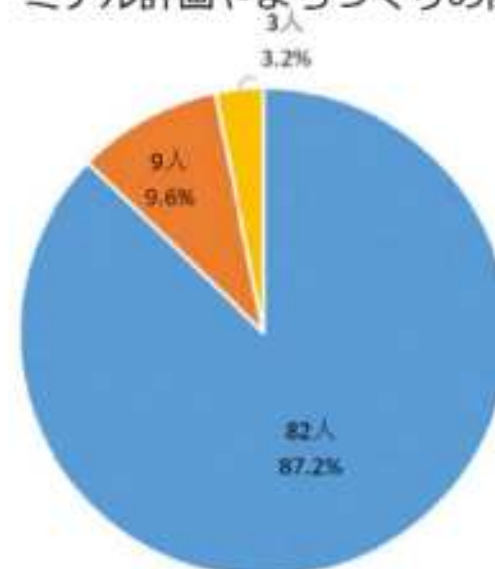
- 主な意見として、基調講演に好感、共感する意見、バスターミナル計画への期待や市民と一緒に進めてほしい意見等であった。

バスターミナル計画の認知度



■ 知っていた ■ 知らなかった

バスターミナル計画やまちづくりの関心度



■ 関心が高まった ■ 変わらない ■ 無回答

各種調査結果の概要

令和5年5月24日（水）

沖縄市 建設部 都市整備室 都市交通担当

項目	内容
①アンケート	A) 胡屋周辺地域住民へのアンケート B) 胡屋周辺地域へ車で来ている人へのアンケート C) 対象施設へ来たことがある人へのアンケート D) 胡屋バス停利用者ヒアリング E) 対象施設管理者へのアンケート
②徒歩移動の現況把握・整理	・ 現地調査 ・ ビッグデータを活用した人流分析
③道路状況の把握・整理	・ 現地調査
イベント時の渋滞状況（参考）	・ 主要施設周辺におけるイベント時の現地状況
上位関連計画等の把握、整理（参考）	・ 資料収集（上位・関連計画、国、県、市の道路・街路事業、まちづくり、区画整理事業等）
関連法の把握・整理（参考）	・ 情報収集（自転車や電動キックボード等の規制状況について、道路交通法改正等を含め状況把握）
交通規制状況等把握・整理（参考）	・ 情報収集（歩行者専用道路、通学路等、交通規制区間について状況把握）

①アンケート

庁内連絡会・構想検討会での意見	調査内容	調査対象想定	調査方法案
(構) 自宅から歩いてやるのが何なのか、どのような目的、距離感だったら歩いてくれるのかがあると、現実的な道筋ができるのではないかと (構) 普段どのような移動で、どこに移動しているのか把握できると良い	地区での調査で確認しているが、聞いた方が望ましい	胡屋周辺地域住民	A. 胡屋周辺地域住民へのアンケート
(庁×他3人) バスタ機能は、実際のバス利用者に聞くことも望ましい。そうするとアンケートを市外等にも実施するほうが望ましいのではないかと (庁) 世帯主だけでなく実際にバスを利用するだろう高校生など若い人にもSNS等を活用してアンケートができると良い (構) バスを利用している人や車利用来訪者の意見も重要なのでは (構) 将来的なことを考えると若年層の意見も重要では	バスタの機能と周辺を回遊したくなる機能	胡屋バス停の利用者 胡屋バス停の利用者(学生) 胡屋バス停の利用者 車で本地域に来ている人 胡屋バス停の利用者(若年層) 将来的に胡屋バスタを利用するだろう若年層	D. 胡屋バス停利用者ヒアリング(現地での聞き取りアンケート) B. 胡屋周辺地域へ車で来ている人へのアンケート D. 胡屋バス停利用者ヒアリング(現地での聞き取りアンケート) 実施不可(対象の抽出が困難)
【その他沖縄市内部意見】施設利用者へのアンケート	バスタの機能と周辺を回遊したくなる機能	アリーナ、こどもの国、市民会館、市役所等へ来たことがある人	C. 対象施設へ来たことがある人へのアンケート

結果概要

項目	目的	対象	結果
A. 胡屋周辺地域住民へのアンケート	バスターミナルの機能や、周辺を回遊したくなる機能について把握する。	胡屋周辺地域（胡屋、仲宗根町、中央、上地）に居住する住民	- 日常の移動では車が中心 - バスターミナルへのニーズは、「分かりやすい乗り降り場」、「トイレ」、「快適な待合スペース」が上位3位 - 地域の賑わい創出であると思うものでは、「昼の賑わい創出（販売店（日用品）、飲食店（カフェ）」、「駐車場」が上位3位 - 地域の賑わい創出の取組では、「歩きやすい・歩いて楽しい道路空間づくり」が最も多い - 各施設への移動手段として、「徒歩」は道のりを楽しむ、「自転車・キックボード」は安全性、「車両」は速達性 - 歩こうと思う時間は、「10～30分」
B. 胡屋周辺地域へ車で来ている人へのアンケート		胡屋周辺地域（胡屋、仲宗根町、中央、上地）へ車で来ている人	- バスターミナルへのニーズ、地域の賑わい創出であると思うもの、取組は、胡屋周辺地域アンケートと同じ - 各施設への移動手段として、「自転車・キックボード」は安全性と道のりを楽しむの割合が同程度 - 歩こうと思う距離は、「5～10分」が増加
C. 対象施設へ来たことがある人へのアンケート		対象施設（沖縄アリーナ、沖縄こどもの国、沖縄市役所、沖縄市民会館、ミュージックタウン音市場、沖縄市立図書館、エイサー会館、沖縄市戦後文化資料展示館とストリート、Lagoon KOZA（ラグーンコザ）、コザ運動公園）に来訪する人（県内）	- バスターミナルへのニーズ、地域の賑わい創出であると思うもの、取組は、胡屋周辺地域アンケートと同じ - 各施設への移動手段として、「自転車・キックボード」は安全性と道のりを楽しむの割合が同程度 - 歩こうと思う時間は、「5～10分」が増加
D. 胡屋バス停利用者ヒアリング		胡屋バス停（上り・下り）の利用者	- 地域の賑わい創出の取組では、「安全安心なまちづくり」 - 歩こうと思う時間は、「5～10分」が最も多い
E. 対象施設管理者へのアンケート	対象施設との胡屋バスターミナルとの連携方法について把握する。	対象施設（沖縄アリーナ、沖縄こどもの国、沖縄市民会館・八重島公園、ミュージックタウン音市場、沖縄市立図書館、エイサー会館、沖縄市戦後文化資料展示館とストリート、Lagoon KOZA（ラグーンコザ）、コザ運動公園）	- 来訪者の移動手段概ね車 - 車以外の移動手段と連携したくてもバス停がない等の課題を抱えている - バスターミナルとの連携アイデアでは、イベントの周知や公共交通利用者への割引等

①対象施設管理者アンケート

施設名	割合	来訪者の傾向	施設や周辺施設に必要なと思われる対策（優先順位の高いモノから3つ）	連携方法に関するアイデア
沖縄アリーナ (R4: 40万人)	市民3 県民6 県外1	【年齢】30代、20代、40代 【構成】大人（夫婦・友人等）、子供（単身・友人等）、1歳以上の子供連れ家族 【手段】 <u>シャトルバス</u> 、タクシー、徒歩	- バス等の車以外との移動手段との連携 - バス停の整備 - タクシー乗り場の整備 - 観光バス等の待機場所の整備	- 施設の情報発信（イベント情報等） - コザ運動公園バスターミナルとのイベント - アリーナ利用者特別割引
沖縄こどもの国 (R3: 36万人)	市民6 県民3 県外1	【年齢】30代、20代、40代 【構成】1歳以上の子供連れ家族、1歳未満の子ども連れ家族、大人（夫婦・友人等） 【手段】 <u>自動車</u> 、レンタカー、タクシー	- 駐車場の整備 - 駐輪場の整備 - バス停の整備	バス利用者割引
沖縄市民会館・八重島公園 (-)	市民7 県民2 県外1	【年齢】50代、40代、30代 【構成】大人（夫婦・友人等）、大人（単身）、1歳以上の子供連れ家族 【手段】 <u>自動車</u> 、徒歩、レンタカー	- バス等の車以外世の移動手段との連携 - 駐車場の整備 - 駐輪場の整備 - 周辺道路のバリアフリー化 - 歩きやすく・楽しい歩道空間の整備 - バスの便数の増加 - バス停の整備	バスの停留所の整備
ミュージックタウン音市場 (R3: 1.5万人)	市民5 県民4 県外1	【年齢】30代、20代、40代 【構成】大人（単身）、大人（夫婦・友人等）、1歳以上の子供連れ家族 【手段】 <u>自動車</u> 、タクシー、路線バス	- バス等の車以外の移動手段との連携 - 駐車場の整備 - 観光バス等の待機場所の整備	- プレイガイド設置（公演チケット販売、各種クーポン配布） - イベントINFOコーナー設置（サイネージ、チラシなど）

①対象施設管理者アンケート

施設名	割合	来訪者の傾向	施設や周辺施設に必要なと思われる対策（優先順位の高いモノから3つ）	連携方法に関するアイデア
沖縄市立図書館 (-)	市民6.9 県民3 県外0.1	【年齢】60代、40代、30代 【構成】大人（単身）、1歳以上の子供連れ家族、1歳未満の子ども連れ家族 【手段】 自動車	・ 周辺道路のバリアフリー化 ・ 歩きやすく・楽しい歩道空間の整備 ・ 周辺の施設案内の整備	
エイサー会館 (-)	市民2.7 県民3.1 県外3.5	【年齢】30代、10代、40代 【構成】1歳以上の子供連れ家族、子供（単身・友人等）、大人（夫婦・友人等） 【手段】 自動車	・ 歩きやすく・楽しい歩道空間の整備 ・ 観光バス等の待機場所の整備	・ バス利用割引
沖縄市戦後文化資料展示館 ヒストリート (R3：0.93万人)	市民2 県民3 県外5	【年齢】10代、60代、50代 【構成】子供（単身・友人等）、大人（夫婦・友人等）大人（単身） 【手段】 レンタカー 、徒歩、自動車	・ 駐車場の整備 ・ バス待ち環境の整備 ・ 観光バス等の待機場所の整備	
Lagoon KOZA（ラグーンコザ） (-)	市民5 県民3 県外2	【年齢】30代、20代、40代 【構成】大人（単身）、大人（夫婦・友人等）、子供（単身・友人等） 【手段】 自動車 、路線バス、レンタカー		・ 施設の告知をターミナルで実施
コザ運動公園 (R3：19.6万人)	市民5 県民4 県外1	【年齢】50代、40代、30代 【構成】子供（単身・友人等）、大人（夫婦・友人等）、1歳児以上の子ども連れ家族 【手段】 自動車 、路線バス、レンタカー	・ バス等の車以外の移動手段との連携 ・ 駐車場の整備 ・ タクシー乗り場の整備	

② 徒歩移動の現況把握・整理

■ 主要施設周辺におけるイベント時の現地状況（沖縄アリーナへ向かう回遊ルート）

- ・ 胡屋から沖縄アリーナへ向かうルートの確認のため、歩行者へヒアリングを行った。（令和5年2月4日）（合計167名）



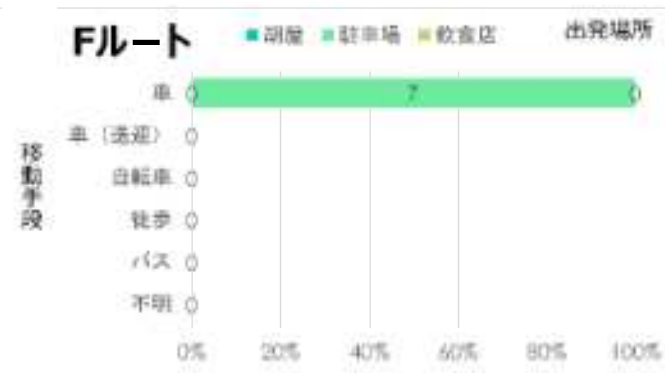
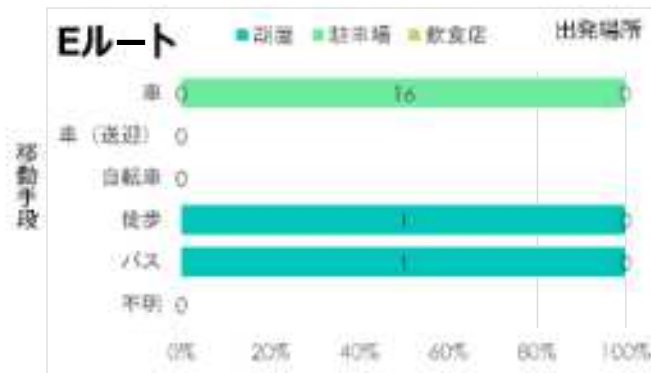
② 徒歩移動の現況把握・整理

■ 主要施設周辺におけるイベント時の現地状況（沖縄アリーナへ向かう回遊ルート）

- ・ **Aルート**では、57名（34.1%）に調査、来訪手段はほぼ車で、飲食店（マック等）から戻ってくる人が大半を占めており、**胡屋からのルートとしてはあまり利用されていないと想定**。
- ・ **Bルート**では、8名（4.8%）に調査、知人宅の駐車場に止めて向かう人が確認された。3名胡屋方面から来る人も確認されたが、**利用する人自体が少ない**。
- ・ **Cルート**（48名（28.7%））、**Dルート**（29名（17.4%））、**Eルート**（18名（10.8%））、**Fルート**（7名（4.2%））では、来訪手段はほぼ車で、**周辺の駐車場から会場へ向かっている人が大半**を占めているため、**胡屋からのルートとしてはあまり利用されていない**。



- ・ **胡屋⇄沖縄アリーナ間を徒歩で来訪する人は少ない**



② 徒歩移動の現況把握・整理

■ 主要施設周辺におけるイベント時の現地状況（胡屋へ向かう回遊ルート）

- 沖縄アリーナから胡屋へ向かうルートの確認のため、歩行者へヒアリングを行った。（令和5年2月4日）（合計162名）



② 徒歩移動の現況把握・整理

■ 主要施設周辺におけるイベント時の現地状況（胡屋へ向かう回遊ルート）

- ・ **Aルート**（11名（6.8%））、**Bルート**（21名（13.0%））から**胡屋へ向かう人は少ない**。
- ・ **Cルート**では、59名（36.4%）に調査、13名が**飲食目的で胡屋に向かっており**、残りは周辺駐車場へ向かっている。
- ・ **Dルート**（48名（29.6%））、**Eルート**（15名（9.3%））、**Fルート**（8名（4.9%））では、**大半が帰宅のために周辺駐車場へ向かっている**。



- ・ 胡屋⇄沖縄アリーナ間を徒歩で来訪する人は少ない



② 徒歩移動の現況把握・整理

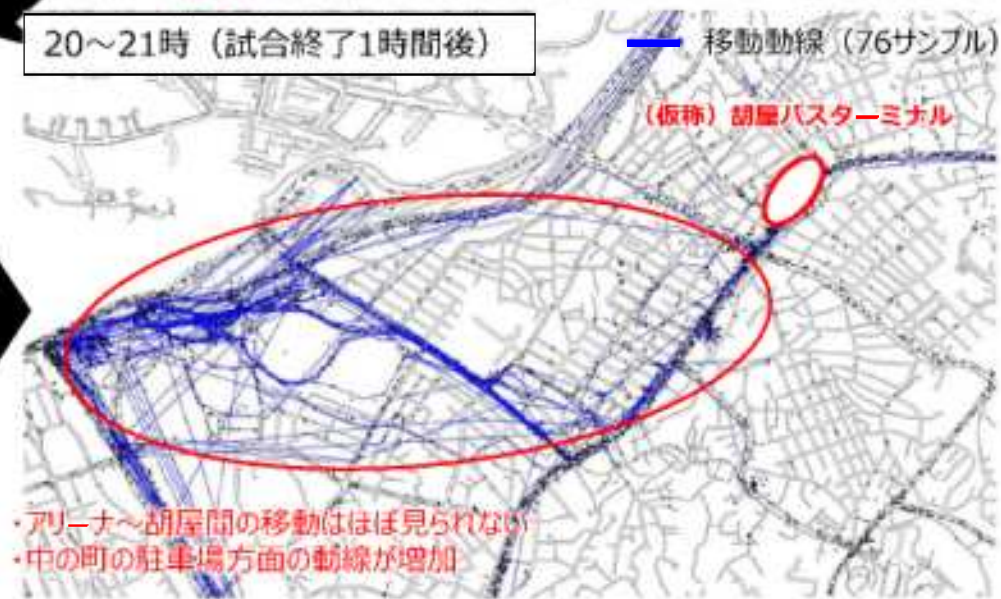
参考) ビッグデータを活用した人流分析 (沖縄県交通政策課より提供)

【データ概要】

- ・ 人流データAgoop (アグープ)
- ・ 沖縄アリーナイベント (2021年11月13、14日) のデータを用いて沖縄アリーナ⇔胡屋間の動線を確認
- ・ 沖縄アリーナ内でデータが取得された人を対象に、移動動線を作成。

【結果】

- ・ 沖縄アリーナ～胡屋間を結ぶ動線はほぼ見られなかった。
(コロナ禍で来訪者の減少の影響、胡屋⇔沖縄アリーナ間の距離が遠く徒歩の需要がない等が想定される)
- ・ 沖縄アリーナへの来訪者は、周辺の駐車場を利用し、徒歩で来ていると想定される。



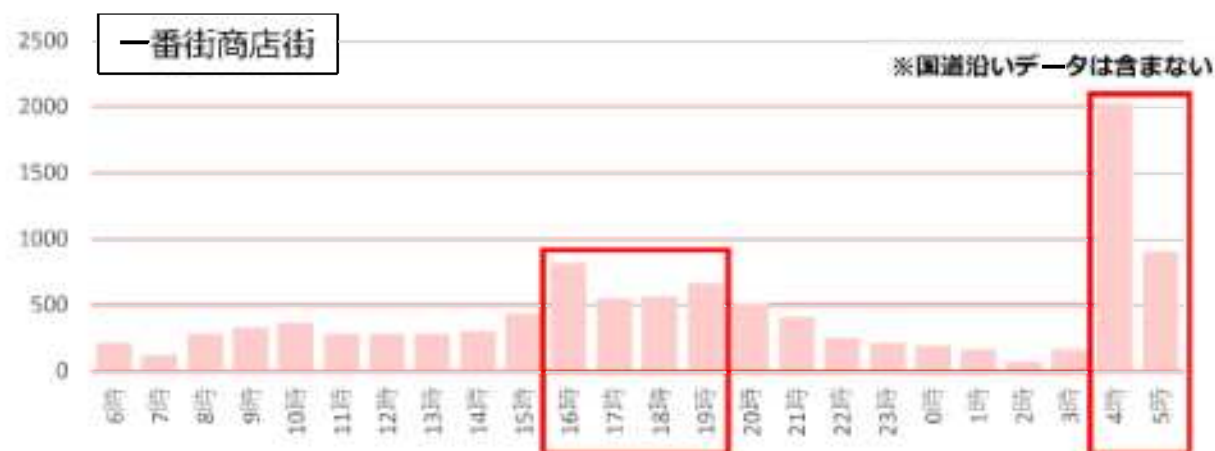
② 徒歩移動の現況把握・整理

参考) ビッグデータを活用した昼、夜の来訪者分布 (沖縄県交通政策課より提供)

【データ概要】2021年11月の県内外来訪者のデータを用いて来訪者の時間別滞在分布を確認

【結果】

- 市内来訪者分布について、一番街商店街では16～19時台、中の町なかどおりでは16～21時台で来訪・滞在がみられる。一番街商店街の朝4～5時については、商店街関係者によるものと想定。

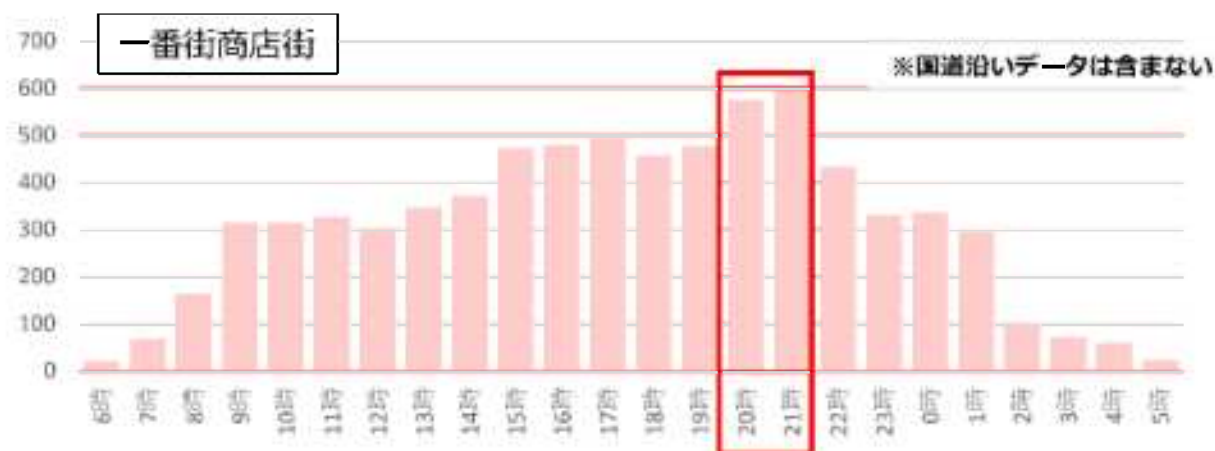


② 徒歩移動の現況把握・整理

参考) ビッグデータを活用した昼、夜の来訪者分布 (沖縄県交通政策課より提供)

【結果】

- 県内居住者で市外からの来訪者分布について、一番街商店街では20～21時台、中の町なかどおりでは16～21時台で来訪・滞在がみられる。

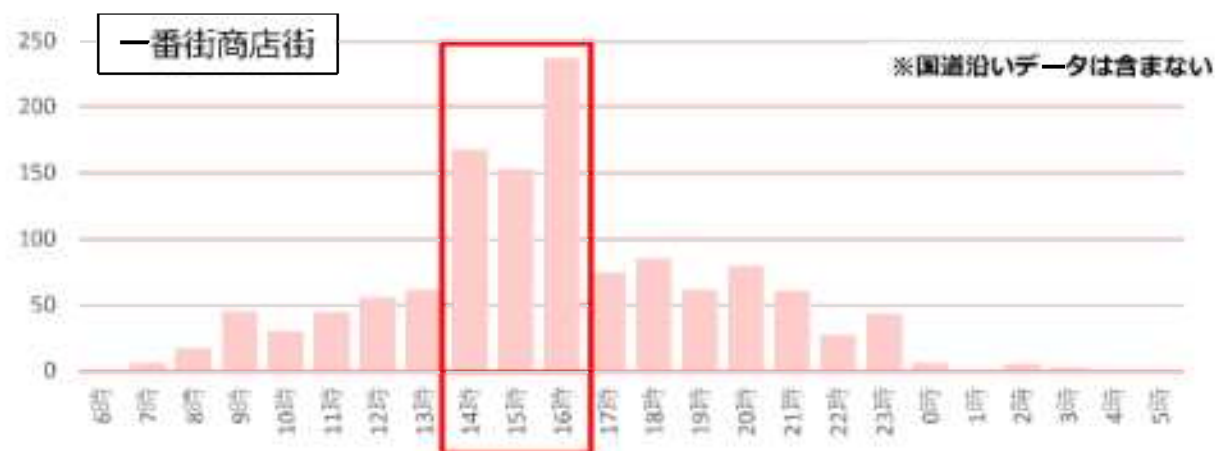


② 徒歩移動の現況把握・整理

参考) ビッグデータを活用した昼、夜の来訪者分布 (沖縄県交通政策課より提供)

【結果】

- 県外来訪者分布について、一番街商店街では14～16時台、中の町なかどおりでは14～17時台、20～23時台で来訪・滞在がみられる。



参考) 昼の顔づくり、夜の顔づくりの取組（胡屋地区商店街まちづくりビジョン）

- ・ コザ商店街連合会が策定した胡屋地区商店街まちづくりビジョン（平成28年3月）では、まちの魅力を創出するための取り組み方針が記載されている。
- ・ 方針として、「個店を磨き昼の顔づくり」として、夜のイメージが強かったコザゲート通りに昼のイメージをプラスするとされている。

■ 個店を磨き昼の顔づくり

これまで夜のまちというイメージが強かったコザゲート通りに昼のイメージをプラスし、朝から快適に楽しめる通りであるという印象をアピールします。そのために、ファサードの整備やディスプレイのアドバイスを受けるなど、個店の魅力を引き出し、商店街のファンを増やします。

・ 魅力的な夜の顔づくり

現在の夜のイメージをより魅力的にするため、ライブハウス・クラブなどと音楽・ダンス教室との連携を図ることにより新たな誘客の取り組みを始めます。また、土地区画整理事業によりライブハウス等の事業が移転することなく継続できるような環境を整備します。

「バトンタッチ」

さらに、ご自分たちの考えるビジョンをより多くの方々、特に賛同し出店してもらいたい方々へ伝えることや、夜の顔から昼の顔もある街に転換して行こうということ、「売る」という機能から「交流から生まれる何か」への展開であり、通りのイメージを残しながら新しく生まれ変わることを期待することです。

③道路状況の把握・整理

■対象ルート of 道路状況把握

- 想定される回遊ルートの道路状況を把握するため調査を行った。

調査対象路線

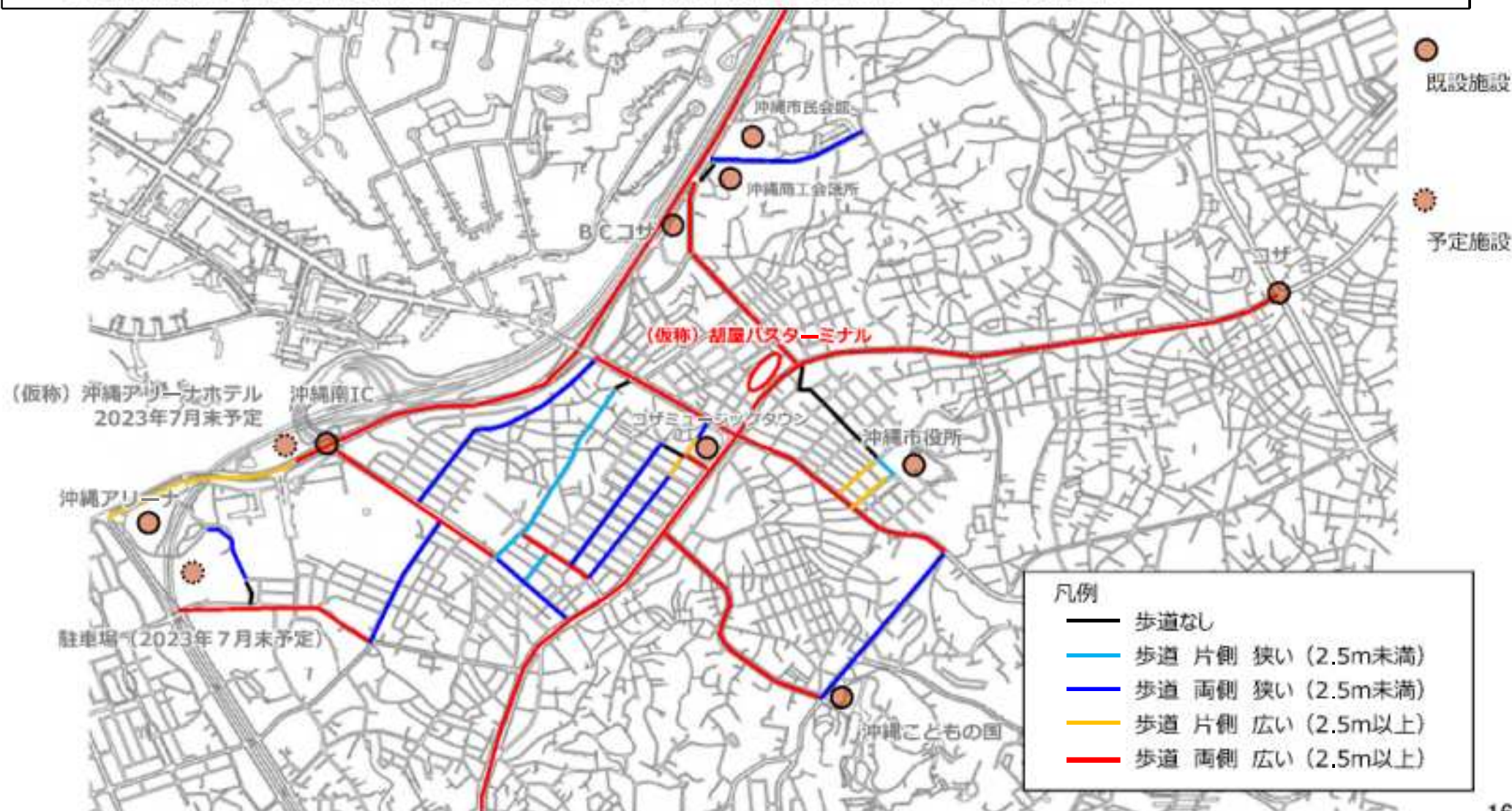
- ① 国道330号（グラウンド通り～コザ十字路）
- ② 県道85号線
- ③ 県道20号線（ゲート通り、くすの木通り）
- ④ 沖縄市道（グラウンド通り）
- ⑤ 沖縄市道（沖縄郵便局通り）
- ⑥ 沖縄市道（こどもの国通り）
- ⑦ 沖縄市道（市役所前の通り）
- ⑧ 沖縄市道（パークアベニュー）
- ⑨ 沖縄市道（中の町なか通り）
- ⑩ 沖縄市道（中の町公民館前の通り）
- ⑪ 沖縄市道（中の町なか通りの隣）
- ⑫ 沖縄市道



③道路状況の把握・整理

■現地調査（歩道整備状況）

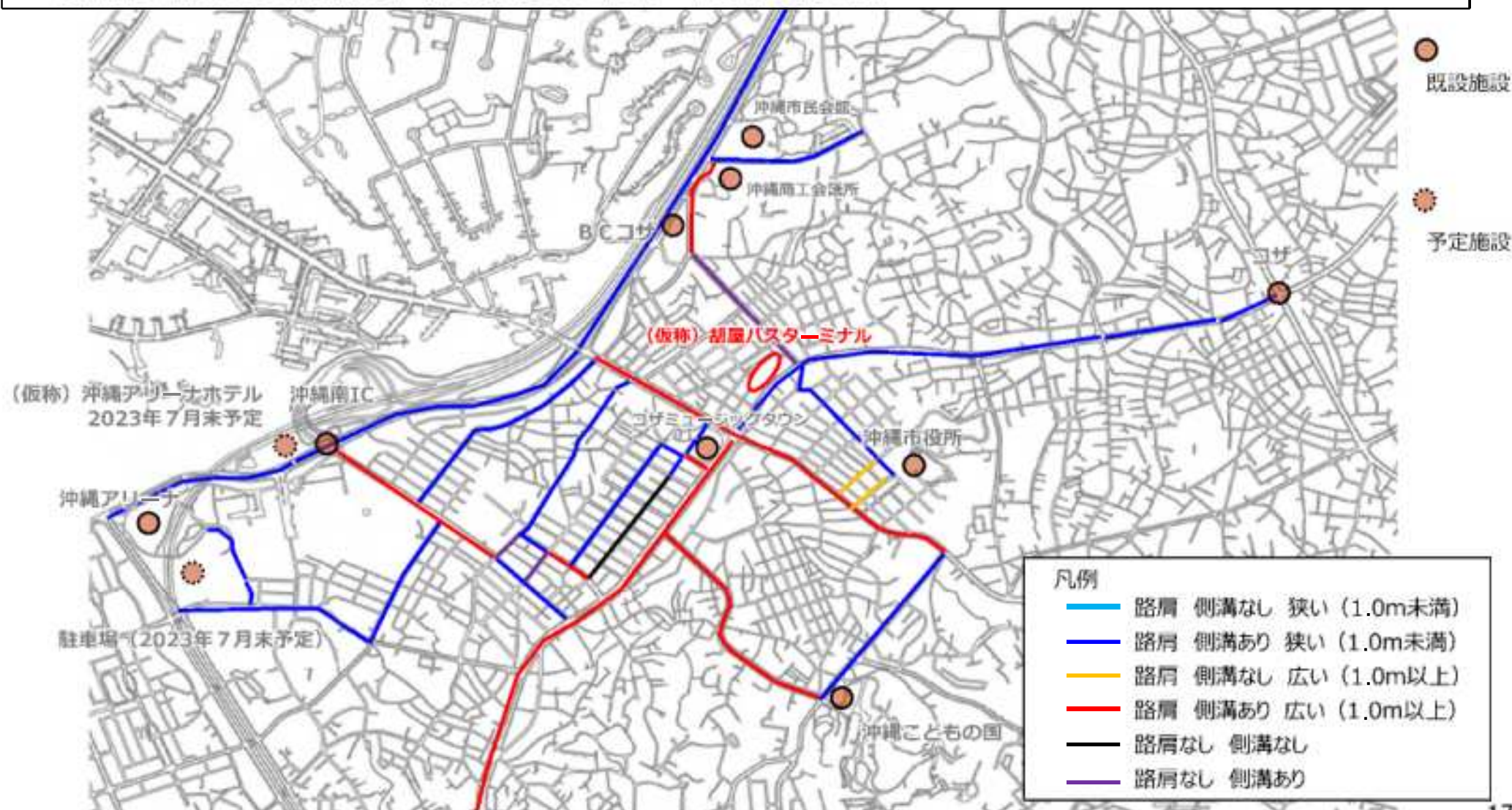
- ・ 想定される回遊ルート of 道路状況を把握するため調査を行った。
- ・ 歩道が両側に整備され幅員が広がっている路線を中心に、設定する回遊ルートの抽出を行った。



③道路状況の把握・整理

■現地調査（路肩整備状況）

- ・ 想定される回遊ルート of 道路状況を把握するため調査を行った。
- ・ 路肩が整備されている路線を中心に、設定する回遊ルートの抽出を行った。



参考

【調査目的】

- ・ バスターミナルの機能や、周辺を回遊したくなる機能について把握する。

【対象者】

- ・ 胡屋周辺地域（胡屋、仲宗根町、中央、上地）に居住する住民

【実施時期】

- ・ 令和4年12月～1月

【調査方法及び部数】

- ・ ポスティングにより、6,000世帯へ配布（市の住民基本台帳より算出）
※空き家、郵便受けがない家等があったため、実際の配布部数は4,820世帯
- ・ 1世帯当たり、検討概要資料1枚、調査票2枚を配布

【回収状況】

- ・ 配布世帯数4,820世帯、回収数494世帯（10.2%）
- ・ 配布枚数9,640世帯、回収数693枚（7.2%）

【結果概要】

- 対象地域の人々は、日常の移動では基本的に車を利用
- 買い物で胡屋周辺に来る場合、ほぼサンエー中の町が目的地
- バスターミナルへのニーズとして、分かりやすい乗り降り場、快適な待合環境（トイレも含む）が多く求められている。
- 地域の賑わい創出であるといいと思うものでは、昼の賑わい創出（販売店（日用品）、飲食店（カフェ））が求められている。一方、駐車場のニーズも高いことから、バスターミナル整備と駐車場施策とのバランスを考えていくことが重要。
- 地域の賑わい創出の取組では、歩きやすい・歩いて楽しい道路空間づくりが多いことから、方向性に問題はないと考えられる。
- 徒歩は道のりを楽しむ、自転車・キックボードは安全性、バス等車両は速達性が求められている。
- 市内の人が歩こうと思う時間は、約10分～30分が多い。
- 買い物、散歩・ウォーキング等、意識しないと歩く環境でないことが想定される。

A. 胡屋周辺地域住民へのアンケート

【日常の移動】⑨あなたの日常の移動についてお答えください。

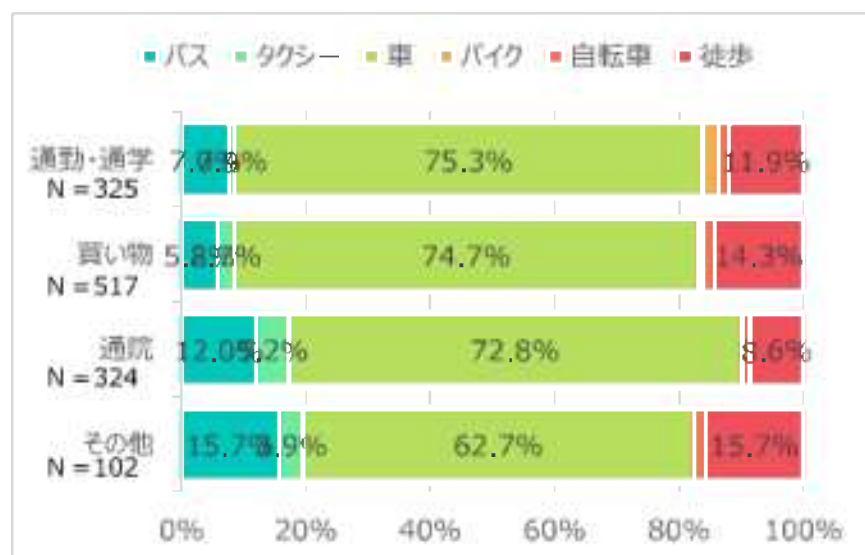
【目的別の日常の移動手段】

- 全ての目的に対して、「車」を選択している人が約7割を占めている。
- 「通勤・通学」、「買い物」においては、「バス」よりも「徒歩」が選択されている。

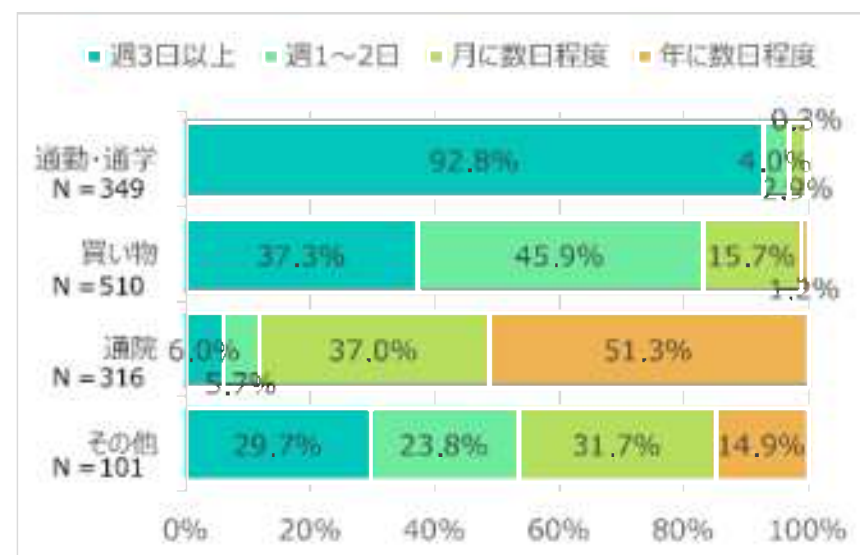
【目的地へ訪れる頻度】

- 「通勤・通学」では「週3日以上」が92.8%（324人）。
- 「買い物」では「週1～2日程度」が45.9%（234人）。
- 「通院」では「年に数日程度」が51.3%（162人）

【日常の移動手段】



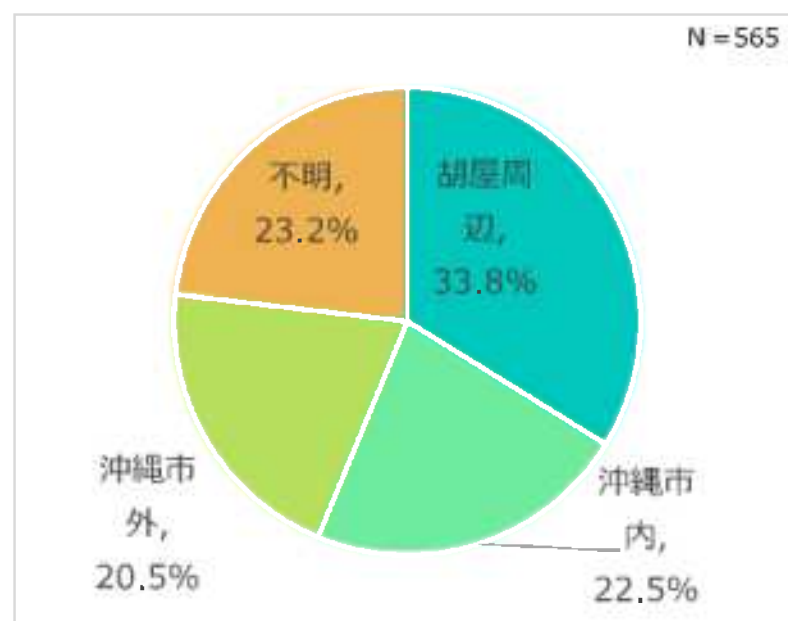
【目的地へ訪れる頻度】



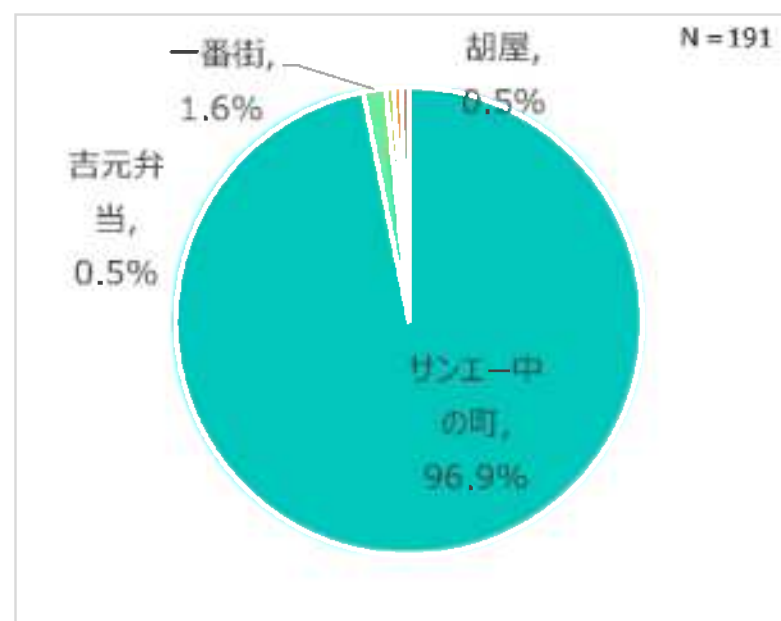
【買い物】

- 買い物の目的地について、「胡屋周辺」が33.8%（191人）、「沖縄市内」が22.5%（127人）、「沖縄市外」が20.5%（116人）。
- 「胡屋周辺」での施設として、最も多く挙げられたのは「サンエー中の町」で96.9%（185人）。

【買い物の目的地】



【買い物の施設】



【バスターミナルのニーズ】⑩バスターミナルにあるといいと思うものをお答えください。

- バスターミナルのニーズで最も多いものは、「行先が分かりやすく、安全な乗り降り場」で78.6%（537人）、次いで「トイレ」75.0%（512人）、「快適な待合スペース」63.7%（435人）となっている。

【バスターミナルのニーズ】

N = 684



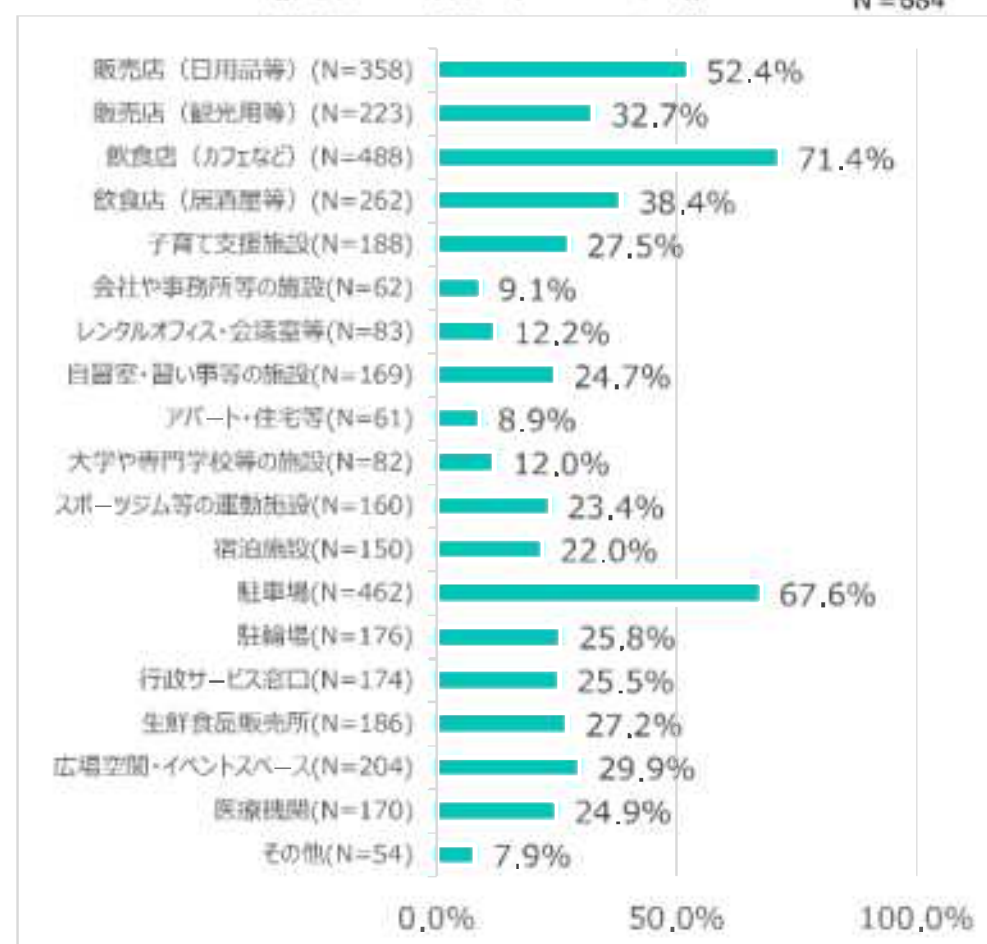
A. 胡屋周辺地域住民へのアンケート

【賑わい創出のニーズ】⑪バスターミナルの整備と合わせ、地域の賑わい創出や活性化に向けて、あなたが必要と思う施設・機能をお答えください。

- 賑わい創出のニーズで最も多いものは、「飲食店（カフェなど）」で71.4%（488人）、次いで「駐車場」67.6%（462人）となっている。

【賑わい創出のニーズ】

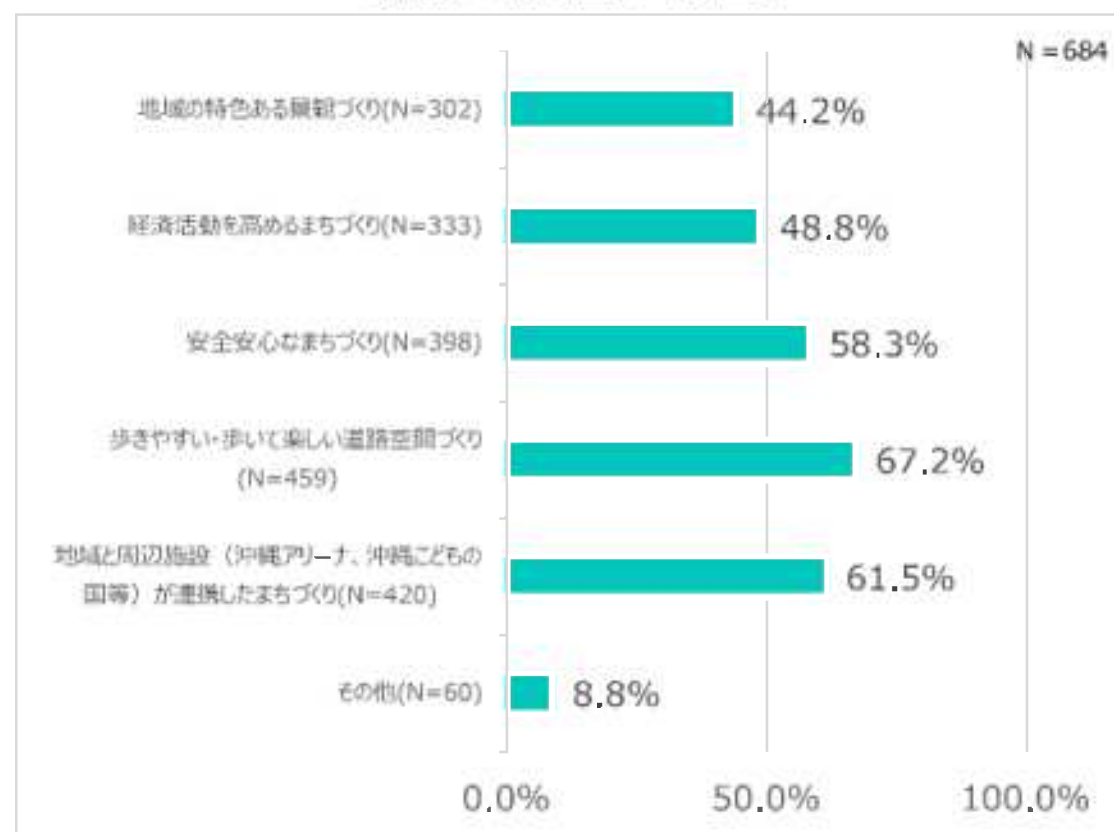
N = 684



【賑わい創出の取組】⑫バスターミナルの整備と合わせ、地域の賑わい創出や活性化に向けて、あなたが必要と思う取組をお答えください。

- 賑わい創出の取組で最も多いものは、「歩きやすい・歩いて楽しい道路空間づくり」で67.2%（459人）、次いで「地域と周辺施設が連携したまちづくり」61.5%（420人）となっている。

【賑わい創出の取組】

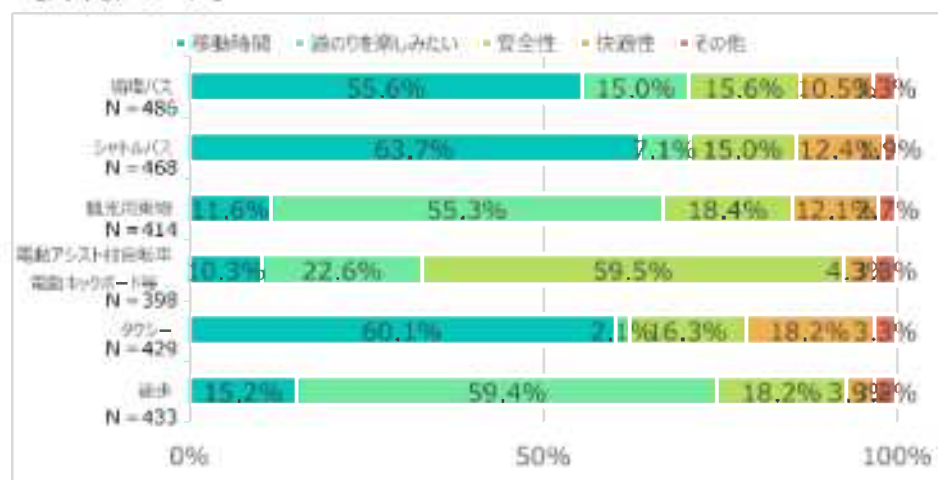


A. 胡屋周辺地域住民へのアンケート

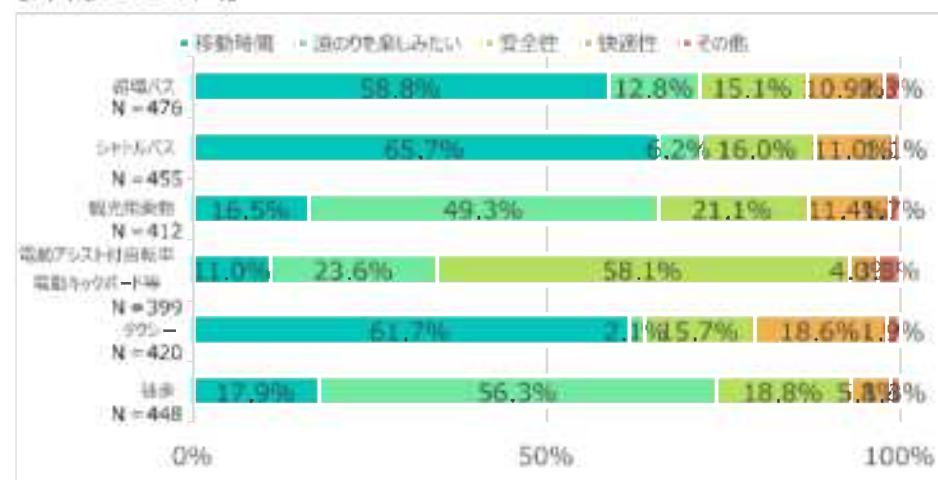
【施設別移動手段の優先事項】③胡屋バスターミナルから各施設へ移動する際、乗り物ごとにあなたが最も優先に考えることは何かお答えください。

- 車両系は「移動時間」、観光・徒歩は「道のりを楽しみたい」が優先されている。一方で、電動アシスト付自転車・電動キックボードでは「安全性」が優先されている。

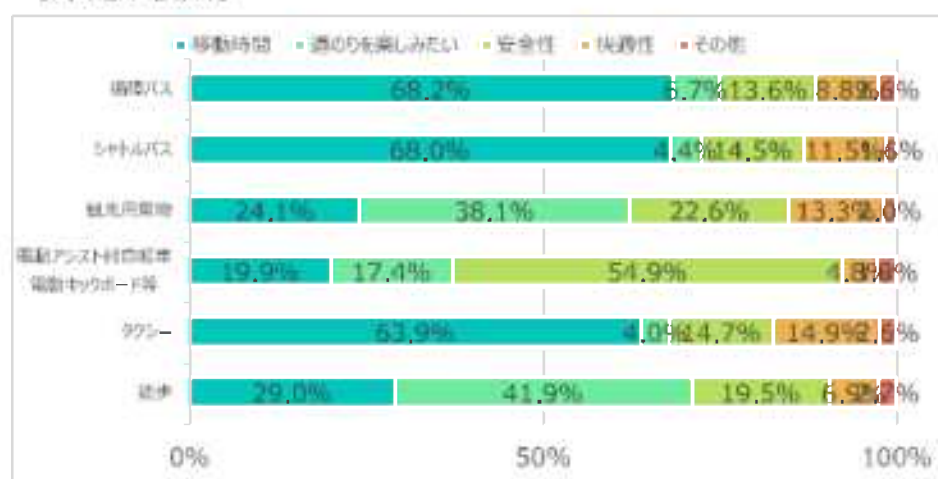
【沖縄アリーナ】



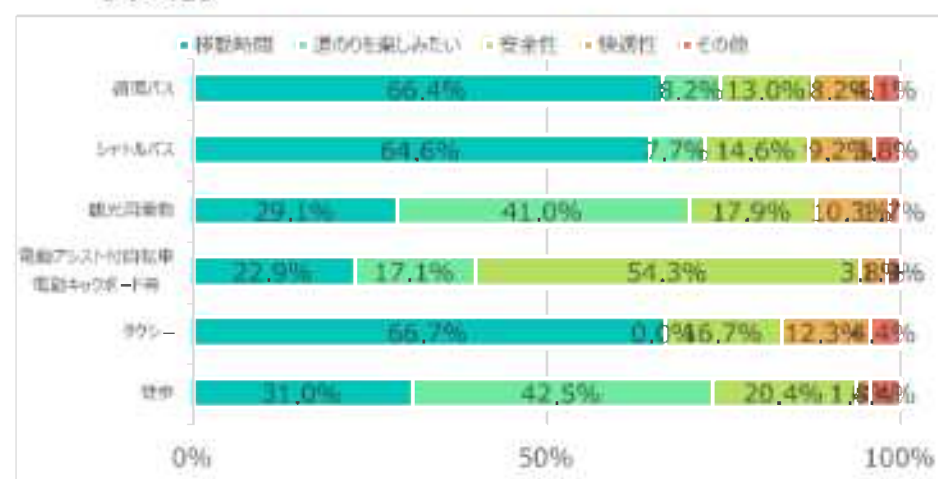
【沖縄こどもの国】



【沖縄市役所】



【その他】



A. 胡屋周辺地域住民へのアンケート

【徒歩での時間】⑭普段の生活でどのくらいの時間までなら徒歩で移動するかお答えください。

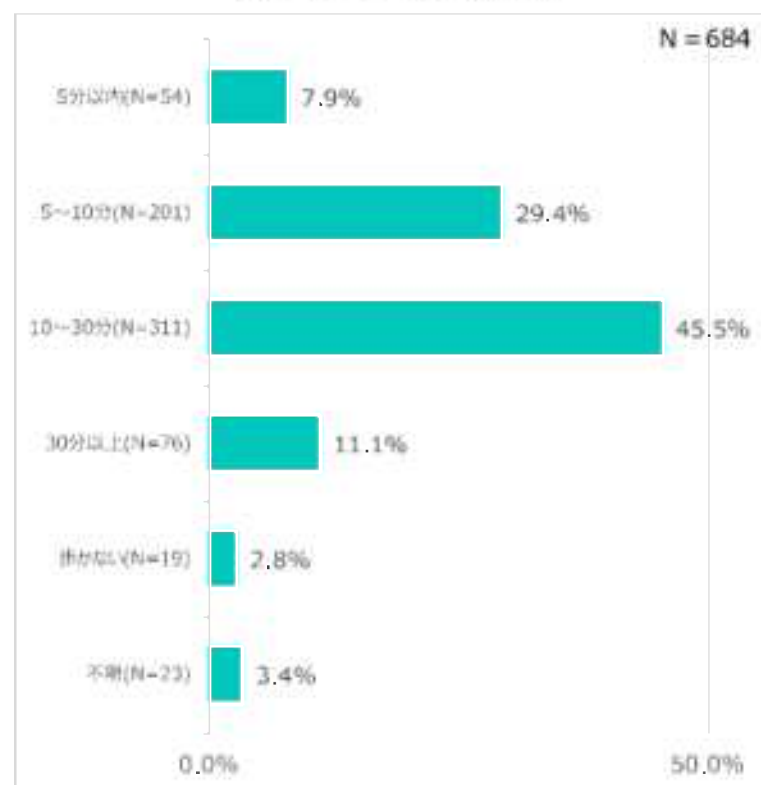
- 回答した人の中で最も多いのは「10～30分」で45.5%（311人）。歩行距離について、速度を高齢者（0.75m/sec）※した場合、最大1.35km、最小0.45kmとなる。

【徒歩で移動する目的】

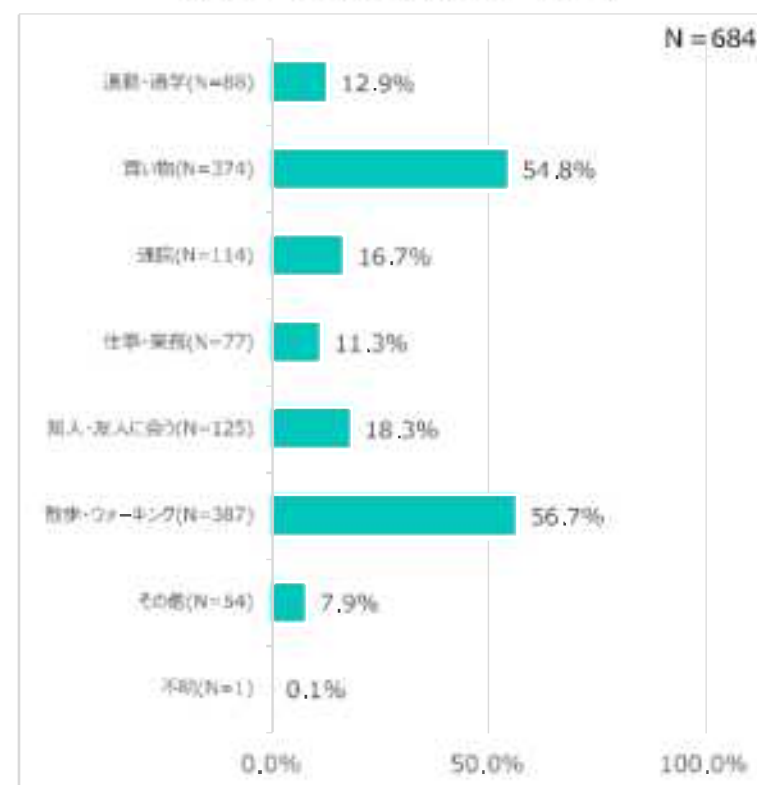
※交通信号の手引き（交通工学研究会）を参考に、歩行者の移動速度を設定

- 「散歩・ウォーキング」と回答した人が56.7%（387人）、次いで「買い物」と回答した人が54.8%（374人）。

【徒歩での時間】



【徒歩で移動する目的】



B. 胡屋周辺地域へ車で来ている人のアンケート 沖縄市

【調査目的】

- ・ バスターミナルの機能や、周辺を回遊したくなる機能について把握する。

【対象者】

- ・ 胡屋周辺地域（胡屋、仲宗根町、中央、上地）へ車で来ている人

【実施時期】

- ・ 令和5年3月

【調査方法】

- ・ Web調査

【回収状況】

- ・ 回収数1,314票（沖縄市に来訪したことがある人）
- ・ 胡屋周辺地域（胡屋、仲宗根町、中央、上地）へ訪れた人は988票（75.1%）
- ・ このうち、車を利用している人は817人（82.7%）

B. 胡屋周辺地域へ車で来ている人のアンケート 沖縄市

【結果概要】

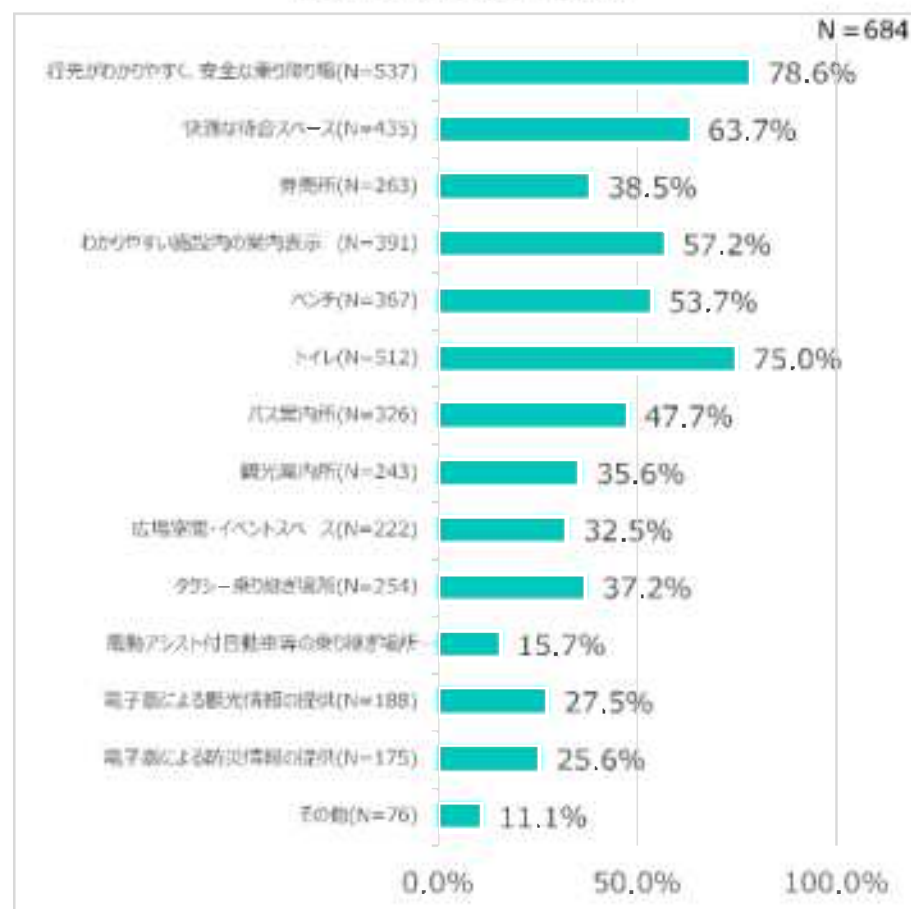
- バスターミナルへのニーズとして、分かりやすい乗り降り場、快適な待合環境（トイレも含む）が多く求められている。
- 地域の賑わい創出であるといいと思うものでは、昼の賑わい創出（販売店（日用品）、飲食店（カフェ））が求められている。一方、駐車場のニーズも高いことから、バスターミナル整備と駐車場施策とのバランスを考えていくことが重要。
- 地域の賑わい創出の取組では、歩きやすい・歩いて楽しい道路空間づくりが多いことから、方向性に問題はないと考えられる。
- 徒歩は道のりを楽しむ、自転車・キックボードは道のりを楽しむと安全性、バス等車両は速達性が求められている。
- 車での来訪者が歩こうと思う時間は、10分～30分の割合が多くなっている。
- 買い物、散歩・ウォーキング等、意識しないと歩く環境でないことが想定される。

B. 胡屋周辺地域へ車で来ている人のアンケート 沖縄市

【バスターミナルのニーズ】⑩バスターミナルにあるといいと思うものをお答えください。

- バスターミナルのニーズで最も多いものは、「行先が分かりやすく、安全な乗り降り場」で75.2%（614人）、次いで「快適な待合スペース」73.6%（601人）、「トイレ」72.0%（588人）となっており、住民アンケートと同様の傾向となっている。

【胡屋周辺住民】



【車で訪来者】

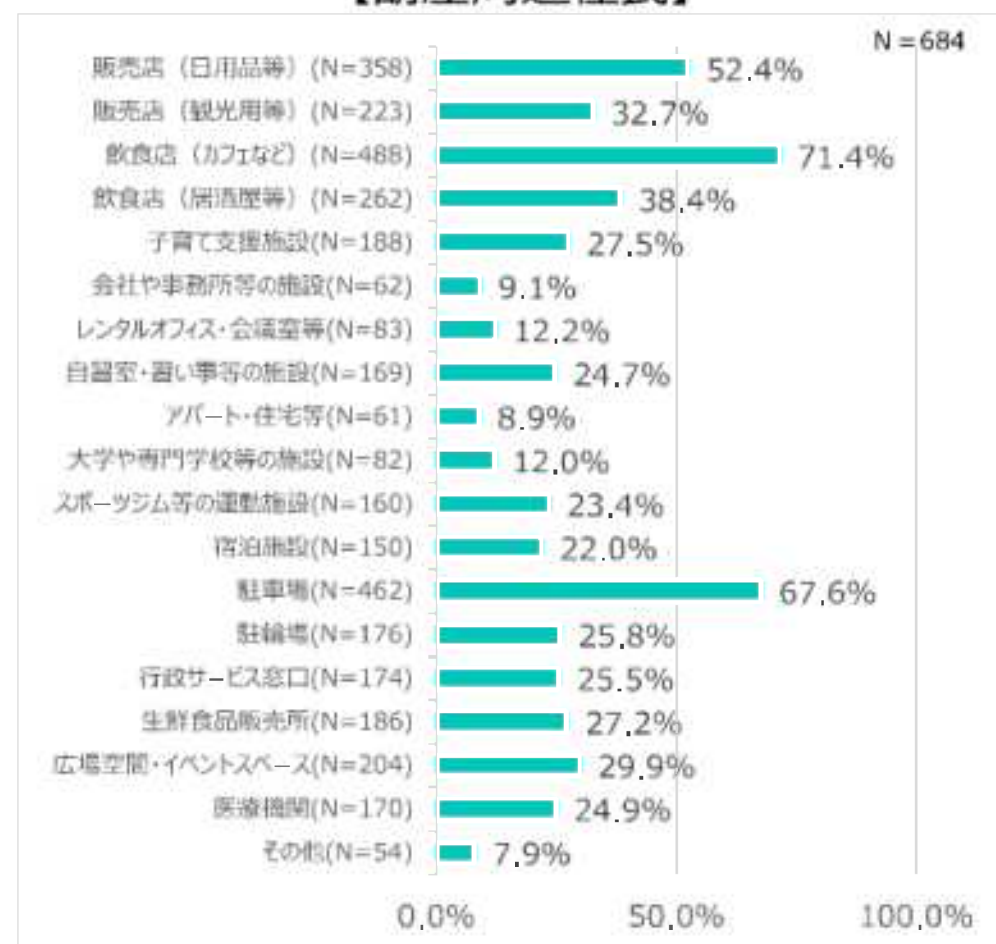


B. 胡屋周辺地域へ車で来ている人のアンケート 沖縄市

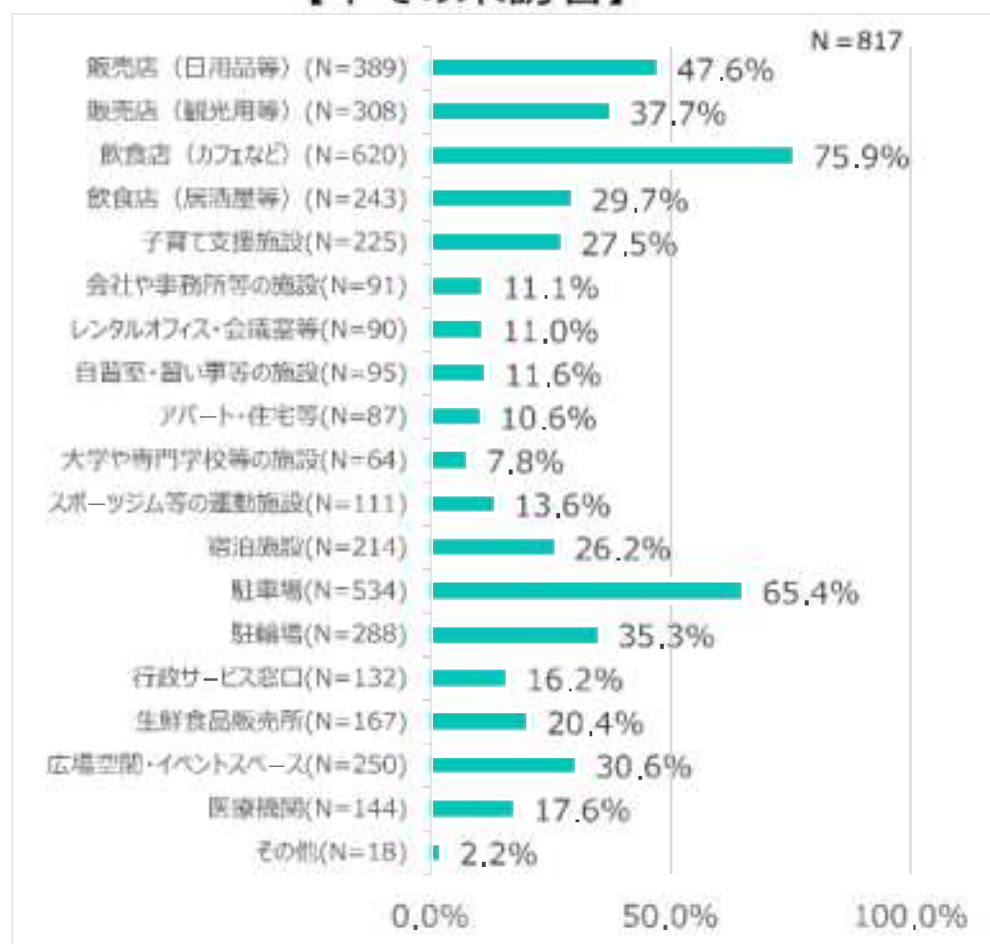
【賑わい創出のニーズ】⑪バスターミナルの整備と合わせ、地域の賑わい創出や活性化に向けて、あなたが必要と思う施設・機能をお答えください。

- 賑わい創出のニーズで最も多いものは、「飲食店（カフェなど）」で75.1%（620人）、次いで「駐車場」65.4%（534人）となっている。

【胡屋周辺住民】



【車で訪来者】



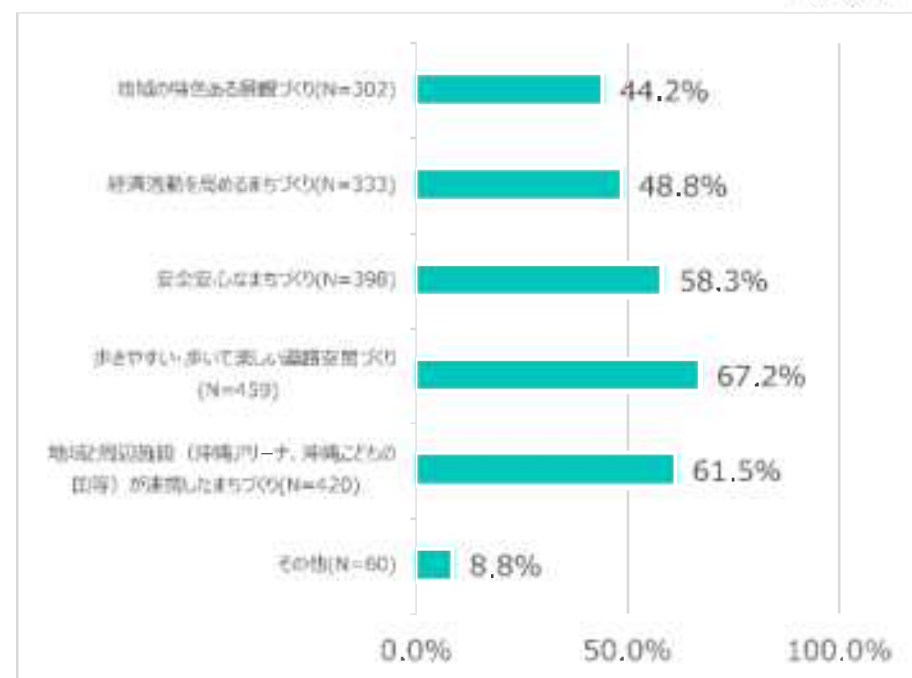
B. 胡屋周辺地域へ車で来ている人のアンケート 沖縄市

【賑わい創出の取組】⑫バスターミナルの整備と合わせ、地域の賑わい創出や活性化に向けて、あなたが必要と思う取組をお答えください。

- 賑わい創出の取組で最も多いものは、「歩きやすい・歩いて楽しい道路空間づくり」で64.7%（529人）、次いで「安全安心なまちづくり」61.5%（522人）となっている。

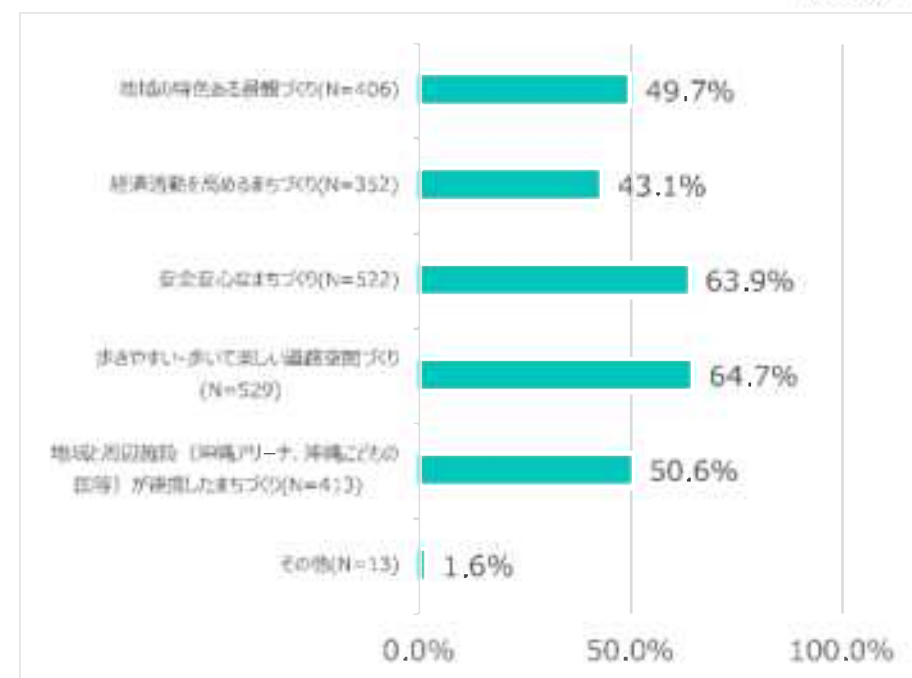
【胡屋周辺住民】

N = 684



【車で訪来者】

N = 817

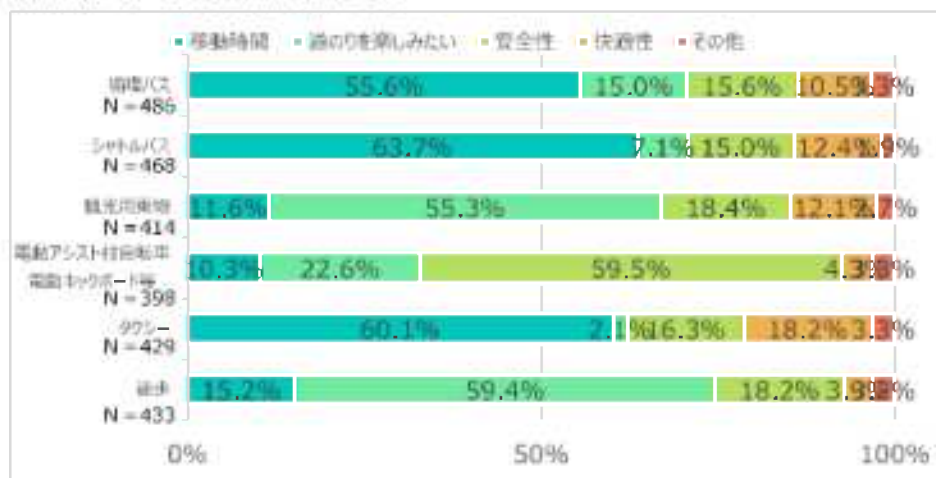


B. 胡屋周辺地域へ車で来ている人のアンケート 沖縄市

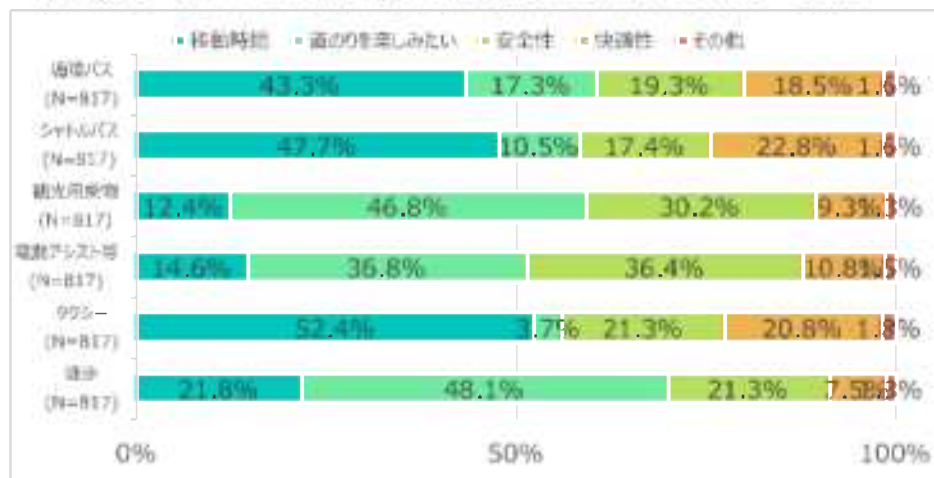
【施設別移動手段の優先事項】③胡屋バスターミナルから各施設へ移動する際、乗り物ごとにあなたが最も優先に考えることは何かお答えください。

- 車両系は「移動時間」、観光・徒歩は「道のりを楽しみたい」が優先されている。一方で、電動アシスト付自転車・電動キックボードでは「道のりを楽しみたい」と「安全性」が同程度となっている。

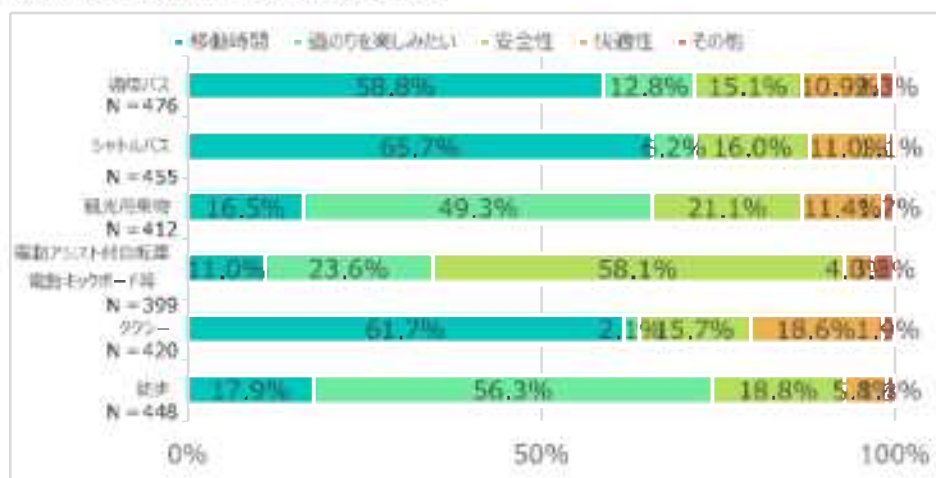
【沖縄アリーナ】胡屋周辺住民



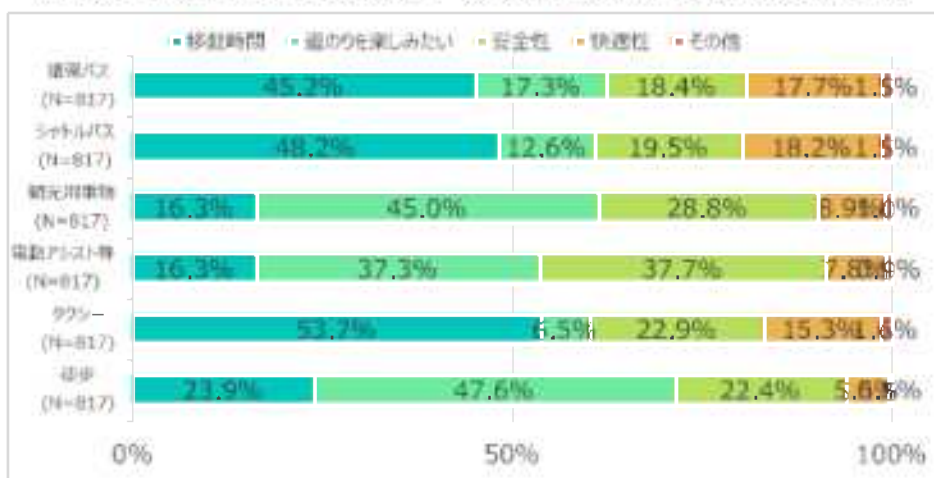
【沖縄アリーナ】車での来訪者 ※必須回答としたため817人すべて回答



【沖縄こどもの国】胡屋周辺住民

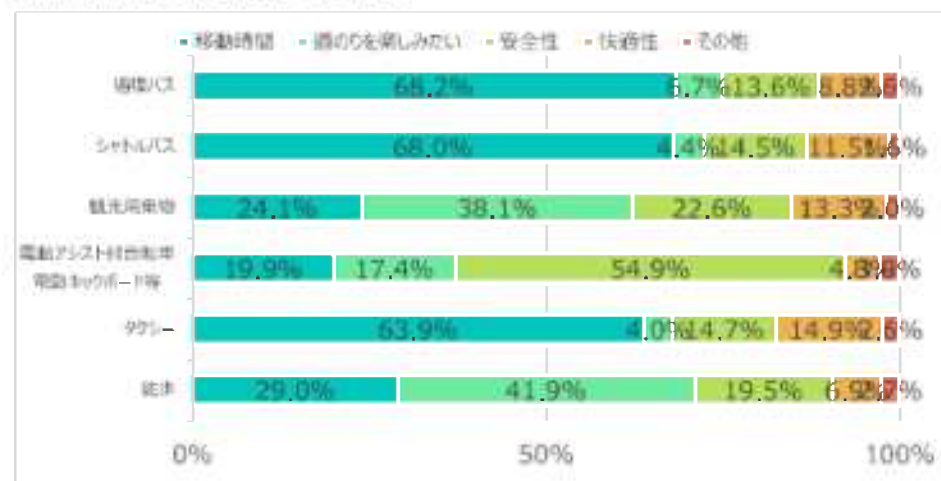


【沖縄こどもの国】車での来訪者 ※必須回答としたため817人すべて回答

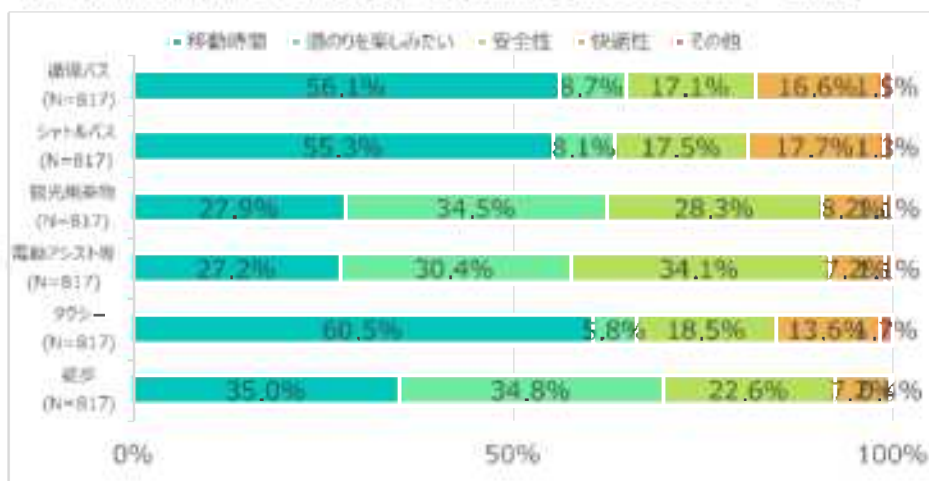


B. 胡屋周辺地域へ車で来ている人のアンケート 沖縄市

【沖縄市役所】胡屋周辺住民



【沖縄市役所】車での来訪者 ※必須回答としたため817人すべて回答



B. 胡屋周辺地域へ車で来ている人のアンケート 沖縄市

【徒歩での時間】⑭ 普段の生活でどのくらいの時間までなら徒歩で移動するか教えてください。

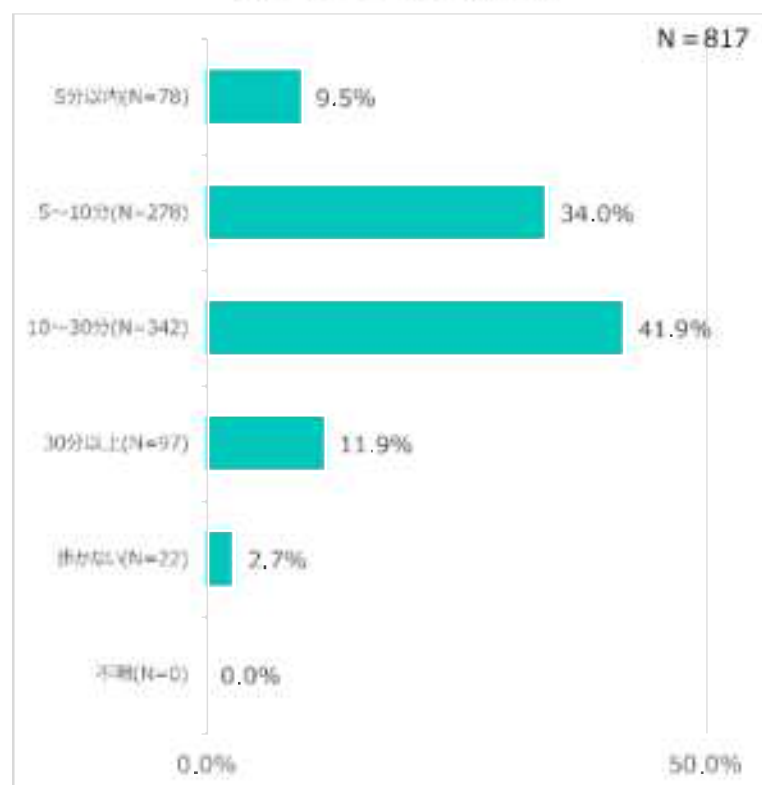
- 回答した人の中で最も多いのは「10～30分」で41.9%（342人）。歩行距離について、速度を高齢者（0.75m/sec）※した場合、最大1.35km、最小0.45kmとなる。

【徒歩で移動する目的】

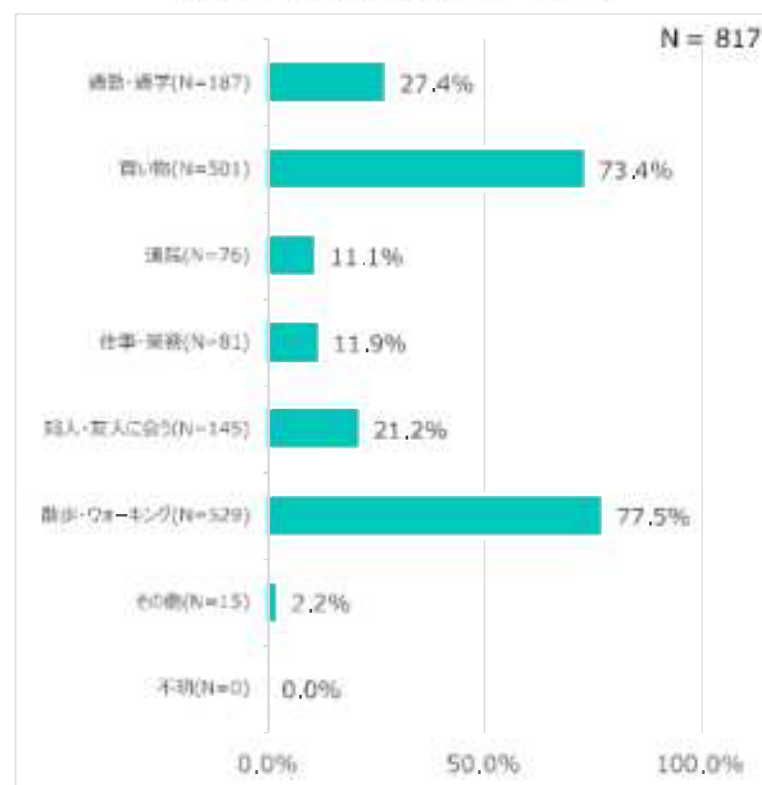
※交通信号の手引き（交通工学会）を参考に、歩行者の移動速度を設定

- 「散歩・ウォーキング」と回答した人が77.5%（529人）、次いで「買い物」と回答した人が73.4%（501人）。

【徒歩での時間】



【徒歩で移動する目的】



C. 対象施設へ来たことがある人へのアンケート

【調査目的】

- ・ バスターミナルの機能や、周辺を回遊したくなる機能について把握する。

【対象者】

- ・ 対象施設（沖縄アリーナ、沖縄こどもの国、沖縄市役所、沖縄市民会館、ミュージックタウン音市場、沖縄市立図書館、エイサー会館、沖縄市戦後文化資料展示館ヒストリート、Lagoon KOZA（ラグーンコザ）、コザ運動公園）に来訪する人（県内居住者）

【実施時期】

- ・ 令和5年3月

【調査方法】

- ・ Web調査

【回収状況】

- ・ 回収数1,314票（県内居住者で沖縄市に来訪したことがある人）
- ・ 対象施設へ訪れた人は962票（73.2%）、施設別の票数は以下の通り。

沖縄アリーナ	沖縄こどもの国	沖縄市役所	沖縄市民会館	ミュージック タウン音市場	沖縄市立図書館	エイサー会館	沖縄市戦後文化 資料展示館 ヒストリート	Lagoon KOZA (ラグーンコザ)	コザ運動公園
173	668	152	86	271	140	53	34	49	321

【結果概要】

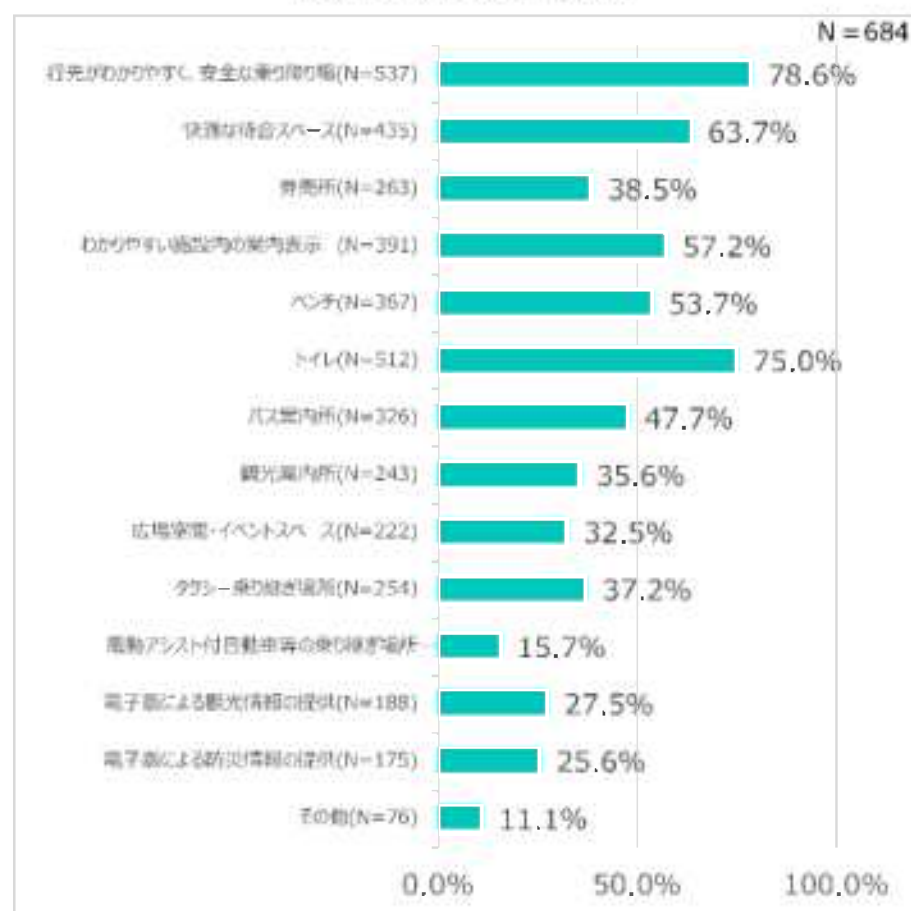
- バスターミナルへのニーズとして、分かりやすい乗り降り場、快適な待合環境（トイレも含む）が多く求められている。
- 地域の賑わい創出であるといいと思うものでは、昼の賑わい創出（販売店（日用品）、飲食店（カフェ））が求められている。一方、駐車場のニーズも高いことから、バスターミナル整備と駐車場施策とのバランスを考えていくことが重要。
- 地域の賑わい創出の取組では、歩きやすい・歩いて楽しい道路空間づくりが多いことから、方向性に問題はないと考えられる。
- 徒歩は道のりを楽しむ、自転車・キックボードは道のりを楽しむと安全性、バス等車両は速達性が求められている。
- 車での来訪者が歩こうと思う時間は、10～30分の割合が多くなっている。
- 買い物、散歩・ウォーキング等、意識しないと歩く環境でないことが想定される。

C. 対象施設へ来たことがある人へのアンケート

【バスターミナルのニーズ】⑩バスターミナルにあるといいと思うものをお答えください。

- バスターミナルのニーズで最も多いものは、「行先が分かりやすく、安全な乗り降り場」で74.3%（715人）、次いで「快適な待合スペース」72.9%（701人）、「トイレ」71.2%（685人）となっており、住民アンケートと同様の傾向となっている。

【胡屋周辺住民】



【対象施設への来訪者】

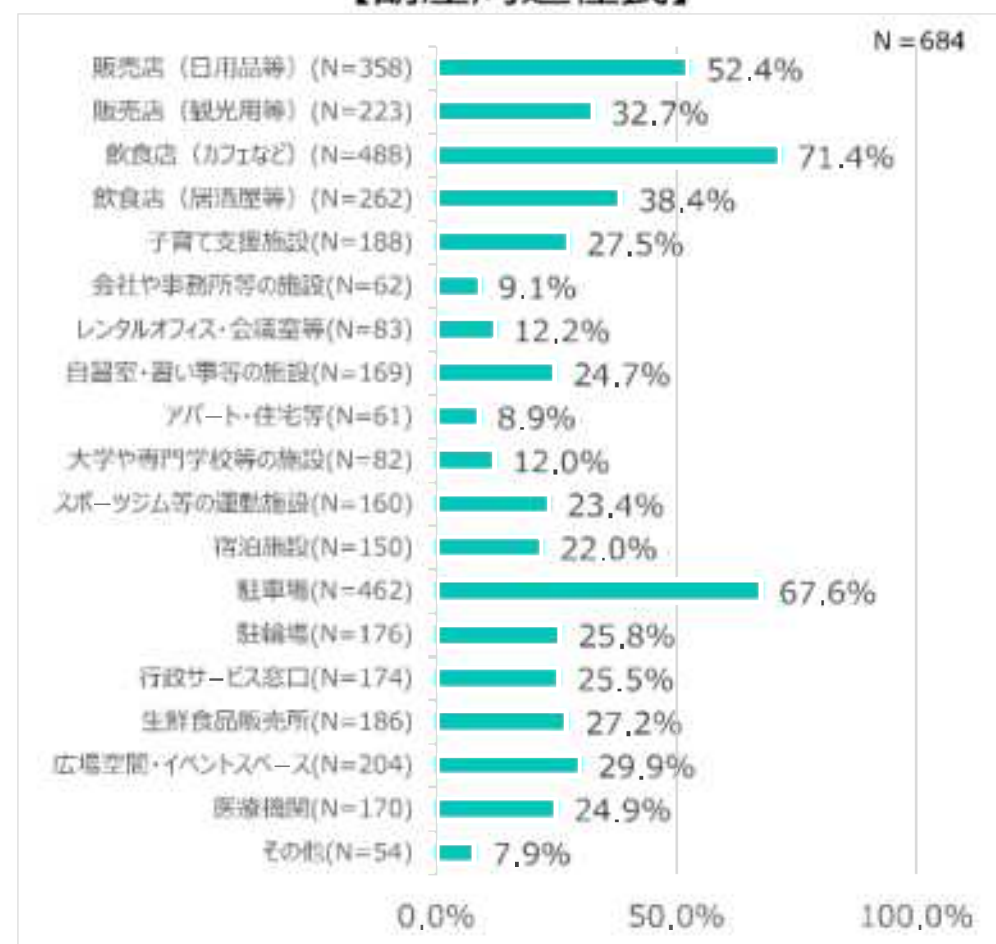


C. 対象施設へ来たことがある人へのアンケート

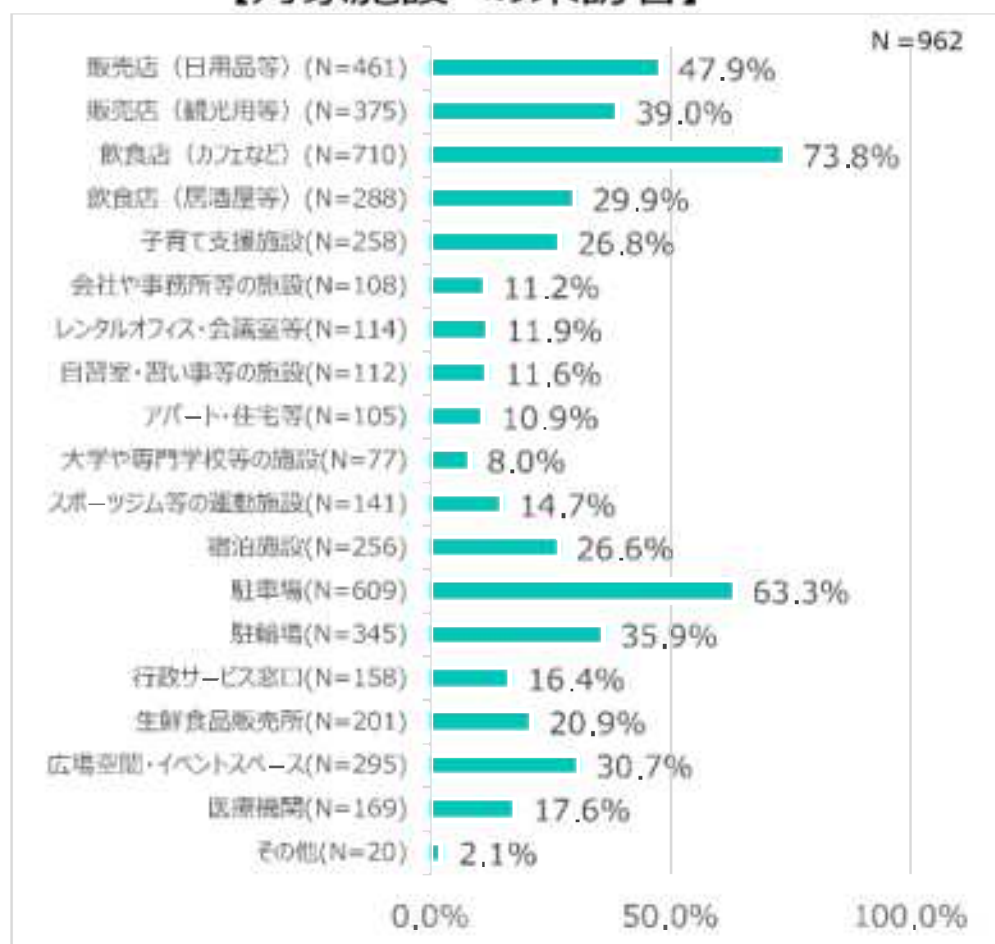
【賑わい創出のニーズ】⑪バスターミナルの整備と合わせ、地域の賑わい創出や活性化に向けて、あなたが必要と思う施設・機能をお答えください。

- 賑わい創出のニーズで最も多いものは、「飲食店（カフェなど）」で73.8%（710人）、次いで「駐車場」63.3%（609人）となっている。

【胡屋周辺住民】



【対象施設への来訪者】



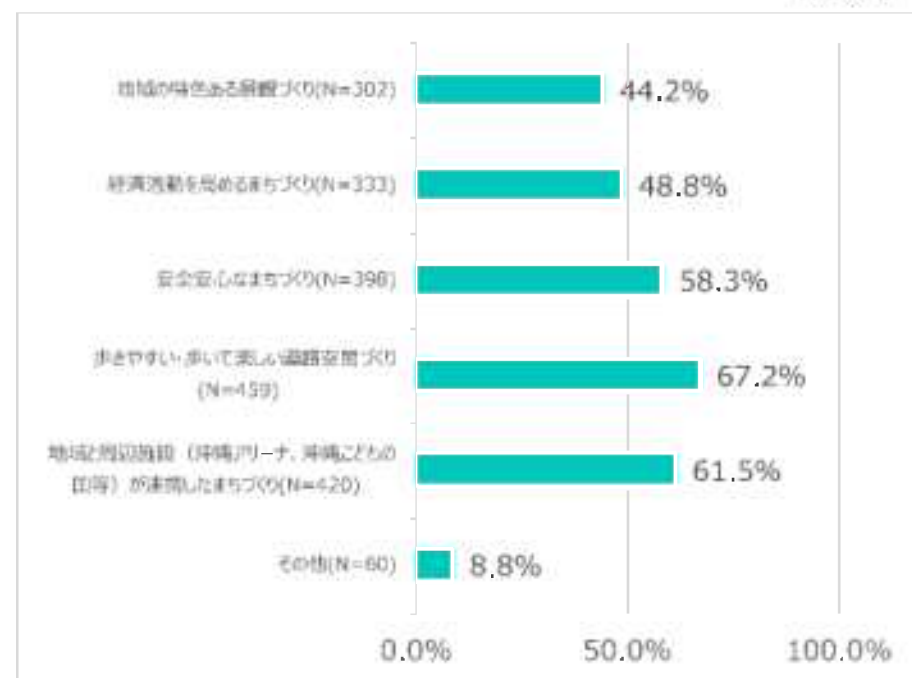
C. 対象施設へ来たことがある人へのアンケート

【賑わい創出の取組】⑫バスターミナルの整備と合わせ、地域の賑わい創出や活性化に向けて、あなたが必要と思う取組をお答えください。

- 賑わい創出の取組で最も多いものは、「歩きやすい・歩いて楽しい道路空間づくり」で63.5%（611人）、次いで「安全安心なまちづくり」63.2%（608人）となっている。

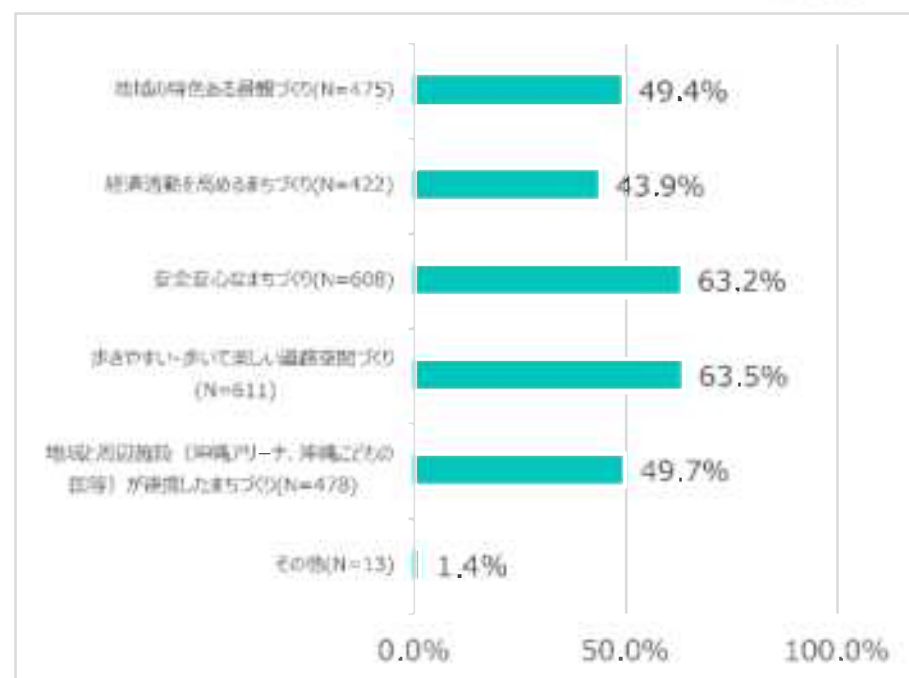
【胡屋周辺住民】

N = 684



【対象施設への来訪者】

N = 962

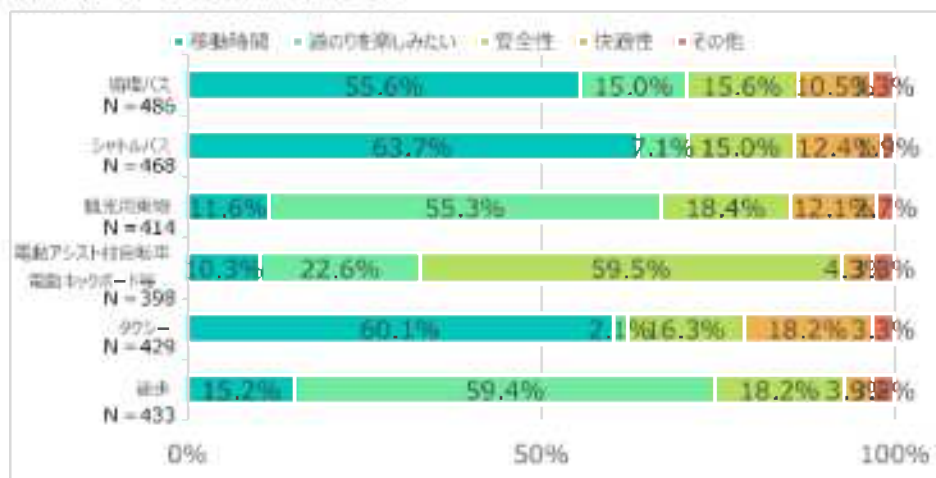


C. 対象施設へ来たことがある人へのアンケート

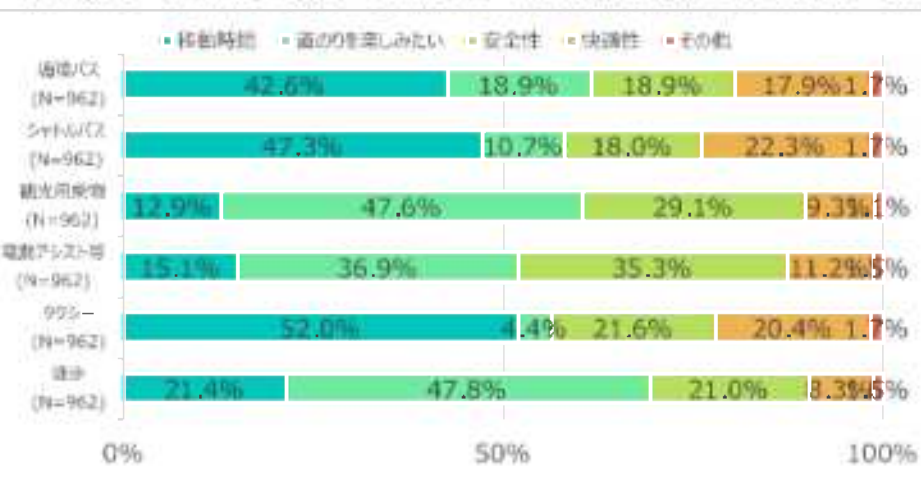
【施設別移動手段の優先事項】③胡屋バスターミナルから各施設へ移動する際、乗り物ごとにあなたが最も優先に考えることは何かお答えください。

- 車両系は「移動時間」、観光・徒歩は「道のりを楽しみたい」が優先されている。一方で、電動アシスト付自転車・電動キックボードでは「道のりを楽しみたい」と「安全性」が同程度となっている。

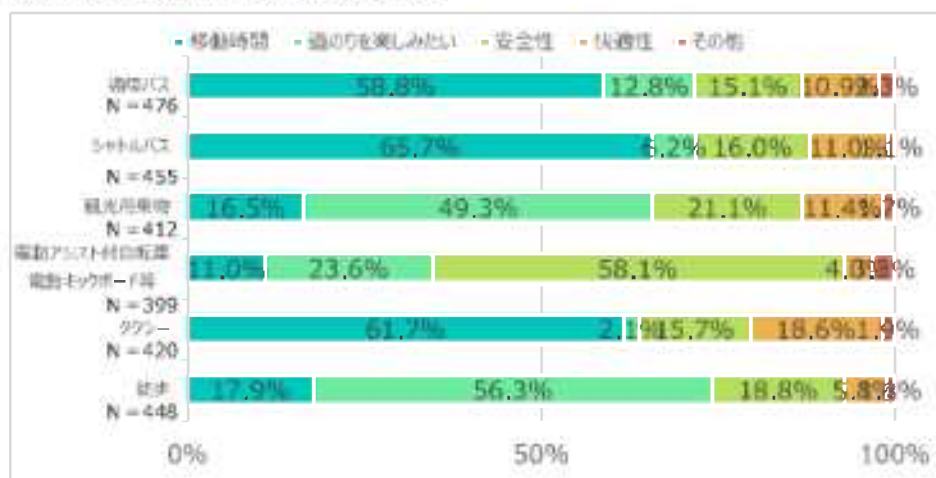
【沖縄アリーナ】胡屋周辺住民



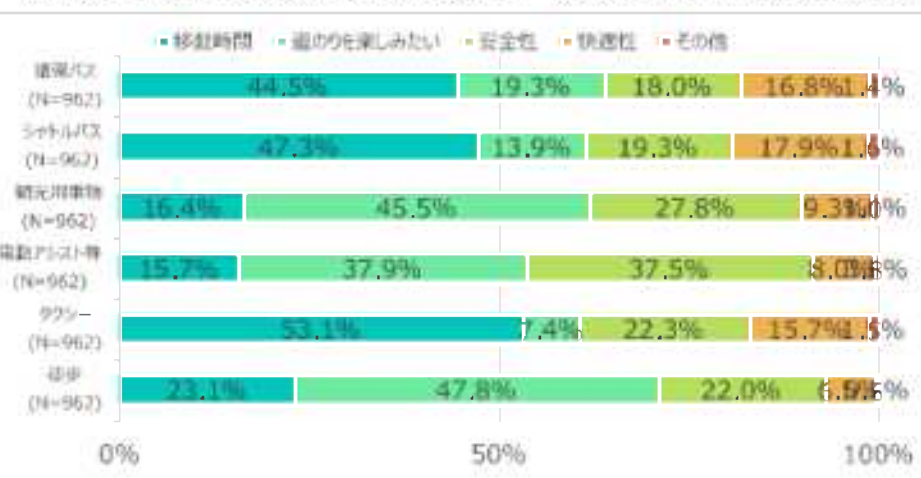
【沖縄アリーナ】対象施設への来訪者 ※必須回答としたため962人すべて回答



【沖縄こどもの国】胡屋周辺住民

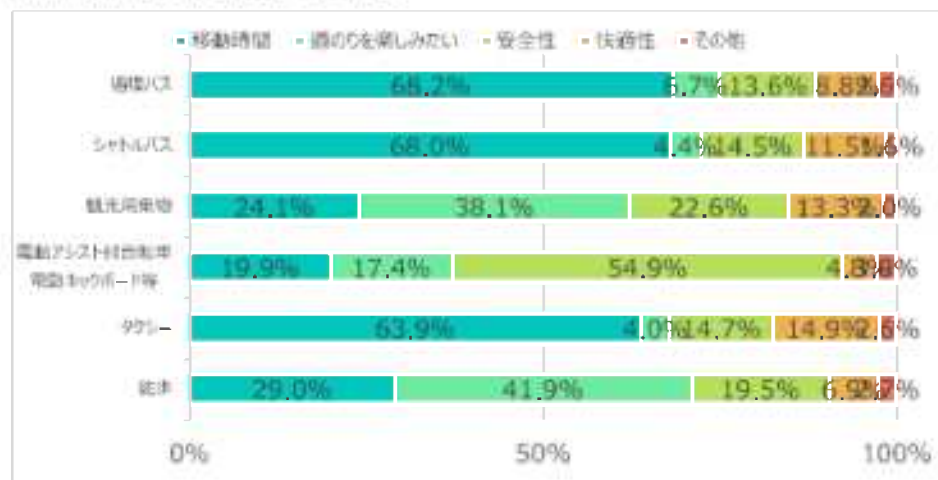


【沖縄こどもの国】対象施設への来訪者 ※必須回答としたため962人すべて回答

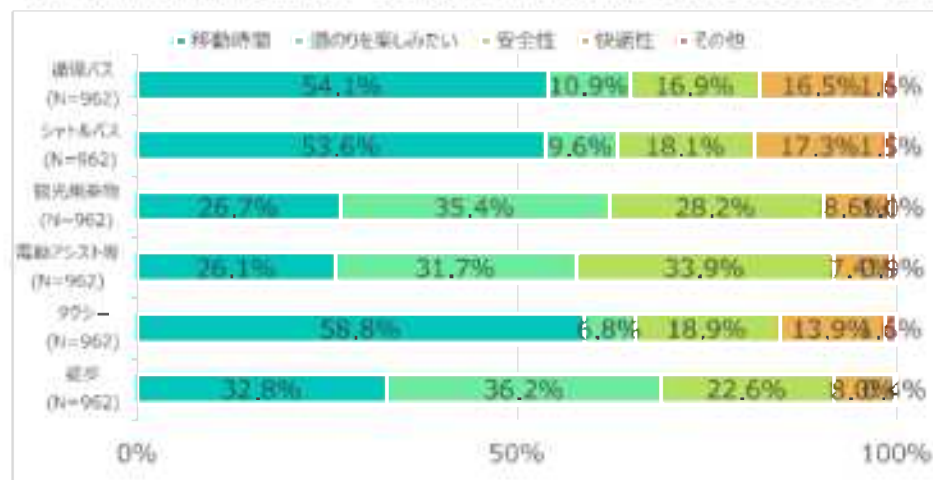


C. 対象施設へ来たことがある人へのアンケート

【沖縄市役所】胡屋周辺住民



【沖縄市役所】対象施設への来訪者 ※必須回答としたため962人すべて回答



C. 対象施設へ来たことがある人へのアンケート

【徒歩での時間】⑭ 普段の生活でどのくらいの時間までなら徒歩で移動するか教えてください。

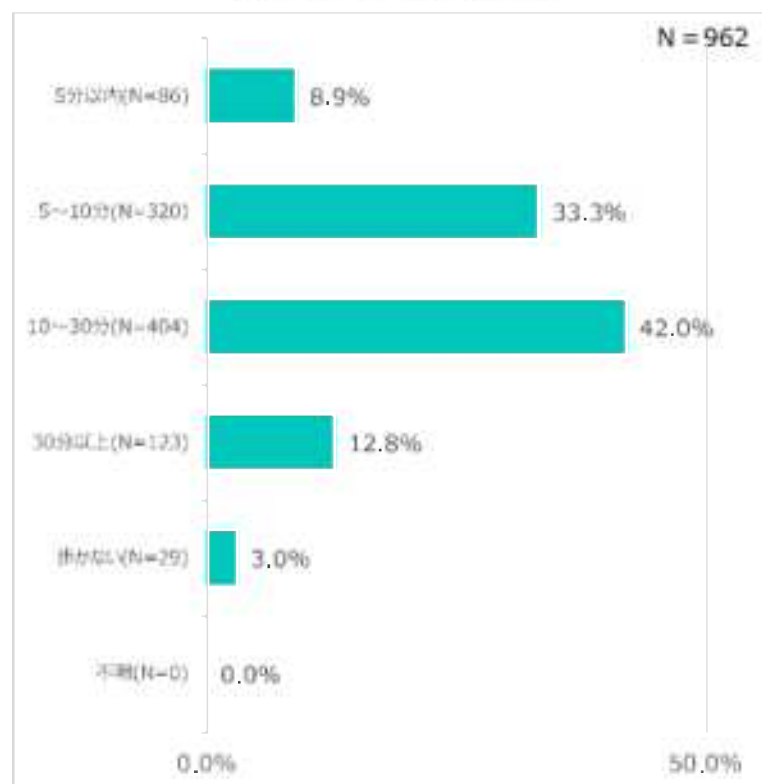
- 回答した人の中で最も多いのは「10～30分」で42.0%（404人）。歩行距離について、速度を高齢者（0.75m/sec）※した場合、最大1.35km、最小0.45kmとなる。

【徒歩で移動する目的】

※交通信号の手引き（交通工学研究会）を参考に、歩行者の移動速度を設定

- 「散歩・ウォーキング」と回答した人が89.8%（613人）、次いで「買い物」と回答した人が87.4%（597人）。

【徒歩での時間】



【徒歩で移動する目的】



【調査目的】

- ・ バスターミナルの機能や、周辺を回遊したくなる機能について把握する。

【対象者】

- ・ 胡屋バス停（上り・下り）の利用者

【実施時期】

- ・ 令和5年2月（1日調査）

【調査方法】

- ・ 現地でのヒアリング

【回収状況】

- ・ 回収数96票

【結果概要】

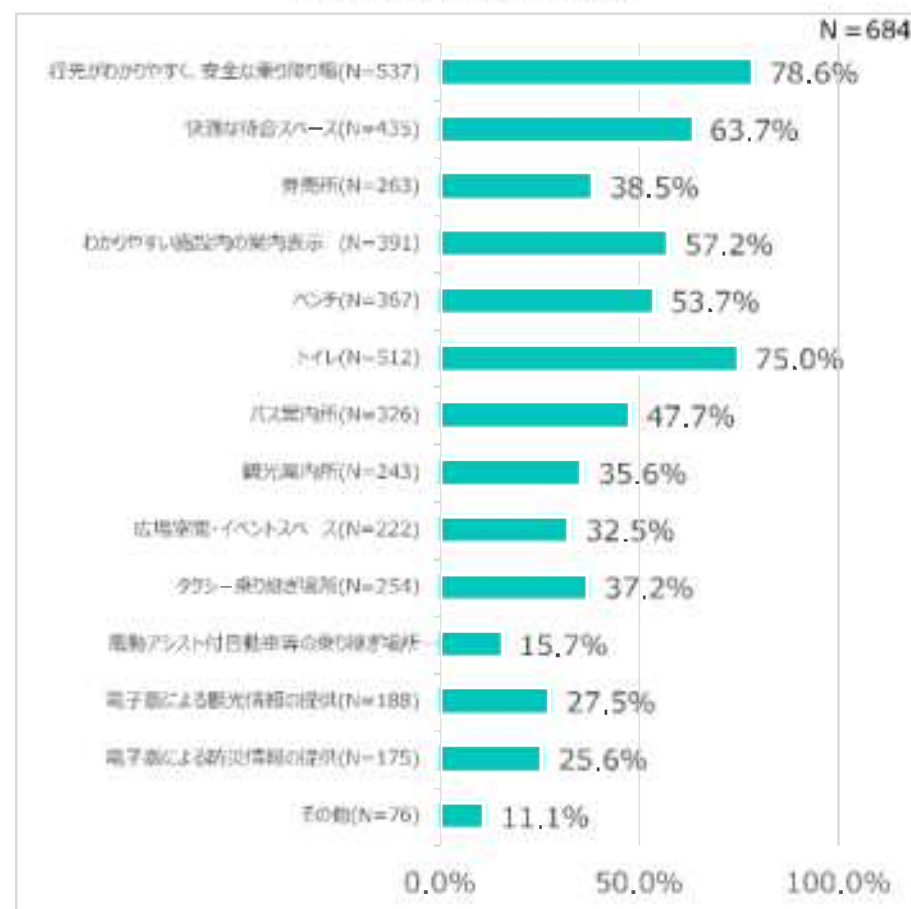
- バスターミナルへのニーズとして、分かりやすい乗り降り場、快適な待合環境（トイレも含む）が多く求められている。
- 地域の賑わい創出であるといいと思うものでは、昼の賑わい創出（販売店（日用品）、飲食店（カフェ））が求められている。一方、駐車場のニーズも高いことから、バスターミナル整備と駐車場施策とのバランスを考えていくことが重要。
- 地域の賑わい創出の取組では、安全安心なまちづくりが多かった。
- バス停利用での来訪者が歩こうと思う時間は、5～10分の割合が多くなっている。通勤・通学時は10分以内の徒歩移動が多いと推測される。

D. 胡屋バス停利用者ヒアリング

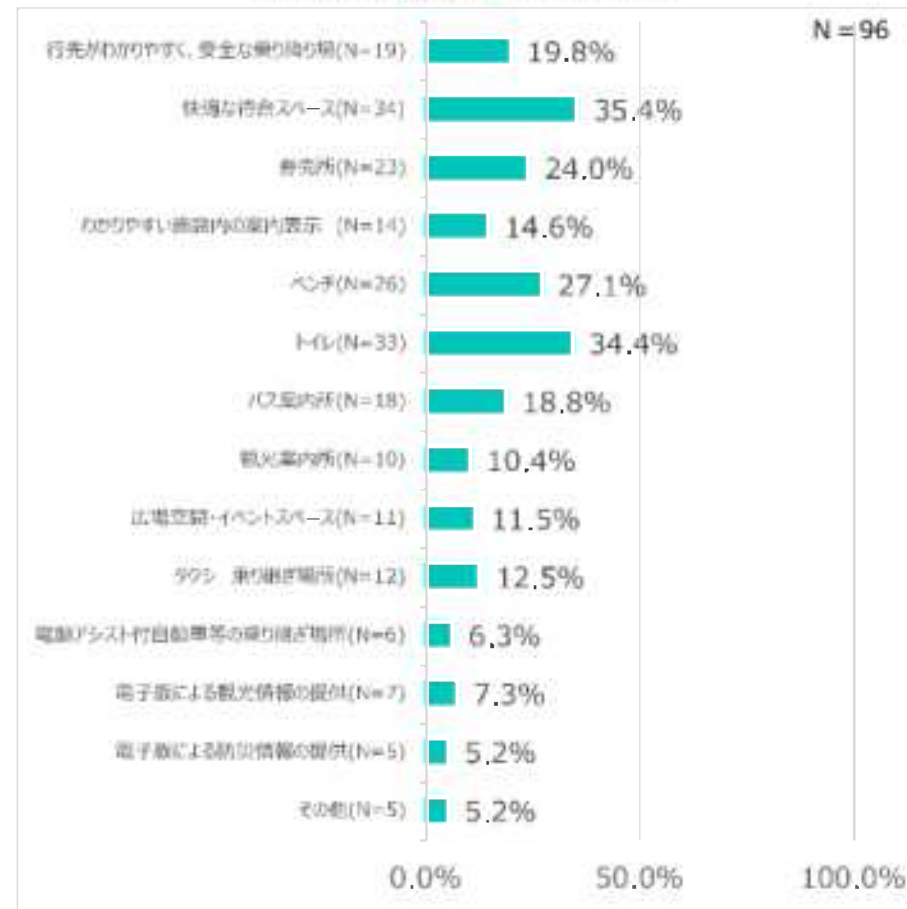
【バスターミナルのニーズ】⑩バスターミナルにあるといいと思うものをお答えください。

- バスターミナルのニーズで最も多いものは、「行先が分かりやすく、安全な乗り降り場」で74.3%（715人）、次いで「快適な待合スペース」72.9%（701人）、「トイレ」71.2%（685人）となっており、住民アンケートと同様の傾向となっている。

【胡屋周辺住民】



【胡屋バス停利用者】

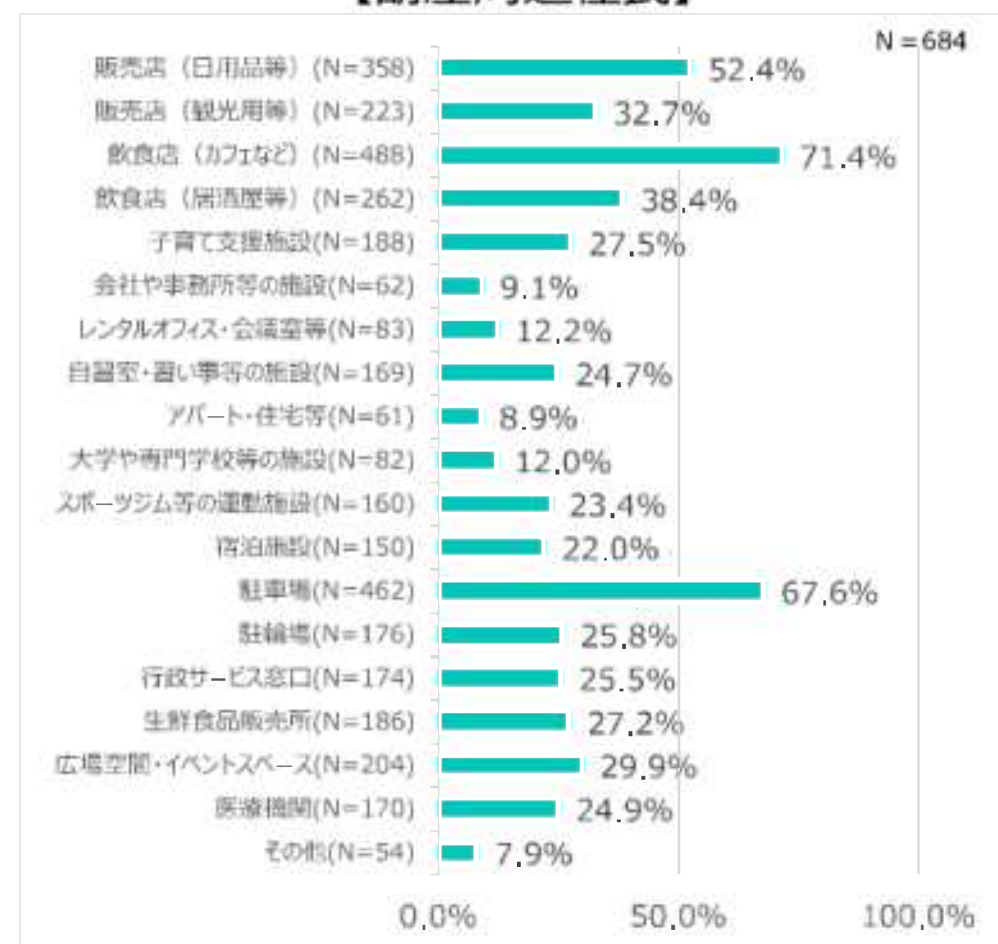


D. 胡屋バス停利用者ヒアリング

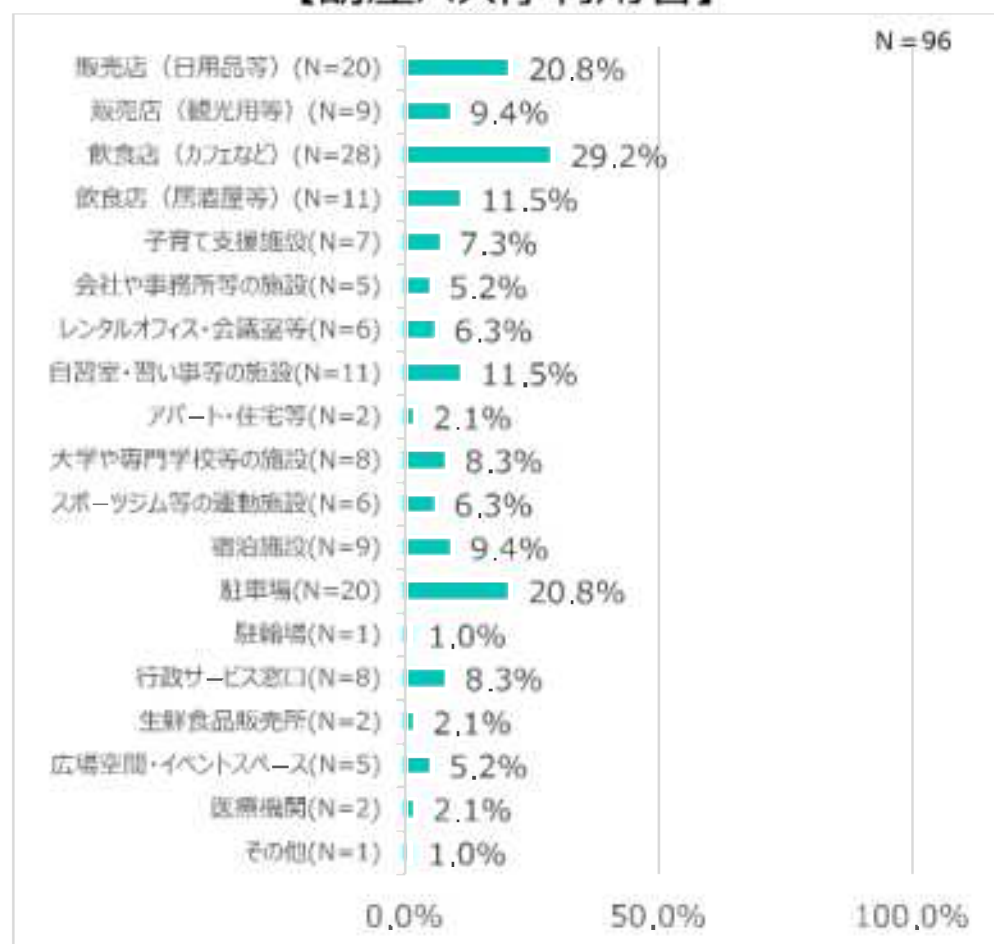
【賑わい創出のニーズ】⑪バスターミナルの整備と合わせ、地域の賑わい創出や活性化に向けて、あなたが必要と思う施設・機能をお答えください。

- 賑わい創出のニーズで最も多いものは、「飲食店（カフェなど）」で73.8%（710人）、次いで「駐車場」63.3%（609人）となっている。

【胡屋周辺住民】



【胡屋バス停利用者】



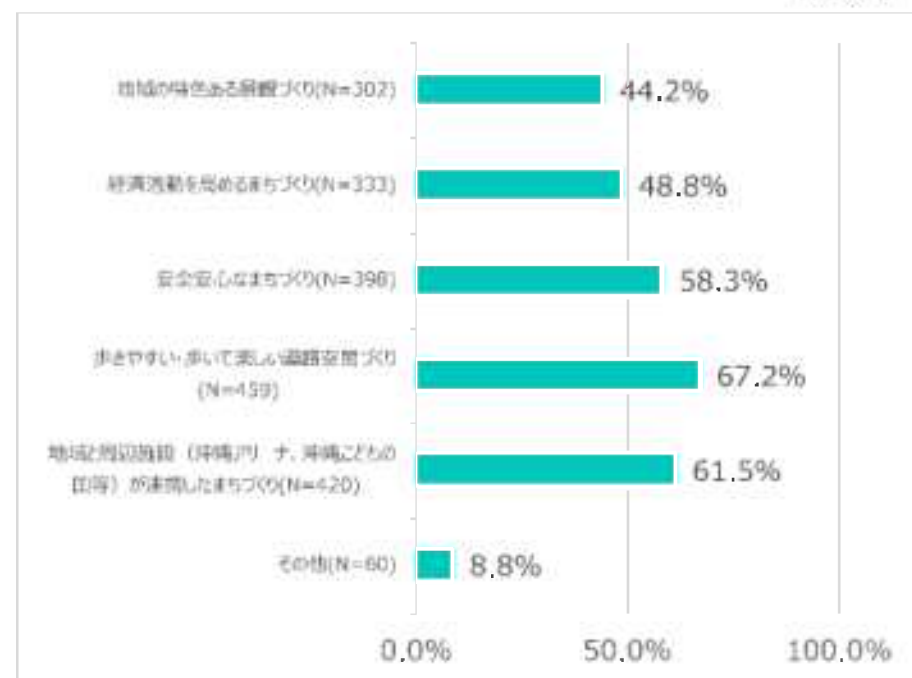
D. 胡屋バス停利用者ヒアリング

【賑わい創出の取組】⑫バスターミナルの整備と合わせ、地域の賑わい創出や活性化に向けて、あなたが必要と思う取組をお答えください。

- 賑わい創出の取組で最も多いものは、「歩きやすい・歩いて楽しい道路空間づくり」で63.5%（611人）、次いで「安全安心なまちづくり」63.2%（608人）となっている。

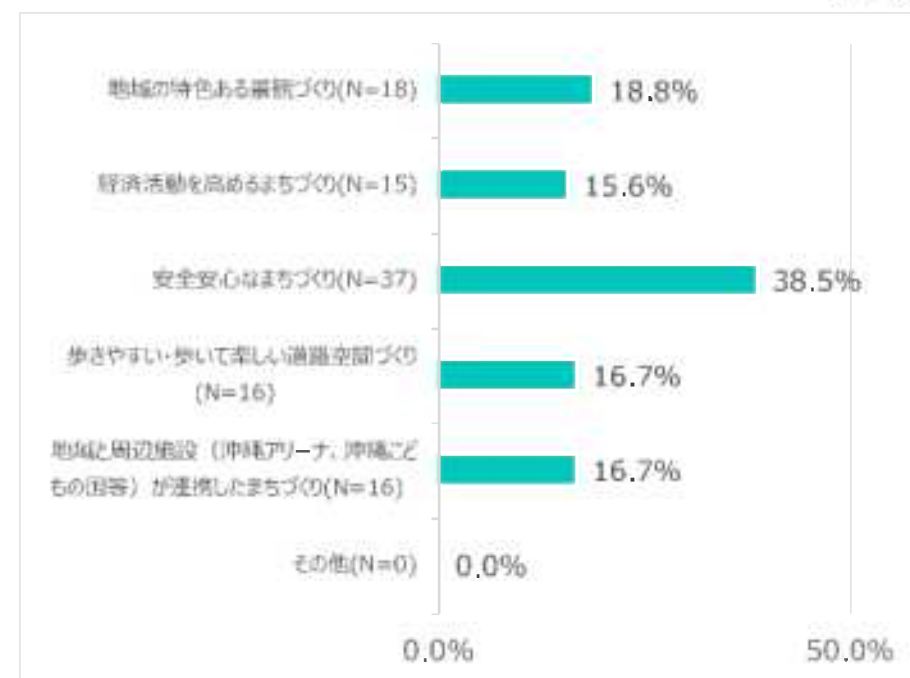
【胡屋周辺住民】

N = 684



【胡屋バス停利用者】

N = 96



【徒歩での時間】⑭普段の生活でどのくらいの時間までなら徒歩で移動するか教えてください。

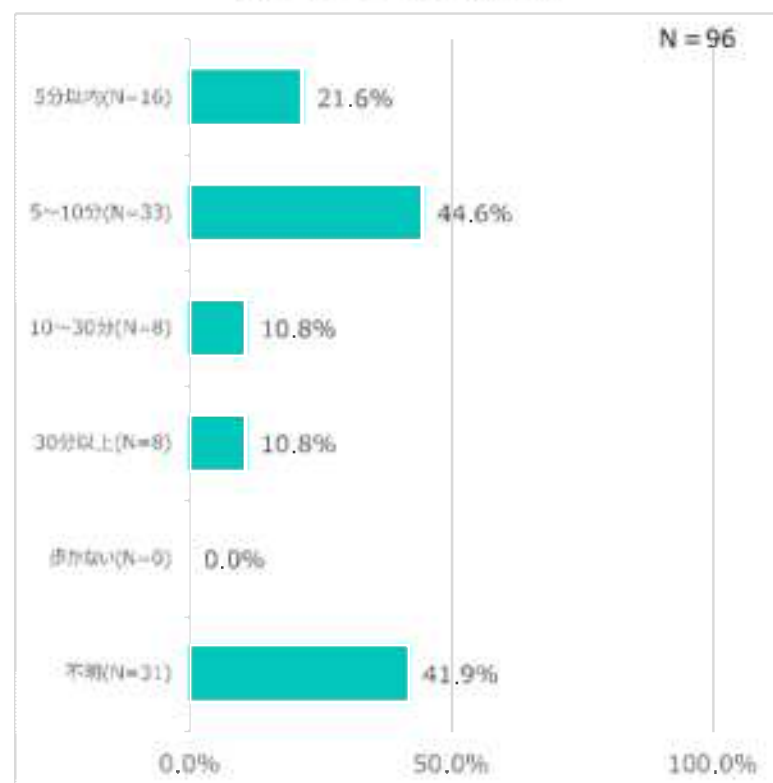
- 回答した人の中で最も多いのは「5～10分」で44.6%（33人）。歩行距離について、速度を高齢者（0.75m/sec）※した場合、最大1.35km、最小0.45kmとなる。

【徒歩で移動する目的】

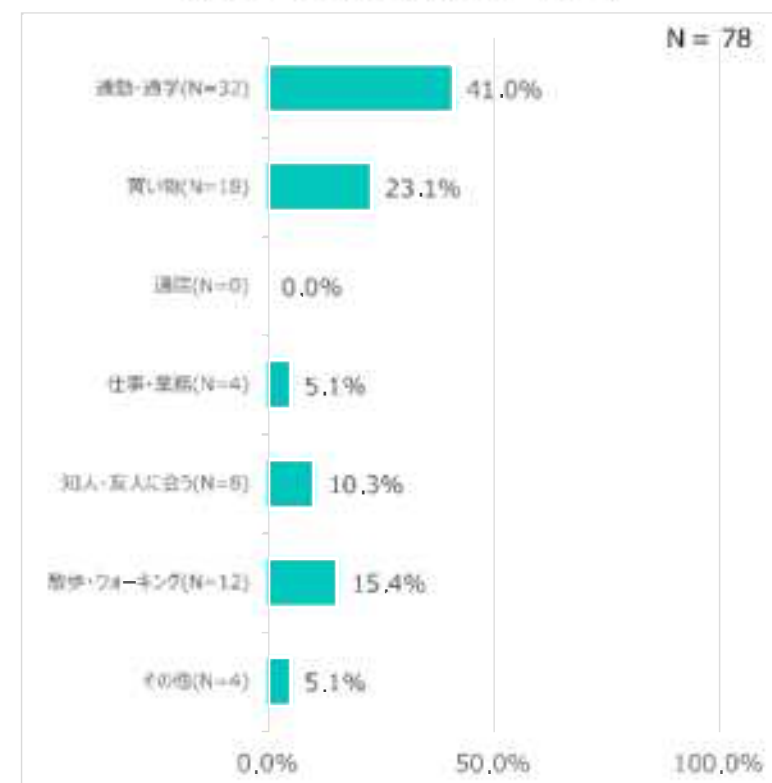
※交通信号の手引き（交通工学会）を参考に、歩行者の移動速度を設定

- 「通勤・通学」と回答した人が41.0%（32人）、次いで「買い物」と回答した人が23.1%（18人）。

【徒歩での時間】



【徒歩で移動する目的】



【調査目的】

- 対象施設との胡屋バスターミナルとの連携方法について把握する。

【対象者】

- 対象施設（沖縄アリーナ、沖縄こどもの国、沖縄市民会館・八重島公園、ミュージックタウン音市場、沖縄市立図書館、エイサー会館、沖縄市戦後文化資料展示館ヒストリート、Lagoon KOZA（ラグーンコザ）、コザ運動公園）

【実施時期】

- 令和5年3月

【調査方法】

- アンケート調査票を配布
- 1施設につき、検討概要資料1枚、調査票1枚を配布

【回収状況】

- 回収数9票

■ 主要施設周辺におけるイベント時の現地状況

- 各方面にある施設で行われるイベント時にて、渋滞状況を把握し整理を行った。

項目	沖縄アリーナ	沖縄市民会館	ミュージックタウン音市場
概要	琉球ゴールデンキングスの試合時の周辺の渋滞状況について調査（令和5年3月4日）	沖縄市民会館（大ホール）でのイベントに合わせ、イベント時の周辺の渋滞状況について調査（令和5年2月12日）	3階ホールでのライブ開催を目的に、ミュージックタウンへ来訪する人による周辺の渋滞状況について調査（令和5年2月10日）
最も混雑した時間帯	【試合開始前】18時30分時点の様子 	【開演終了】16時10分時点の様子 	【開演前】18時30分時点の様子 
問題課題	- 来訪者の多くはコザ運動公園や周辺有料駐車場等に駐車し徒歩で来訪していた。 - 県道85号線は国道58号方面へ向かう車両が多く、山内交差点において、左折車両が会場へ向かう横断歩行者で阻害されたことで、後続車による混雑が発生していた。 - タクシーの乗降も施設入口付近の狭いスペースで行っており、後続車両に影響を与えていた。 - 問題解決に向けて、タクシーやバス等の乗降スペースの確保、左折車両のスムーズな交差点処理（左折帯の整備）等が課題として想定される。	- 容量の大きい駐車場を有しており、来訪者のほとんどが自動車を利用、第二駐車場もほぼ満車状態となっていた。 - 駐車できない人は周辺の有料駐車場に止め、沖縄商工会議所前を通過して来場、歩行者がみられたものの歩道幅員は狭い。 - イベント終了後は、県道85号線へ出るための車両の交通集中により混雑が確認された。 - 問題解決に向けて、歩きやすい道路空間の確保、車以外でのアクセス手段の確保が課題として想定される。	- イベント参加者が小規模（約200名）であり、混雑は発生しなかった。 - 一方で、胡屋十字路を起点に、国道330号、県道20号線（ゲート通り、クスノキ通り）において、渋滞が確認された。 - 問題解決に向けて、県道20号線の整備が課題として想定される。

上位関連計画等の把握、整理（参考）

■資料収集（上位・関連計画、国、県、市の道路事業など）

- 上位・関連計画、関連事業を把握し、整理を行った。

	項目	概要	想定される連携事項
沖縄市	第5次沖縄市総合計画 （第2期沖縄市まち・ひと・しごと創生総合戦略）	人口減少対策や地方創生に関する取り組みを集約し、総合戦略として位置づけ	- 魅力ある景観の創出と緑のネットワーク構築 - 中心市街地の都市機能向上と街中定住促進 - 安全で快適な交通環境の整備 - 地域と共に交通安全対策を進める
	沖縄市国土強靱化計画	沖縄市の強靱化に向けて、これまで取り組んできた施策を強靱化の観点から見直しのため、基本目標や強靱化関連施策等を位置付け	- 避難場所・避難所の指定・整備 - 避難誘導対策の充実 - 要支援観光客や交通手段への配慮
	沖縄市都市計画マスタープラン	土地利用や都市施設など個別の都市計画を決定・変更する際の方向性を示す指針を位置付け	基幹バスの導入に向けた取組
	沖縄市中心市街地活性化基本計画（案）	沖縄市の中心市街地活性化に向けて、目標や実現施策等が位置付け	- 公共交通の利便性向上 - 交通結節点の整備を見据えたまちづくり - 優良建築物等整備事業（案）
	沖縄市景観形成計画	沖縄市が目指す景観形成に向けた方針や具体的施策が位置付け	- コザゲート通り地区、くすのき通り地区における道路景観形成 - クスノキによる緑のトンネルを形成 - 壁面後退によるゆとりある道路景観を形成
	沖縄市交通基本計画・総合交通戦略	沖縄市の目指す交通の基本的考え方・交通の計画目標へ向けた取組等が位置付け	- 様々な交通手段相互の乗り継ぎ利便性の向上 - 交通結節点の整備 - 駐車場の利便性の向上 - 商店街における通行環境の整備
	沖縄市地域公共交通網形成計画	公共交通の現状、移動ニーズ等から課題を抽出し、その解決に向けた施策等を位置付け	- 交通結節点の整備、基幹バスシステムの導入 - 快適なバス待ち環境の整備

■資料収集（上位・関連計画、国、県、市の道路・街路事業、まちづくり、区画整理事業等）

	項目	概要	想定される連携事項
沖縄市	中の町・安慶田地区の土地区画整理事業	・ 中の町地区、安慶田地区の土地区画整理事業	・ 街のにぎわいと良好な生活空間の創出
	パークアベニュー双方向通行化に向けた事業	・ 胡屋北交差点～沖縄市立図書館付近までの相互通行化に向けた事業	・ 市の玄関口にふさわしい空間 ・ まちの個性を活かしたにぎわいの創出
	胡屋北交差点改良事業に併せた市道整備	・ 胡屋北交差点改良事業に併せた市道整備	・ 歩行者を中心とした道路空間再配分
	沖縄市循環バス	・ 沖縄市の循環バス運行事業	・ 交通結節点との乗り入れ連携
沖縄県	那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市・北中城村地域公共交通総合連携計画	・ 沖縄県及び4市1村による、国道58号を中心とした基幹バス導入に向けた取組を記載	・ 国道58号を中心とした基幹バスとの連携 ・ 令和3年度に胡屋を交通結節点として位置づけ、将来的にはバス網再編等とも連携
	胡屋泡瀬線街路事業	・ 胡屋～高原間の4車線化事業	・ 緑の回廊軸（くすのき通り）との連携
国	胡屋北交差点改良事業	・ 交通安全・渋滞緩和に向けた交差点改良事業を実施	・ 残地の活用
	交通結節点に関する検討	・ 令和4年度より交通結節点整備に向けた調査検討を実施	・ 胡屋バスターミナルの整備に向けた調査検討

■ 情報収集（自転車や電動キックボード等の規制状況、道路交通法改正等）

- ・ 各方面の移動手段に関連する法律（道交法等）を把握し、整理を行った。
- ・ 自転車、電動キックボードについて、車道が原則であることを参考に、回遊ルートの抽出を行った。

項目	改正内容	備考
自動車	特定自動運行に係る許可制度の創設 ・ 自動運転「レベル4」の運行許可制度 ・ 遠隔監視等の体制構築、許可を受けたものの遵守事項、交通事故時の措置等	・ 自家用車は対象外 で、人口減少が進む地域で遠隔監視のもと 特定のルート を 無人で走る巡回バス などを想定
自転車	自転車安全利用五則に ヘルメット着用の努力義務化 が追加（令和4年11月1日交通対策本部決定） 1. 車道が原則、左側を通行、歩道は例外、歩行者を優先 2. 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認 3. 夜間はライトを点灯 4. 飲酒運転は禁止 5. ヘルメットを着用	【罰則等】 1. 3か月以下の懲役又は5万円以下の罰金 2. 3か月以下の懲役又は5万円以下の罰金等 3. 5万円以下の罰金 4. 5年以下の懲役又は100万円以下の罰金 5. 令和5年4月1日から努力義務化
電動キックボード	低速の電動キックボードに関する道路法の改正 ・ 最高時速が20キロ以下 の電動キックボードについて「 特定小型原動機付き自転車 」という新たな区分とし、 16歳以上で運転可能、ヘルメット着用は努力義務化 ・ 最高時速が6キロ以下 まで制限できる車両は自転車も通行可能な 歩道の走行が認められる 。 ・ 警察庁では、改正道路交通法を令和5年7月1日に施行する方針	【最高速度20キロ以下】 ・ 運転免許は不要（ただし、16歳以下は運転不可） ・ ヘルメットは努力義務化 ・ 走行道路は原則、車道や自転車専用レーン 【罰則】 ・ 交通違反は交通反則切符（青切符）や刑事処分の対象 ・ 16歳未満が運転した場合 、6か月以下の懲役または10万円以下の罰金
その他	遠隔操作型小型車（自動配送ロボット等）の交通方法等 ・ 遠隔操作により通行する車であって、最高速度や車体の大きさが一定の基準に該当するものを「 遠隔操作型小型車 」と位置付け バス停等における駐停車禁止の規制から除外する対象の拡大	・ 宅配ロボットの 最高速度は時速6km以下 と設定、歩道を通り、信号に従うなど歩行者と同様のルール ・ バス停等における駐停車禁止の規制から 除外する対象が 、一定の要件を満たす「 旅客の運送の用に用いる自動車（乗合自動車を除く。） 」に拡大

■資料収集（交通規制等）

- ・ 各方面の交通規制状況を把握・整理を行った。
- ・ 歩行者を中心とした回遊ルートの設定にあたり、車両の交通規制速度を参考に、回遊ルートの抽出を行った。



■現地調査（乗り入れ可能な移動手段）

施設名	乗り入れ可能な移動手段	備考
沖縄アリーナ	・ 徒歩、シャトルバス、タクシー、自動車	・ 無料駐車場あり、駐輪場なし※駐車場は、関係者利用のため一般は駐車不可 ・ バス転回場所あり※関係者の入退場時にのみ使用 ・ バス停が離れているため、路線バス・循環バスはバス停から徒歩での移動 ・ タクシー・バス乗降場がないため、道路上で乗降
沖縄こどもの国	・ 徒歩、シャトルバス、循環バス、タクシー、自動車、二輪車	・ 無料駐車場あり、駐輪場なし
沖縄市役所	・ 徒歩、循環バス、タクシー、自動車、二輪車	・ 無料駐車場あり、駐輪場なし
沖縄市民会館	・ 徒歩、循環バス、タクシー、自動車、二輪車	・ 無料駐車場あり、駐輪場なし
ミュージックタウン音市場	・ 徒歩、路線バス、循環バス、タクシー、自動車、二輪車	・ 有料駐車場あり、駐輪場なし
沖縄市立図書館	・ 徒歩、循環バス、タクシー、自動車、二輪車	・ 有料駐車場あり、駐輪場なし
エイサー会館	・ 徒歩、路線バス、循環バス、観光バス、タクシー、自動車	・ 周辺に有料駐車場あり
沖縄市戦後文化資料展示館 ヒストリート	・ 徒歩、タクシー	・ 駐車場、駐輪場がないため、直接乗り入れ不可 ・ 周辺に有料駐車場あり
Lagoon KOZA（ラグーンコザ）	・ 徒歩、タクシー	・ 駐車場、駐輪場がないため、直接乗り入れ不可 ・ 周辺に有料駐車場あり
コザ運動公園	・ 徒歩、路線バス、循環バス、タクシー、自動車、二輪車	・ 無料駐車場あり、駐輪場なし

交通拠点整備基本構想（案）

令和5年5月24日（水）

沖縄市 建設部 都市整備室 都市交通担当

基本構想（案）策定に向けた流れ

- 令和3年度策定したバスターミナルの整備方針（案）等を基に、胡屋地区における交通・回遊を踏まえた交通拠点整備基本構想の検討を行います。

令和3年度胡屋バスターミナル 整備方針（案）、整備イメージ（案）
（令和3年度では、まちづくりとの連携を意識し、主にバスターミナルの機能について整理）

取組（※胡屋地区周辺の交通・回遊機能を検討、反映する予定）

- ・地域ワークショップ（R4.9月済）
- ・第一回構想検討会（R4.12月済）
- ・アンケート調査（R4.12月済）
- ・講演会・意見交換会（R5.1月済）
- ・交通環境における調査整理（R5.3月済）
- ・第二回構想検討会 ⇒ **R5.5.24**

※令和5年度も引き続き検討予定

交通拠点整備基本構想（案）の取りまとめ

◆都市間交流イメージ

■東南植物樂園



出處：東南植物園提供

■沖縄アリーナ



■アメリカンビレッジ



出版：北条町観光協会公式Webサイト



■沖縄こどもの国



出典：沖縄こども新聞

■潮乃森



(平成23年)

出處：坤輿市HP

■プラザハウス

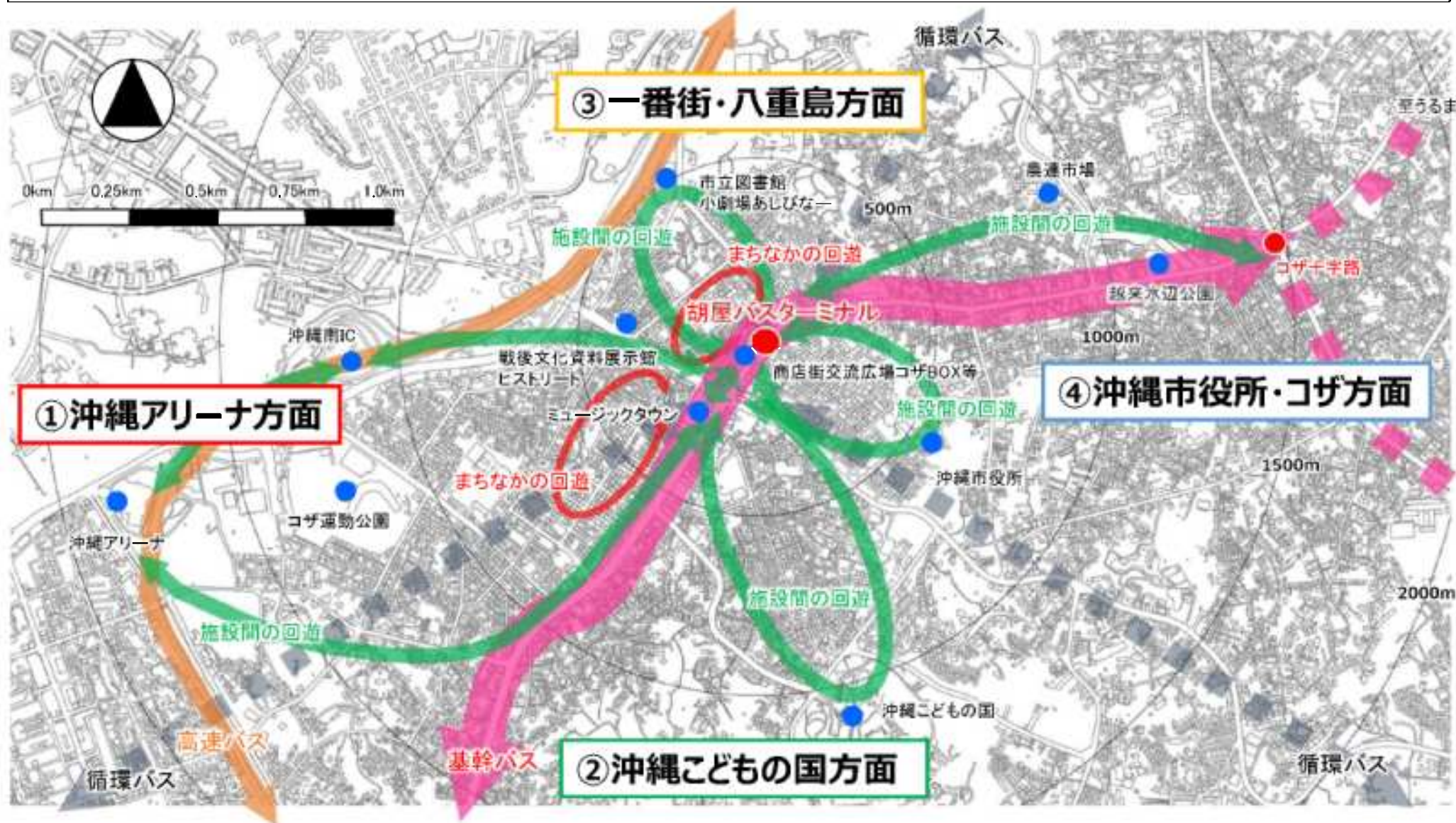


■イオンモール沖縄ライカム



◆胡屋バスターミナルを中心とした回遊イメージ

- 胡屋バスターミナルを発着点とし、各方面の回遊性を高める構想について、検討を進めます。



◆基本構想のイメージ

沖縄市中心市街地活性化基本計画 基本方針（※第3期検討中）

- （1）歴史文化やまちの個性、人々を魅了するエンターテインメントの力をいかしたにぎわいづくり
- （2）地域・住民・来訪者にとって快適で良好なまちづくり

交通拠点整備基本構想（案）

本基本構想では、胡屋バスターミナルを中心としたまちづくりの基本方針、バスターミナルの機能を整理しました。

将来像：KOZAのみんなで作る、活力に満ちたまち

【方針①】誰もが楽しめる、居心地がいい場づくり

【方針②】まちとまちの結びつきを強くする場づくり

【方針③】まちなかの結びつきを強くする場づくり

【方針④】KOZAの歴史・文化が感じられる場づくり

【方針⑤】より安全で安心なまちづくり

① 沖縄アリーナ方面

- ・ スポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出
- ・ まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

② 沖縄こどもの国方面

- ・ 沖縄こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

胡屋バスターミナル機能

【基本機能】

【交通結節機能】

【防災機能】

【地域の拠点・賑わい機能】

【サービス機能】

【景観機能】

③ 一番街・八重島方面

- ・ まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

④ 沖縄市役所・コザ方面

- ・ 安心して暮らせる環境の創出
- ・ まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出

◆交通拠点整備基本構想方針の更新

【方針①】だれもが楽しめる、居心地がいい場づくり

- ・沖縄市の商業の中心である胡屋地区（一番街商店街地区、中央パークアベニュー地区、コザゲート通り地区）において多様な人が訪れ、魅力的な空間を心地よく歩き、つどい、たたずむことができる拠点の構築を図ります。



取り組み（案）

○地域の魅力向上

- ・より長く滞在してもらえる場所の創出
- ・魅力を感じて訪れてもらえる場所の創出
- ・住みたいと思う人が暮らせる場所の創出
- ・交流、憩いの場の創出
- ・地域イベントにも活用できる空間の創出
- ・商店街の道路空間を活用した魅力の創出

◆交通拠点整備基本構想方針の更新

【方針②】まちとまちとの結びつきを強くする場づくり

- ・本島中南部の一体性を高める社会インフラとして位置づけられている基幹バスシステムと連携し、沖縄本島全体が抱える交通課題への改善や、交流機会の創出につながるよう、交通拠点機能の構築を図ります。



取り組み（案）

○都市間のアクセス機能の向上

- ・那覇市と沖縄市を結ぶ軸となる基幹バスシステムとの連携
- ・路線バス、観光バス、高速バス、タクシー等との連携
- ・まちづくりと連携した駐車場施策の促進
- ・行先が分かりやすい乗降場、上屋、待合所、デジタルサイネージ、インフォメーションセンター等の整備

◆交通拠点整備基本構想方針の更新

【方針③】まちなかの結びつきを強くする場づくり

- ・地域内のアクセス性、回遊性を高めるため、様々な交通手段との乗り継ぎ機能の強化を図り、誰もが移動しやすい、環境の構築を図ります。



取り組み（案）

○地域内の回遊性向上

- ・バス（路線、循環、シャトル）、タクシー、その他交通手段（シェアサイクル、高齢者用乗り物、観光用乗り物 等）との連携
- ・歩いて楽しい（ウォーカブル）空間の創出
- ・バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進

◆交通拠点整備基本構想方針の更新

【方針④】KOZAの歴史・文化が感じられる場づくり

- ・南北の商業景観軸と東西の交流景観軸が交わる沖縄市の顔となる地域として、KOZAの歴史や文化を感じることが出来る空間の創出を図ります。



取り組み（案）

○沖縄市が持つ個性的な空間づくり

- ・国際色豊かな街並みの形成
- ・KOZAが感じられる空間の形成
- ・沖縄市の玄関口にふさわしい空間の形成

（国道330号、パークアベニュー、ゲート通り 等）

◆交通拠点整備基本構想方針の更新

【方針⑤】より安全で安心なまちづくり

- ・訪れやすい安全で安心な環境づくりを目指します。また、災害時における防災情報などが取得できる環境づくりを目指します。



取り組み（案）

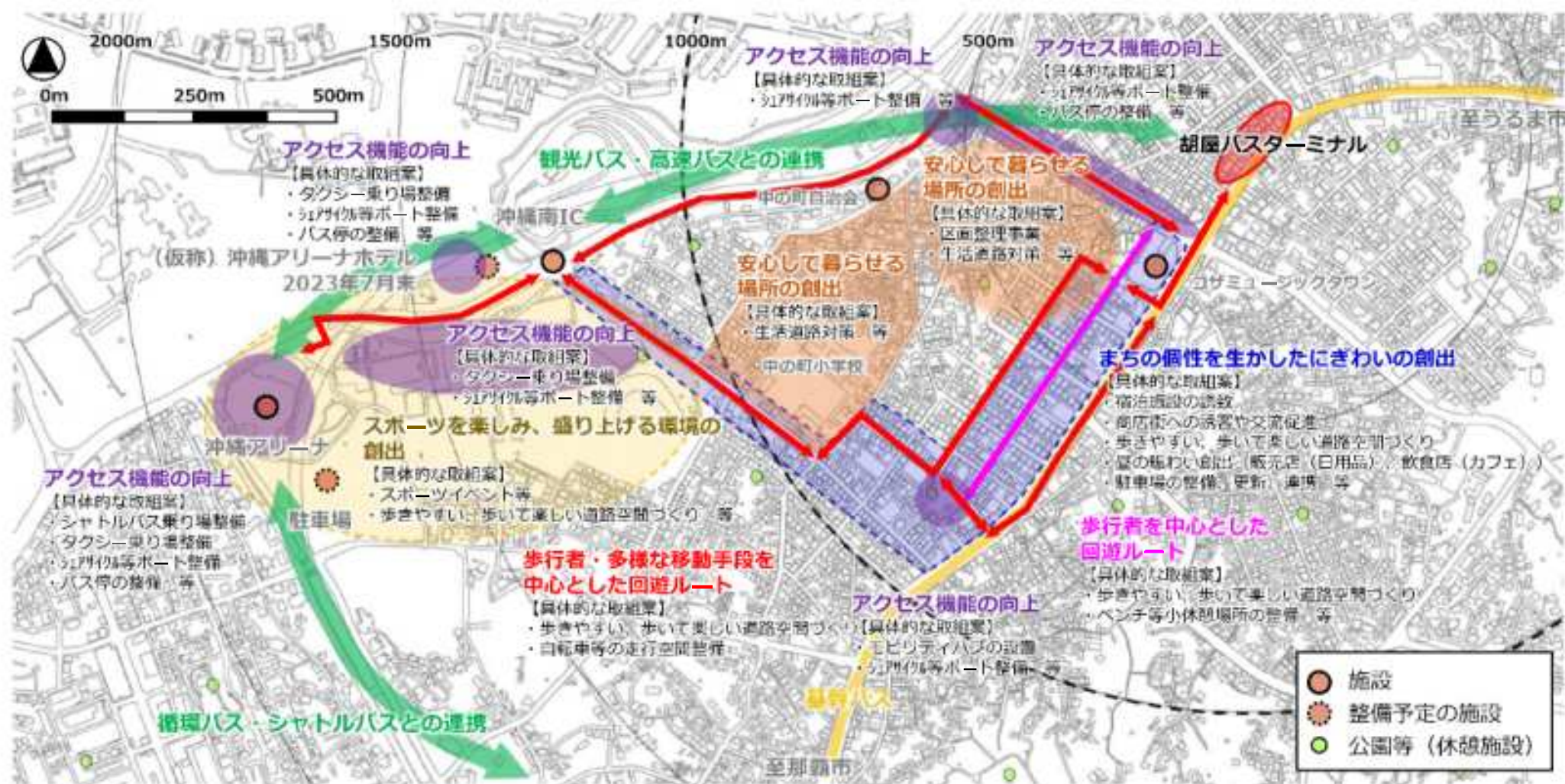
○防犯・防災機能の向上

- ・防災情報（警報、注意報等）や交通機関の運行情報等の情報発信
- ・一時避難所としての待合所・広場の活用
- ・安全・安心なまちの創出（防犯・交通安全）
- ・沖縄アリーナとの連携
- ・Wi-Fi等、災害時・緊急時の通信手段の確保

① 沖縄アリーナ方面

1. スポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出。
2. まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出
3. 安心して暮らせる環境の創出

- ・ 沖縄アリーナ方面における3つの基本方針を基に、バスターミナルと街を結ぶための、具体的な取組案（まちづくり、回遊性向上）を整理しました。



② 沖縄こどもの国方面

1. 沖縄こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出

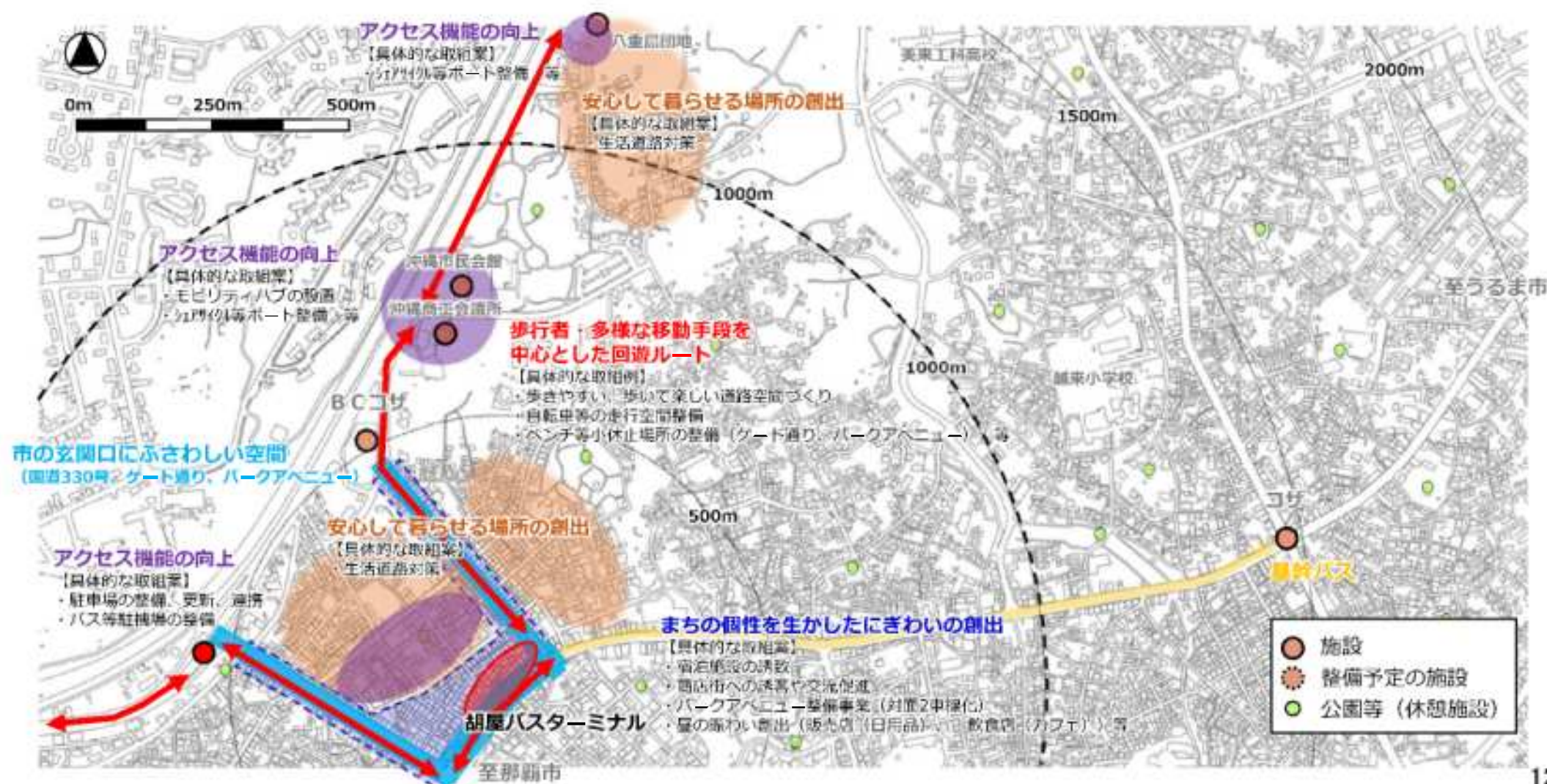
- ・ 沖縄こどもの国方面における2つの基本方針を基に、バスターミナルと街を結ぶための、具体的な取組案（まちづくり、回遊性向上）を整理しました。



③ 一番街・八重島方面

1. まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出
3. 市の玄関口にふさわしい空間の創出

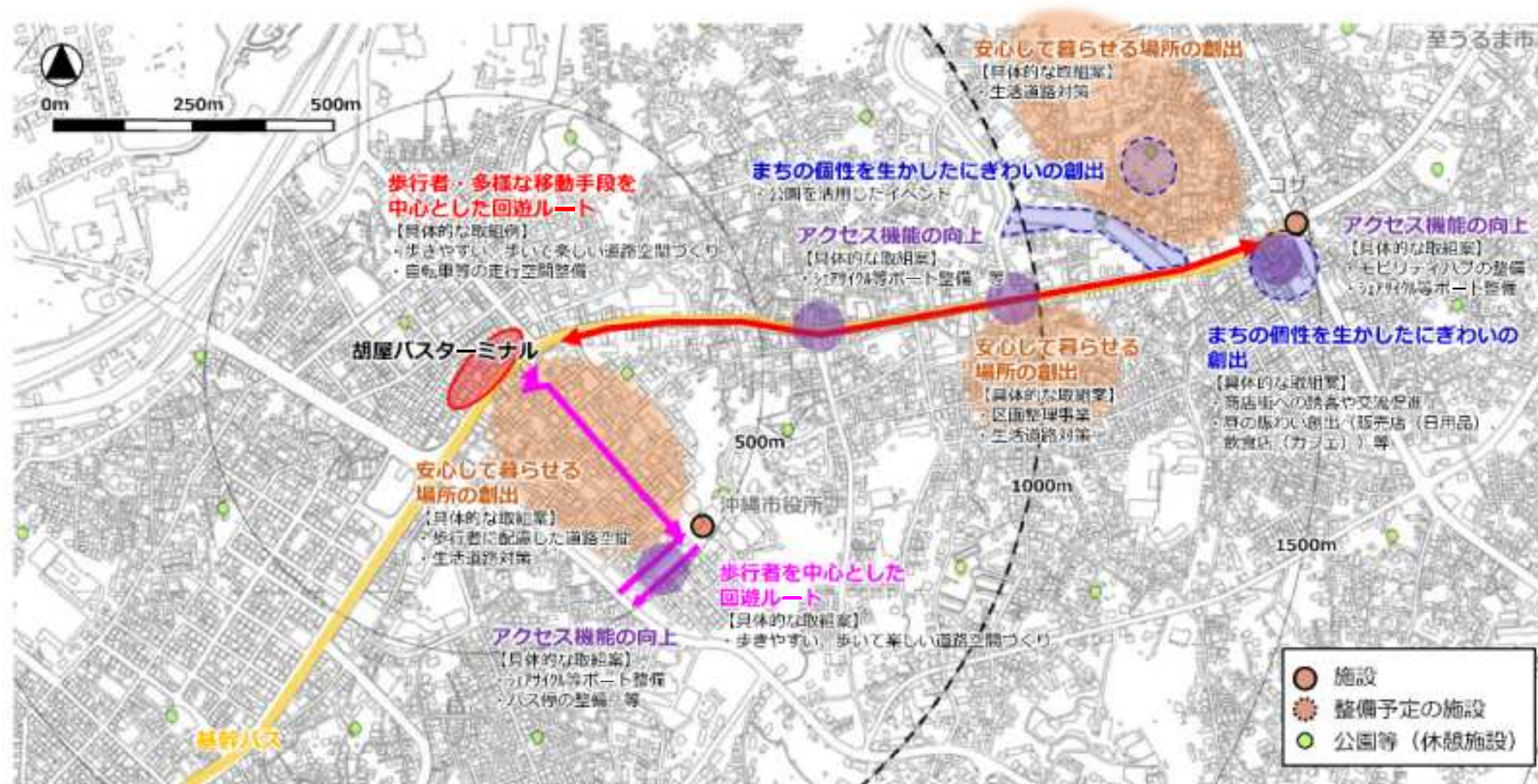
・ 一番街・八重島方面における3つの基本方針を基に、バスターミナルと街を結ぶための、具体的な取組案（まちづくり、回遊性向上）を整理しました。



④ 沖縄市役所・コザ方面

1. まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出

- ・ 沖縄市役所・コザ方面における2つの基本方針を基に、バスターミナルと街を結ぶための、具体的な取組案（まちづくり、回遊性向上）を整理しました。



具体的なアイデア

歩行者・多様な移動手段を中心とした回遊ルート

- ・自転車等の走行空間整備



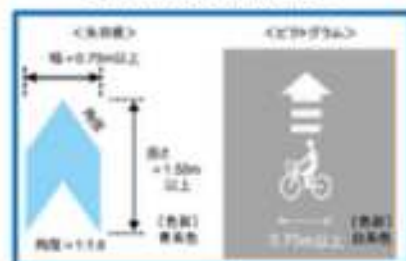
＜自転車道＞



＜自転車専用通行帯＞



＜車道混在＞



＜車道混在とする場合に併用する路面表示の標準仕様＞

【概要】歩行者と分離された自転車通行空間（国土交通省HP）

- ・国土交通省と警察庁では、合同で「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」を策定しており、このガイドラインに基づき、歩行者と分離された自転車通行空間の整備を推進しています。
- ・また、自転車通行空間を効果的、効率的に整備するため、自治体による自転車ネットワーク計画（※）の策定を促進しています。
- ・※安全で快適な自転車通行空間を効果的、効率的に整備することを目的に、面的な自転車ネットワークを構成する路線を選定し、その路線の整備形態等を示した計画。市町村が道路管理者や都道府県警察等と共同で策定。

歩行者を中心とした回遊ルート

- ・ベンチ等小休止場所の整備



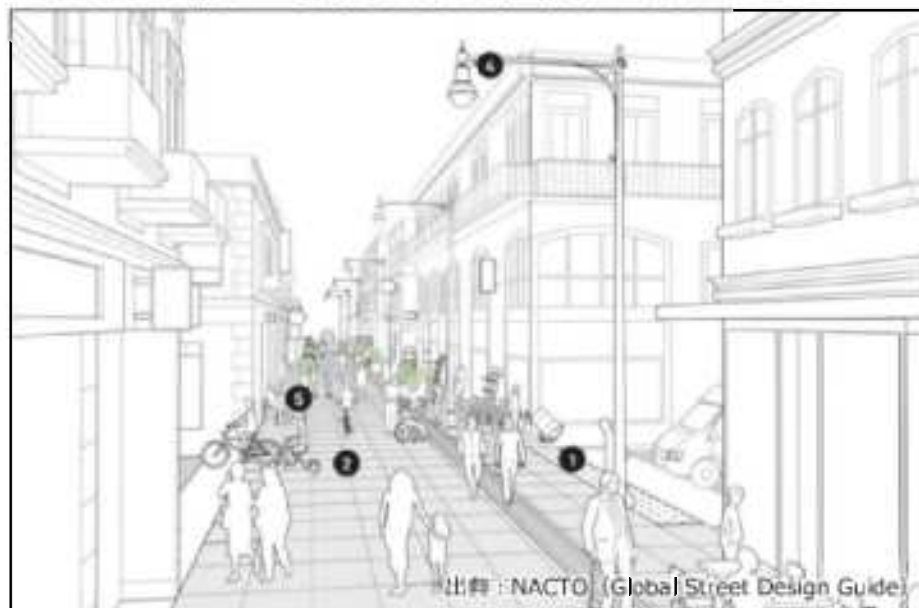
【概要】パークレット（元町通り事例より）

- ・元町エスエス会がとりまとめた「横浜元町第4期街づくり基本計画」に基づく最初の取組として実施。滞留空間の創出を求める声を受け、街のホスピタリティ向上の一環としてパークレットを導入した。元町のイメージに合った高質な家具類や照明器具を地元商店が製作・一体的に整備した。路上停車帯の転用にあたり、その代替機能を周囲の民間立体駐車場の改修等により確保している。

具体的なアイデア

歩行者を中心とした回遊ルート

- ・ 歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり



【概要】シェアードストリート（NACTO リ・デザイン例より）

- ・ 歩行者を中心とした道路空間（車や自転車等も通行可能）。舗装は歩行者の優先順位を強化するために歩道と統一化を図る。
- ①すべての入り口に警告用のストリップを設置。
 - ②配送車両用のエリアをマーク。
 - ③ベンチ、プランター、アートワーク、樹木、噴水、ポラード、駐輪場などのストリートファニチャーを使用して、共有スペース内の走行車線を描写。
 - ④安全で居心地の良いか凶を作り出すため照明を整備。
 - ⑤プランターや樹木などの造園。可動プランターを使用した、特定の時間帯の車両の交通アクセスの制限等。

まちの個性を生かしたにぎわいの創出

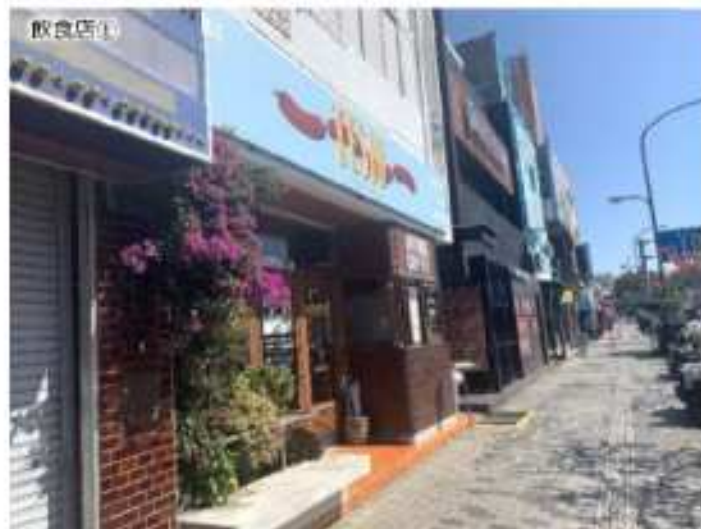
- ・ 商店街への誘客や交流促進



具体的なアイデア

まちの個性を生かしたにぎわいの創出

- ・ 宿泊施設の誘致
- ・ 昼の賑わい創出



【概要】宿泊施設、販売店 等

- ・ 店舗改修補助等により、沖縄市の一番街商店街周辺では新たな店舗が開業中。

具体的なアイデア

アクセス機能の向上

- ・モビリティハブの設置
- ・シェアサイクル等ポート整備



【概要】モビリティハブ（ENEOSホールディングス㈱資料より）

- ・「モビリティ・ハブ」とは、様々な交通モード（小型モビリティ、電動キックボード、電動アシスト付自転車、E Vバイク等）の接続・乗り換え拠点を指している。



【概要】シェアサイクルポート（東京都杉並区役所HPより）

- ・東京都杉並区ではシェアサイクリングのポート（3事業者）を整備している。

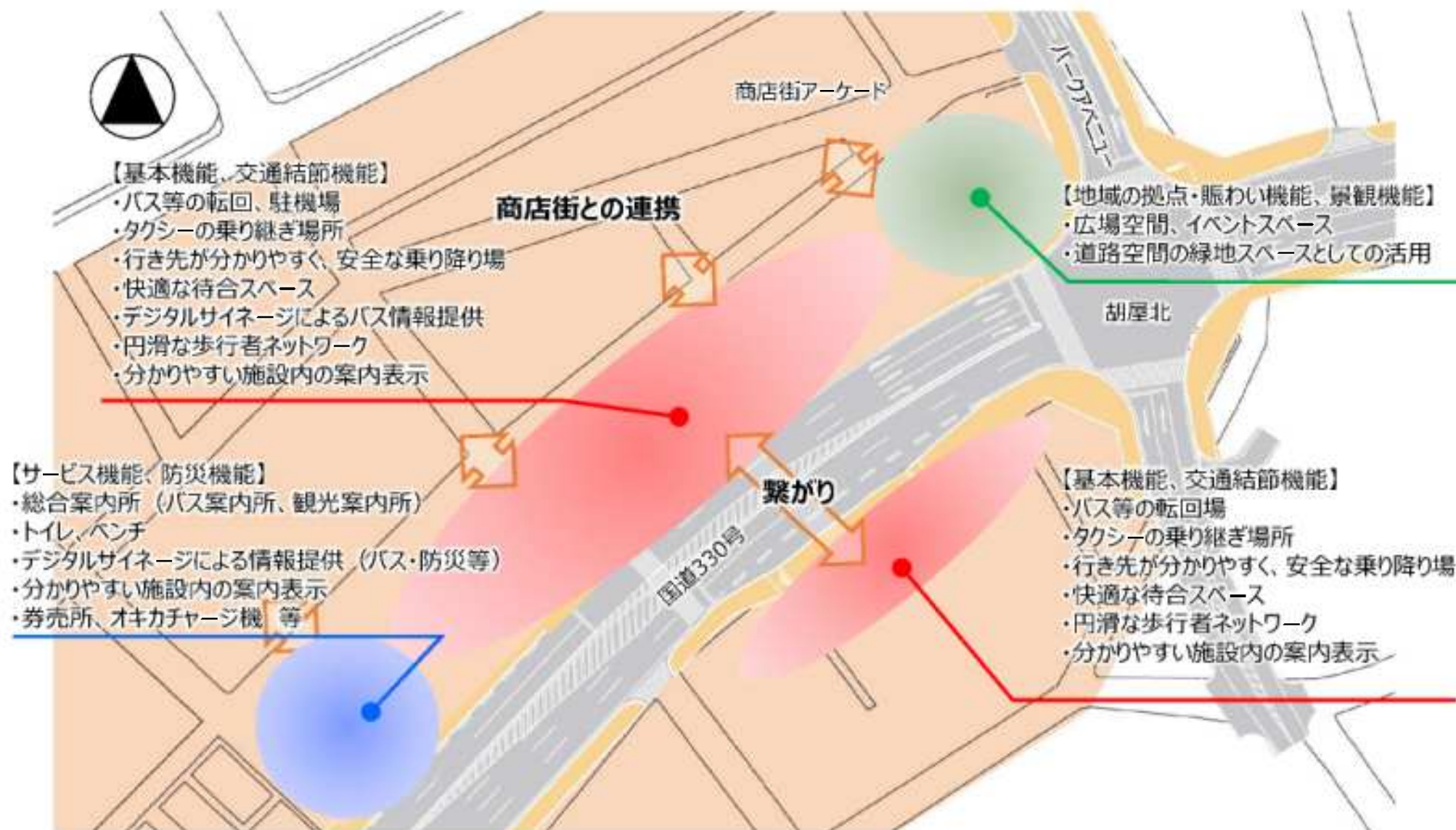
◆バスターミナル機能イメージ（案①）

※下記の図は配置（案）であり、決定したものではありません。

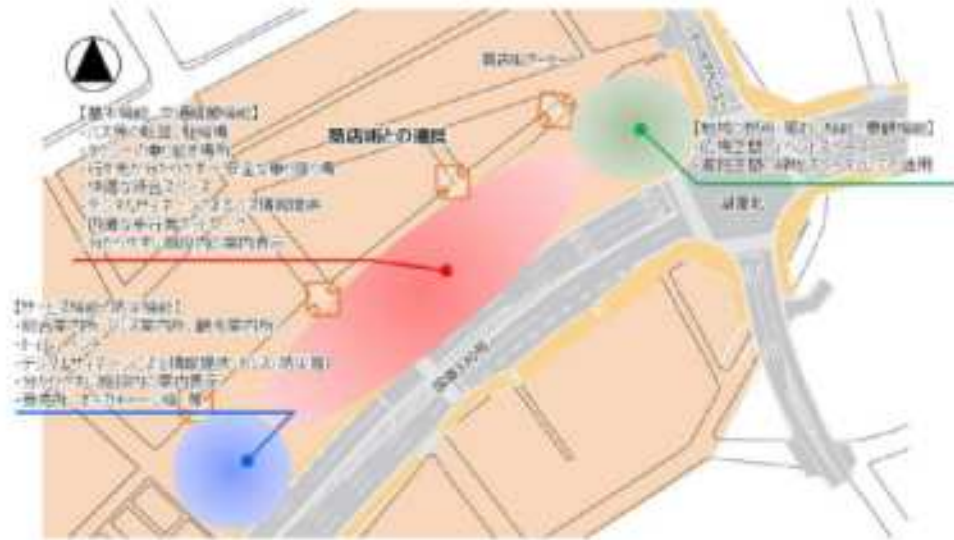
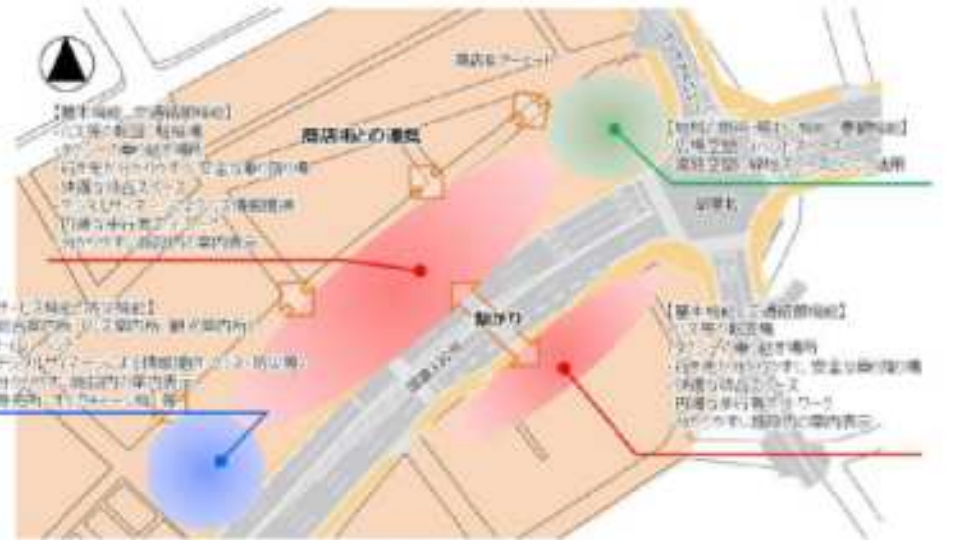


◆バスターミナル機能イメージ（案②）

※下記の図は配置（案）であり、決定したものではありません。



◆バスターミナル機能イメージ比較

案①	案②
 【概要】 - 一番街商店街に隣接してバスターミナルを整備する案 【想定される効果】 - 商店街に隣接しているため、バスターミナル利用者等が商店街に来訪する等、にぎわいの創出につながる 【留意点】 - 那覇向けのバスを右折で引き込む必要があることから、バスの定時性の低下が想定される。	 【概要】 - 案①に加え、那覇向け側もバスターミナルを整備する案 【想定される効果】 - 商店街に隣接しているため、バス利用者等が商店街に来訪する等、にぎわいの創出につながる - 那覇向けのバスを引き込まずに済むため、定時性の確保が可能と想定される。 【留意点】 - 那覇向け・うるま市向けで、バスターミナル利用者の動線を繋げるよう工夫が必要

【検討体制の構築】

- 令和4年での調査や関係者等の意見を踏まえ、令和5年度も引き続き基本構想策定に向けた検討が必要。
- 沖縄県の連携計画や国の交差点改良事業等と引き続き連携が必要。
- 検討内容に応じた関係者の追加検討が必要。

【地域・まちづくり関係者の機運醸成】

- 結節点整備の実現に向けては地域・まちづくり関係者の合意形成が重要であることから、引き続き、機運醸成の取組が必要。

【市外からの来訪者を胡屋へ引き込む取組】

- 沖縄アリーナや沖縄こどもの国等、各施設へ来訪した人々を胡屋へ引き込むため、バスターミナルを活用した連携取組が必要。

【民間事業者へのサウンディング】

- 将来的にはバスターミナルの上空や周辺に施設整備等も考えられることから、整備後の運営も見据え、民間事業者を対象としたサウンディング調査が必要。

沖縄市交通拠点整備基本構想検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 沖縄市胡屋・中央地区における交通結節点及びその他周辺整備等基本構想（以下「沖縄市交通拠点整備基本構想」という。）の策定にあたり、専門的な知見等から幅広く意見聴取を行うことを目的として、沖縄市交通拠点整備基本構想検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、「沖縄市交通拠点整備基本構想」について、様々な観点から検討及び協議し、意見を述べるものとする。

(委員会構成)

- 第3条 委員会は、市長が委嘱し、又は任命する委員をもって構成する。
- 委員の任期は、委嘱又は任命された令和5年度の9月末日までとする。
 - 委員会は別表に掲げる委員をもって構成する。

(委員長及び副委員長)

- 第4条 委員会に委員長と副委員長を各1名置き、委員の互選でこれを定める。
- 委員長は、会務を総理する。
 - 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

- 第5条 委員会の会議は、委員長が招集する。
- 会議の議長は、委員長をもって充てる。
 - 委員長は、必要があると認めるときには、委員会の会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。
 - 委員会の会議は、原則公開とする。ただし、委員長は、公開することにより公正かつ円滑な会議運営に著しい支障が生ずると認められるなど、特別な理由がある場合には、非公開とすることができる。
 - 委員長は、やむを得ない理由により委員会を開くことが出来ない場合において、事案の概要を記載した書面を委員に配布し、その意見を徴することができる。
 - 前項の規定により意見を徴した場合、委員長が次の委員会において報告しなければならない。

(代理出席)

第6条 委員がやむを得ず出席できない場合であって、市長が必要と認めたときは、委員は代理出席者を会議に出席させることができる。

(基本構想の策定)

第7条 市は、基本構想の策定にあたり、委員会で聴取した意見を十分に考慮するとともに、基本構想に反映させるよう努めるものとする。

(検討部会)

第8条 委員会は、必要に応じて検討部会を設置することができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、建設部都市整備室都市交通担当において処理する。

(補則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、令和4年11月9日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年4月17日から施行する。

別表

分類	No.	役割	所属	役職
学識者	1	委員	琉球大学	名誉教授
	2	委員	琉球大学工学部工学科 社会基盤デザインコース	准教授
市民・利用者	3	委員	胡屋自治会	会長
	4	委員	センター自治会	会長
	5	委員	中の町自治会	会長
	6	委員	まちづくりNPO コザまち社中	理事長
	7	委員	社会福祉法人 沖縄市社会福祉協議会	事務局長
	8	委員	一般社団法人 沖縄市観光物産振興協会	会長
商業事業者	9	委員	コザ商店街連合会	副会長
	10	委員	沖縄商工会議所 中小企業振興部	部長
行政	11	委員	内閣府沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課	課長
	12	委員	内閣府沖縄総合事務局 開発建設部 建設産業・地方整備課	課長
	13	委員	内閣府沖縄総合事務局 運輸部 企画室	室長
	14	委員	内閣府沖縄総合事務局 南部国道事務所	副所長
	15	委員	沖縄県 企画部 交通政策課	課長
	16	委員	沖縄市 企画部	部長
	17	委員	沖縄市 建設部	部長
	18	委員	沖縄市 建設部	参事
	19	委員	沖縄市 経済文化部	部長
交通関係者	20	委員	一般社団法人 沖縄県バス協会	専務理事
	21	委員	一般社団法人 沖縄県ハイヤー・タクシー協会	事務局長
オブザーバー			内閣府沖縄総合事務局 南部国道事務所 管理第2課	課長
オブザーバー			独立行政法人 都市再生機構九州支社 沖縄まちづくり支援事務所 まちづくり支援課	課長

沖縄市交通拠点整備基本構想庁内連絡会設置要綱

(令和5年4月10日決裁)

(趣旨)

第1条 この要綱は、沖縄市交通拠点整備基本構想庁内連絡会を設置するにあたり必要な事項を定める。

(名称)

第2条 本連絡会は沖縄市交通拠点整備基本構想庁内連絡会（以下「連絡会」という。）とする。

(構成員)

第3条 連絡会の構成員は、次に掲げる関係部局をもって構成する。

- (1) 企画部政策企画課
- (2) 企画部プロジェクト推進室プロジェクト推進担当
- (3) 経済文化部観光スポーツ振興課
- (4) 経済文化部商工振興課
- (5) 経済文化部企業誘致課
- (6) 経済文化部文化芸術課
- (7) 建設部都市整備室都市計画担当
- (8) 建設部区画整理課
- (9) 建設部道路課
- (10) 建設部公園・みどり課
- (11) 建設部計画調整課
- (12) 総務部防災課
- (13) その他、連絡会にて必要と求められた課

(公務)

第4条 連絡会は、沖縄市胡屋・中央地区における交通結節点及びその他周辺整備等基本構想の策定にあたり、関係各課と業務の情報共有を図り、策定に関する意見交換を行う。

(連絡会)

第5条 連絡会は、建設部都市整備室都市交通担当が招集し開催するものとする。

(事務局)

第6条 連絡会事務局は、建設部都市整備室都市交通担当におく。

(要綱の見直し)

第7条 連絡会は必要に応じこの要綱の規定の見直しを行うものとする。

2 任期中の要綱の見直しは、構成員の定員の過半数の賛成を以て了承されるものとする。

(任期)

第8条 構成員の任期は依頼された年度の本までとする。

附則

(施行期)

この要綱は、決裁日から施行する。